

ESMPRO®/AutomaticRunningController Ver5.5

セットアップカード

Express5800 シリーズ

UL1046-P01

- 第1章 製品内容
- 第2章 セットアップの準備
- 第3章 セットアップの方法
- 第4章 スケジュール運転の設定
- 第5章 ジョブの登録方法
- 第6章 CLIENT 監視機能
- 第7章 ユーティリティ
- 第8章 注意事項
- 第9章 障害発生時には
- 第10章 UPS 交換後の設定
- 第11章 用語集

第12版
2024年6月

© NEC Corporation 2024

ごあいさつ

このたびは ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.5をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。

本書は、お買い上げ頂きましたセットの内容確認、セットアップの内容、注意事項を中心に構成されています。
ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.5をお使いになる前に、必ずお読みください。

Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

CLUSTERPRO、ESMPROは、日本電気株式会社の登録商標です。

Smart-UPS、PowerChute、APC は、Schneider Electric Industries SAS またはその関連会社の登録商標または商標です。

VMware is a registered trademark or trademark of Broadcom in the United States and other countries. The term "Broadcom" refers to Broadcom Inc. and/or its subsidiaries.

その他の会社および製品の名称は、総てそれぞれの所有する登録商標または商標です。

更新履歴

版数	更新日付	更新内容
第1版	2022/04/25	新規作成
第2版	2022/07/29	上書きインストールについての記載を修正
第3版	2022/09/22	「3.1 ESMPRO/AutomaticRunningController のインストール」の上書きインストールについての記載を修正、および、図を追加
第4版	2022/10/31	「3.1 ESMPRO/AutomaticRunningController のインストール」の記載変更 「3.1.1 新規インストールの場合」「3.1.2 上書きインストールの場合」「3.1.3バージョンアップインストールの場合」の項目追加 「3. 5 ESMPRO/AutomaticRunningController のアンインストール」の記載変更
第5版	2022/12/28	サポート OS を更新
第6版	2023/02/09	対象機種を更新 「3.2 ESMPRO Platform Management Kit からのインストール」の注意を更新 電源切断時に実施するジョブの説明を更新 「5.3.1 電源切断時に起動するジョブの登録方法」
第7版	2023/02/13	「2.1 ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップ環境」「<ハードウェア>」に「動作環境一覧」情報を追加
第8版	2023/03/31	保守バンドル製品の型番を削除
第9版	2023/07/31	「■手動によるログ採取方法」の取得パスの記載を修正
第10版	2024/02/29	「7.1 acpoff.exe」誤字・脱字修正
第11版	2024/06/06	VMware 製品の商標登録を修正
第12版	2024/06/28	「9.9 Collectlog および IPMI ログ」に装置情報収集ユーティリティの情報を追記

目次

第1章	製品内容	6
第2章	セットアップの準備	7
2.1	ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップ環境	7
2.2	ESMPRO/AutomaticRunningController の構成例	10
第3章	セットアップの方法	11
3.1	ESMPRO/AutomaticRunningController のインストール	11
3.1.1	新規インストールの場合	12
3.1.2	上書きインストールの場合	17
3.1.3	バージョンアップインストールの場合	21
3.2	ESMPRO Platform Management Kit からのインストール	25
3.3	ESMPRO_AC 環境ウィザードによる設定	26
3.3.1	ESMPRO/AutomaticRunningController の動作環境の設定 (環境設定ウィザードボタン)	27
3.3.2	マルチサーバ構成の設定 (「マルチサーバの構成の設定」(AMCの起動) ボタン)	38
3.4	ライセンスキーの登録	39
3.5	ESMPRO/AutomaticRunningController のアンインストール	41
第4章	スケジュール運転の設定	45
4.1	スケジュール運転によるサーバの自動運転	45
第5章	ジョブの登録方法	51
5.1	ジョブ登録画面の起動方法	52
5.2	電源投入時のジョブ登録方法	53
5.3	電源切替時のジョブ登録方法	57
5.3.1	電源切替時に起動するジョブの登録方法	57
5.3.2	電源異常切替時に起動するジョブの登録方法	61
5.4	ジョブ登録の保存	64
第6章	CLIENT 監視機能	66
6.1	制御端末側/連動端末側の設定	66
6.2	Client 監視モジュールのインストール	69
6.3	Client 監視機能を活用した運用	72
6.4	Client 監視機能のアンインストール	75
第7章	ユーティリティ	78
7.1	acpowoff.exe	78
7.2	WAITJOB.EXE	79
7.3	GetAcVer.exe	80
第8章	注意事項	83
8.1	セットアップ関連	83
8.2	運用関連	83
8.3	PowerChute Business Edition 連携関連	86
8.3.1	共通	86
8.3.2	ESMPRO/UPSManager Ver.2.8 (PowerChute Business Edition セット)と連携	87
8.4	通信ポート番号関連	88
8.5	共有フォルダ関連	90

8.6	AC-LINK 関連.....	90
8.7	ウィルススキャンソフト関連.....	90
第9章	障害発生時には.....	91
9.1	ESMPRO/AutomaticRunningController ログ.....	91
9.2	ESMPRO/AC マルチサーバオプションログ.....	93
9.3	イベントログ.....	97
9.4	クラスタシステムのログ採取.....	97
9.5	ESMPRO/UPSManager のログ採取.....	97
9.6	PowerChute Business Edition のログ採取.....	98
9.7	バージョン情報.....	98
9.8	SNMP カードからの情報採取.....	99
9.8.1	SNMP カードの情報 (A)	101
9.8.2	SNMP カードの情報 (B)	108
9.8.3	SNMP カードの情報 (C)	116
9.9	Collect ログの採取.....	123
第10章	UPS 交換後の設定.....	124
第11章	用語集.....	125

第1章 製品内容

ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.5のパッケージの内容は、製品に同梱されている構成品表に記載されています。

添付品が全部そろっているかどうか、確認してください。

第2章 セットアップの準備

ESMPRO/AutomaticRunningController をご使用になるためには、コンピュータの環境を準備していただく必要があります。本章の要件を満たした後に ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップを実行してください。セットアップの方法は、第3章で詳しく説明しています。

2.1 ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップ環境

ESMPRO/AutomaticRunningController をセットアップするためには、次の環境が必要です。

<ハードウェア>

- 対象機種 : Express5800シリーズ、iStorage NSシリーズ、NX7700xシリーズ、DELL PowerEdge R750/R750xs/R650/R650xs/R550/R450

最新の対応HW 状況は、以下をご参照ください。

<https://jp.nec.com/esmpro/ac/>

→ 動作環境

→ 動作環境一覧

- メモリ : 23.0MB以上
- 固定ディスクの空き容量 : 60.0MB以上
- HW/BIOS機能(*) : UPSを使用しない構成でWOL(Wake On LAN)機能を使ってサーバのリモート起動、リモートシャットダウンを利用する場合は、WOL(Wake On LAN)機能を実装しているサーバのOSのシャットダウンで、電源OFFが可能なサーバ

(*)

機種によっては、Wake On LAN機能が提供されていない場合があります。機能が提供されていない機種は、Wake On LAN機能を有効にすることができません。これらの機種は、リモート起動を含め自動運転の起動機能は実現できません。

また、スタートメニューなどからのシャットダウンの起動にてサーバの電源がOFFされないサーバでは、自動運転の停止機能の場合にも同様に電源がOFFできません。この場合には、その後の自動起動も出来ません。

これらの機能制限は、サーバ本体のHW仕様等に依存するため、導入の際は、あらかじめ使用するサーバ本体HWおよびOSを確認してください。

(同一装置であってもBIOSのバージョンに依存する場合があります。)

- ※ サーバの電源管理を行う場合には、Smart-UPS相当無停電電源装置が必要になります。Smart-UPS相当無停電電源装置とサーバの接続方法や運用方法は、Smart-UPS相当無停電電源装置添付の取扱説明書を参照してください。

<ソフトウェア>

・ OS

Windows Server 2022 Standard/Datacenter /Essentials
Windows Server 2019 Standard/Datacenter /Essentials
Windows Server 2016 Standard/Datacenter /Essentials
Windows Server 2012 R2 Standard/Datacenter
Windows Server 2012 Standard/Datacenter
Windows 11 Pro ※1
Windows 10 Pro ※1

最新の対応OS 状況は、以下をご参照ください。

https://jpn.nec.com/esmpro_ac/

→ 動作環境

→ 対応OS 一覧

- ※ 仮想化ソフトウェア (VMware ESXi 6/7/8) の仮想マシン上に ESMPRO/AutomaticRunningControllerとESMPRO/AC Enterpriseをインストールして制御端末として動作させ、マルチサーバ構成の電源管理自動運転を行うことも可能です。
- ※ ESMPRO/AutomaticRunningControllerをx64のOSで動作させる場合、WOW64がサポートされている必要があります。
- ※ Windows Server IoT 2019 for Storage Workgroup Edition、Windows Storage Server 2016/2012 R2は、iStorage NSシリーズのみに対応しています。
<https://jpn.nec.com/istorage/product/nas/ns/lineup.html?>
- ※1 当該OSは「WebSAM SigmaSystemCenterの管理サーバ」 として使用することはできません。

- ・ 連携ソフトウェア
以下の用途で電源管理/自動運転を行う場合には、適切な制御端末用ソフトウェアをセットアップしてください。

＜UPSをネットワーク経由で制御し電源管理/自動運転を行う＞

ESMPRO/AC Enterprise

＜PowerChute Business Editionと連携して電源管理/自動運転を行う＞

- ESMPRO/UPSManager Ver2.8 (PowerChute Business Editionセット)と連携する場合
ESMPRO/UPSManager Ver2.8 (PowerChute Business Editionセット)

＜UPSを使用せずに自動運転を行う＞

ESMPRO/AC Advance (複数サーバでマルチサーバ構成を組む場合に必要となります)

＜ESMPRO/ServerManagerと連携してUPS管理を行う＞

ESMPRO Platform Management Kit内のESMPRO/ServerManager Ver. 7.12で、管理対象機器としてUPSをご利用になる場合は、ESMPRO Platform Management Kit内のESMPRO/AutomaticRunningControllerまたはESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.5を組み合わせてご利用願います。

ESMPRO Platform Management Kit内のESMPRO/AutomaticRunningController をインストールした場合、ライセンスキーの登録を行うことなく ESMPRO/AutomaticRunningController をインストールすることは可能です。しかし、ライセンスキーを登録しない場合、ソフトウェア動作は無停電電源装置(UPS)の管理のみに制限されます。無停電電源装置(UPS)の管理以外の機能を使う場合には、以下の製品ライセンスキーをご購入の上で、ライセンスキーの登録をお願いします。

UL1046-P01

＜WebSAM SigmaSystemCenterと連携してUPS管理を行う＞

ESMPRO/AC Enterprise

ESMPRO/AutomaticRunningControllerおよび各オプションパッケージ製品のアップデートを下記サイトに公開しています。未適用のアップデートがございましたら、ダウンロードし適用してください。

<https://www.support.nec.co.jp/PSHome.aspx>

- 修正物件ダウンロード
- 製品名・カテゴリから探す
- ESMPRO/AutomaticRunningController

2.2 ESMPRO/AutomaticRunningController の構成例

- (1) UPSをネットワーク経由で制御し電源管理/自動運転を行う

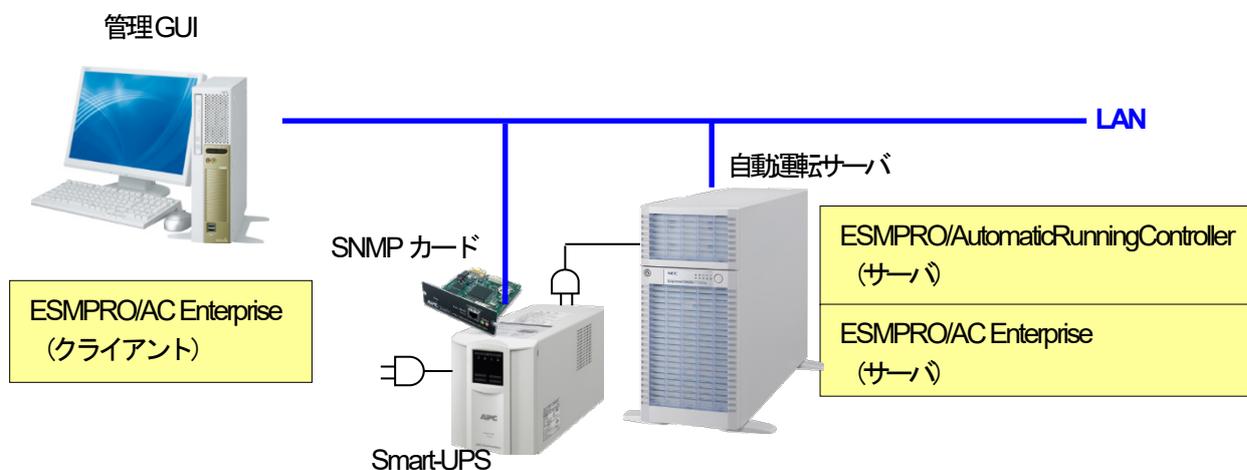


図 2.2-1

- (2) PowerChute Business Editionと連携して電源管理/自動運転を行う

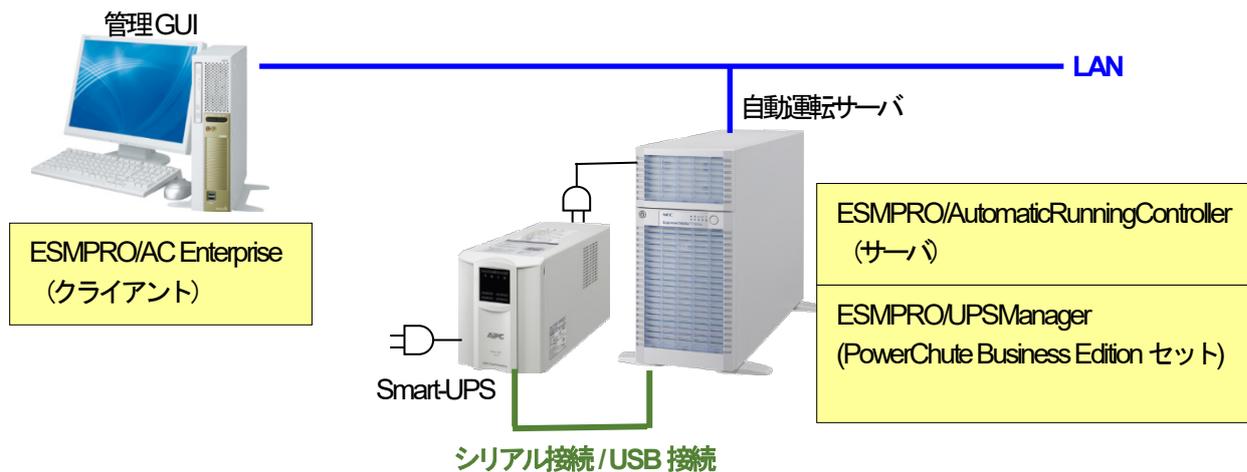


図 2.2-2

- (3) UPSを使用せずに自動運転を行う

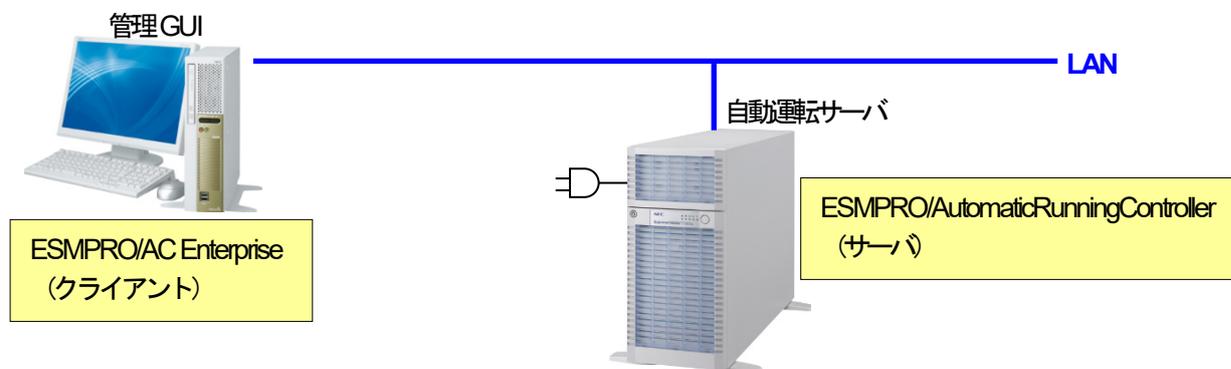


図 2.2-3

複数サーバでマルチサーバ構成を組む場合の構成例は、ESMPRO/AC Enterprise、ESMPRO/AC Advance 等（ともにオプション製品）の資料をご参照ください。

第3章 セットアップの方法

3.1 ESMPRO/AutomaticRunningController のインストール

Administrator もしくは Administrator 権限のあるユーザでコンピュータにログオンし、ラベルに『ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.5』と記載されているCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。

『ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.5』はアンインストール時にも必要になりますので、大切に保管願います。

注意

- ESMPRO/AutomaticRunningController のHP より最新のパッチ/修正モジュールを確認し、最新のアップデートを適用願います。
https://jpn.nec.com/esmpro_ac/update.html?
- 上位バージョンがインストールされている場合は、インストールは行えません。エラーとなります。
- インストールの実行中に「終了」および「キャンセル」ボタンを押すと、インストール中止の確認のメッセージが表示されます。そのメッセージボックスで「終了」ボタンを押すと、インストールは中止されます。その場合、途中で転送されたファイルの削除は行われませんのでご注意ください。
- CD-ROM ドライブをご利用できない場合は、『ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.5』の内容で iso イメージファイルを作成しマウントしてインストールを行ってください。

3.1.1 新規インストールの場合

- (1) ドライブの『Setupac.exe』を起動します。

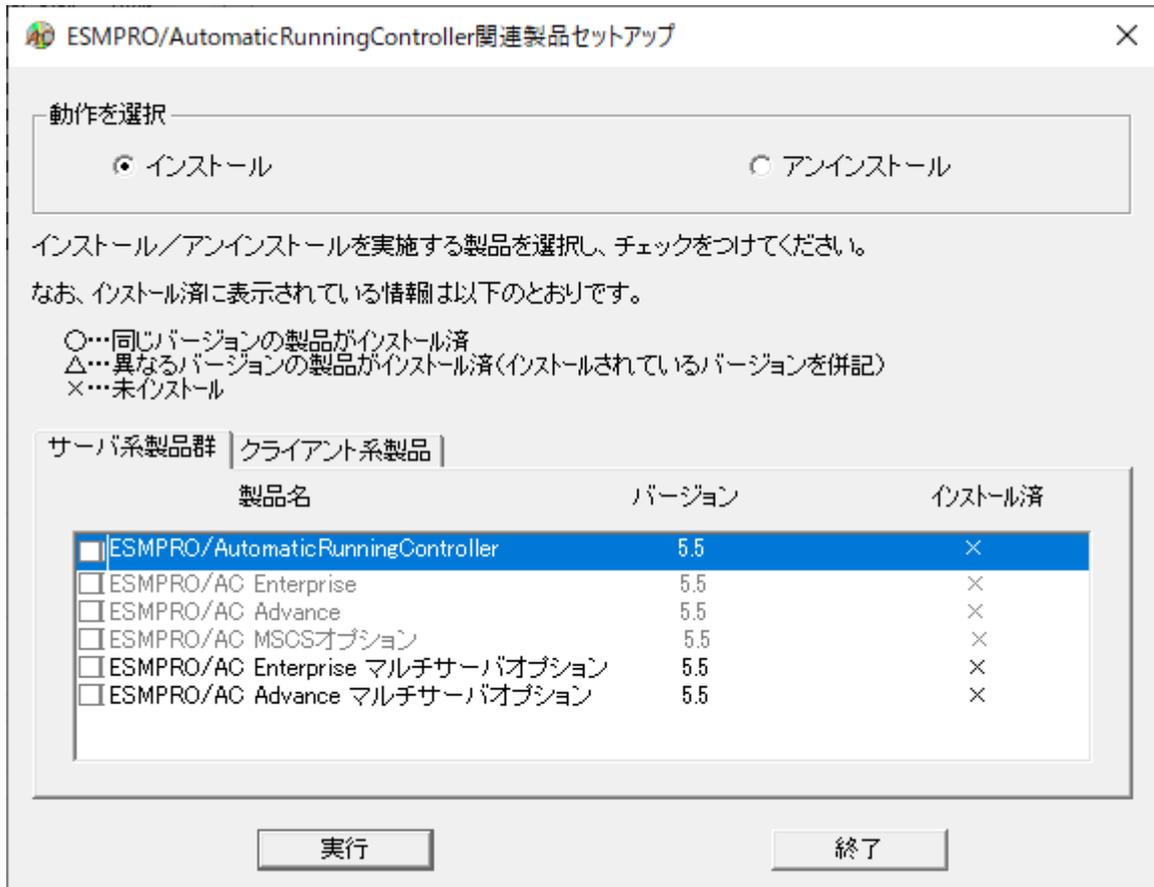


図 3.1-1

- (2) 「動作を選択」のラジオボタンで「インストール」を選択します。サーバ系製品群タブの中からESMPRO/AutomaticRunningControllerを選択し、チェックを有効にします。

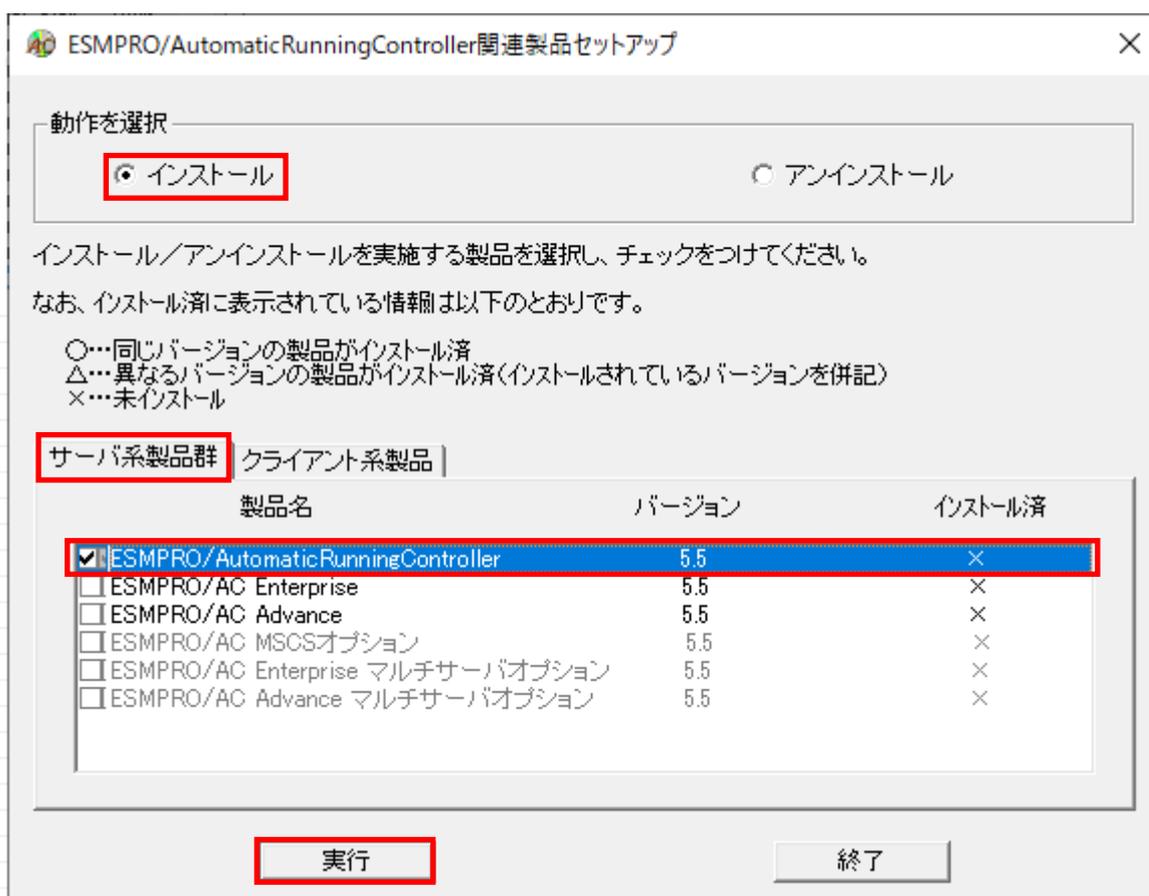


図 3.1-2

<サーバ系製品群タブの中から、ESMPRO/AutomaticRunningControllerのチェックを有効にした場合>
ESMPRO/AutomaticRunningControllerのオプション製品 (ESMPRO/AC Enterprise、ESMPRO/AC Advance等)
も同時に選択可能となり、順次インストールすることができます。

- (3) 「実行」ボタンを選択します。
- (4) 選択した製品のインストール確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。



図 3.1-3

- (5) サーバ系製品を選択した場合、ライセンスキーの入力が促されますので、ライセンスキーを入力し、「OK」ボタンを選択します。

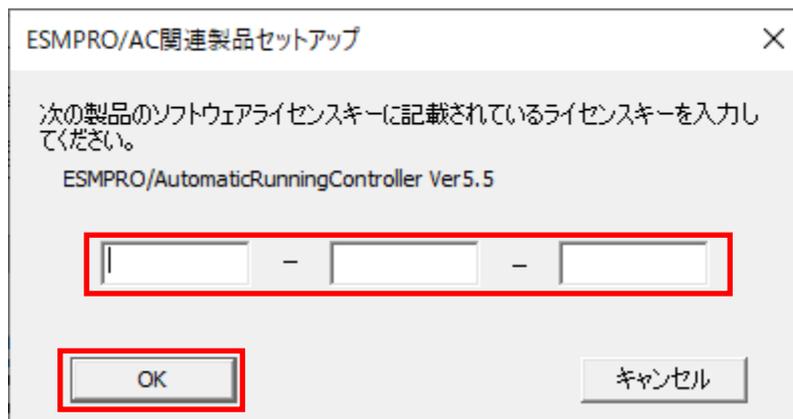


図 3.1-4

- (6) 入力したライセンスキーが認証されると、ESMPRO/AutomaticRunningControllerのセットアップが開始されますので、「次へ」ボタンを選択します。

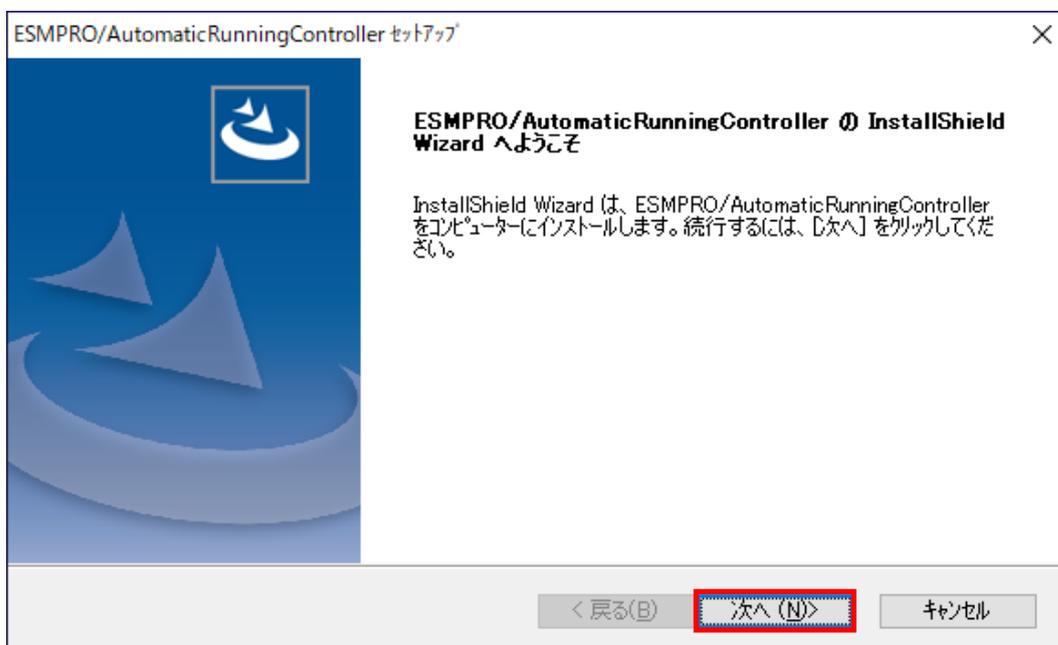


図 3.1-5

- (7) 続いて、インストール先を選択します。表示されているフォルダとは別のフォルダにインストールする場合は、「参照」ボタンをクリックしてインストール先のフォルダを選択します。インストール先が決定したら、「次へ」ボタンを選択します。

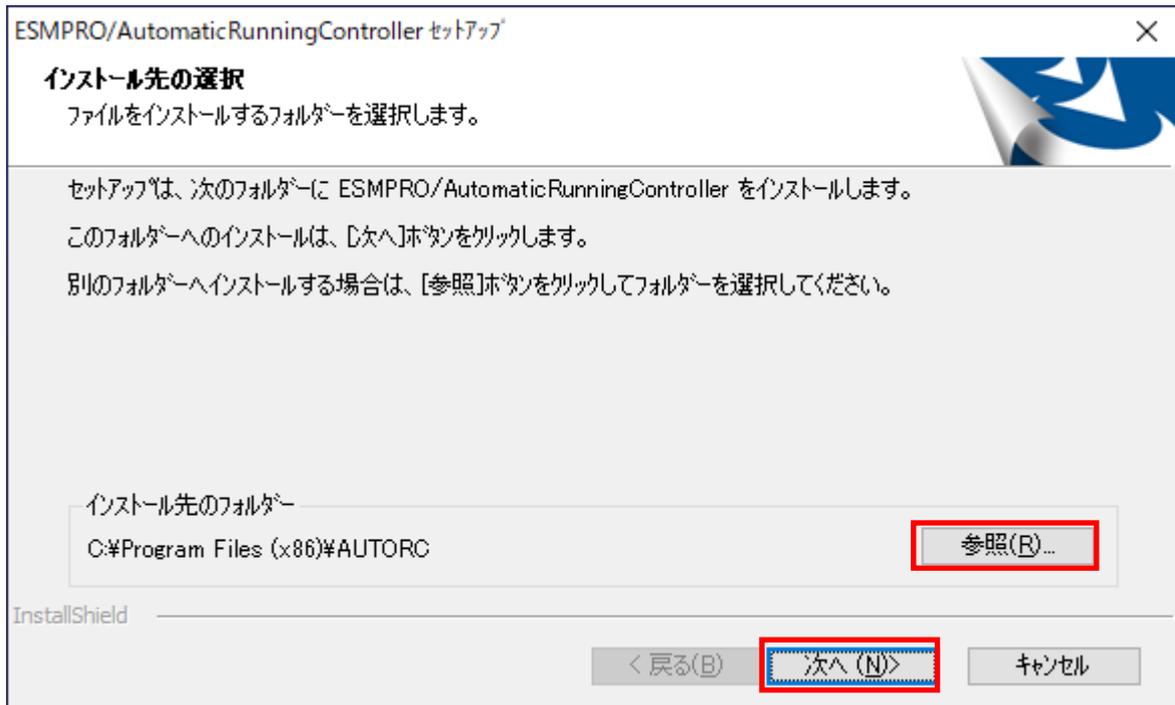


図 3.1-6

- (8) ファイルの転送が開始されます。
- (9) 次の画面が表示されたら、インストールは完了です。「完了」ボタンを選択します。



図 3.1-7

- (10) 最初の画面に戻り、ESMPRO/AutomaticRunningControllerのインストール済欄に○およびバージョンが表示されていることを確認します。

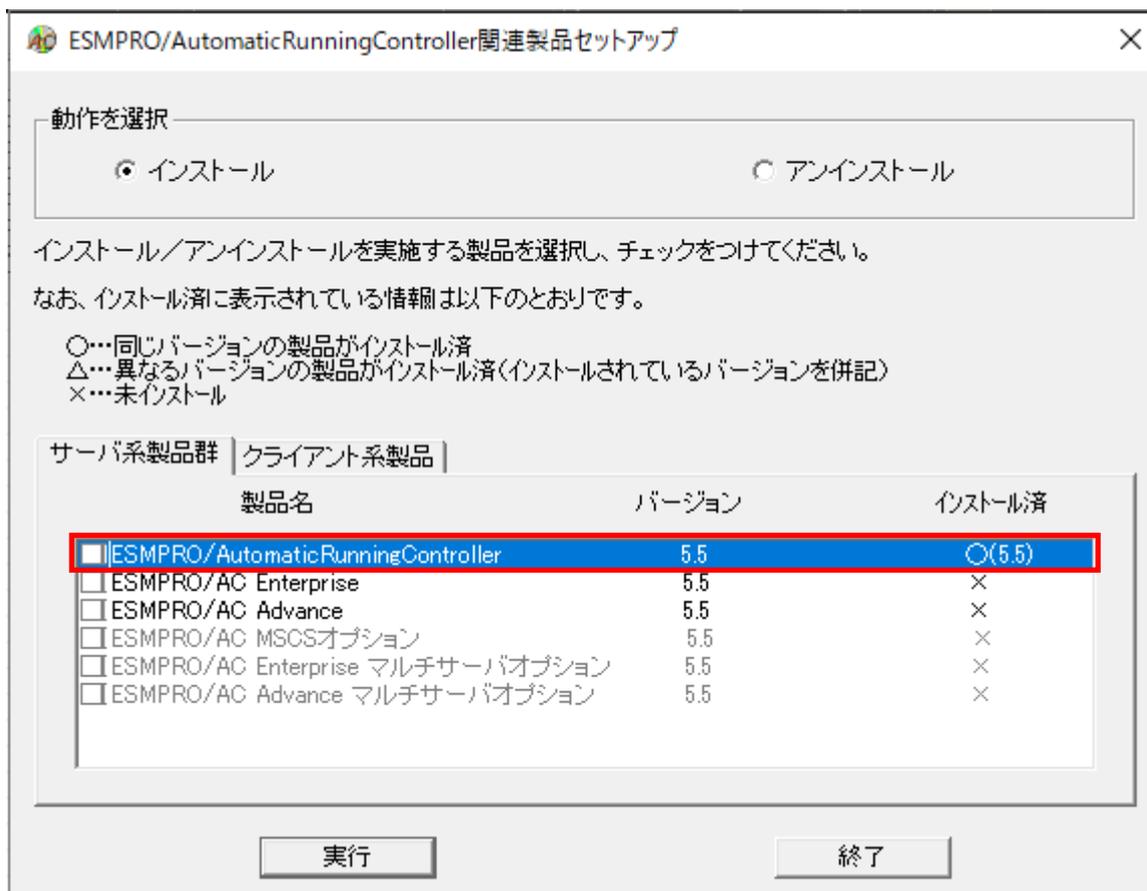


図 3.1-8

引き続き、ESMPRO/AutomaticRunningController のオプション製品 (ESMPRO/AC Enterprise、ESMPRO/AC Advance、ESMPRO/AC MSCS オプション) をインストールする場合は、Setupac.exe からのインストール作業を続行してください。インストール後は、Setupac.exe を終了してシステムを再起動してください。

- (11) ESMPRO/AutomaticRunningControllerの動作環境の設定を「3.3 ESMPRO_AC環境ウィザードによる設定」を参照の上で必ず実施ください。

3.1.2 上書きインストールの場合

- (1) ドライブの『Setupac.exe』を起動します。

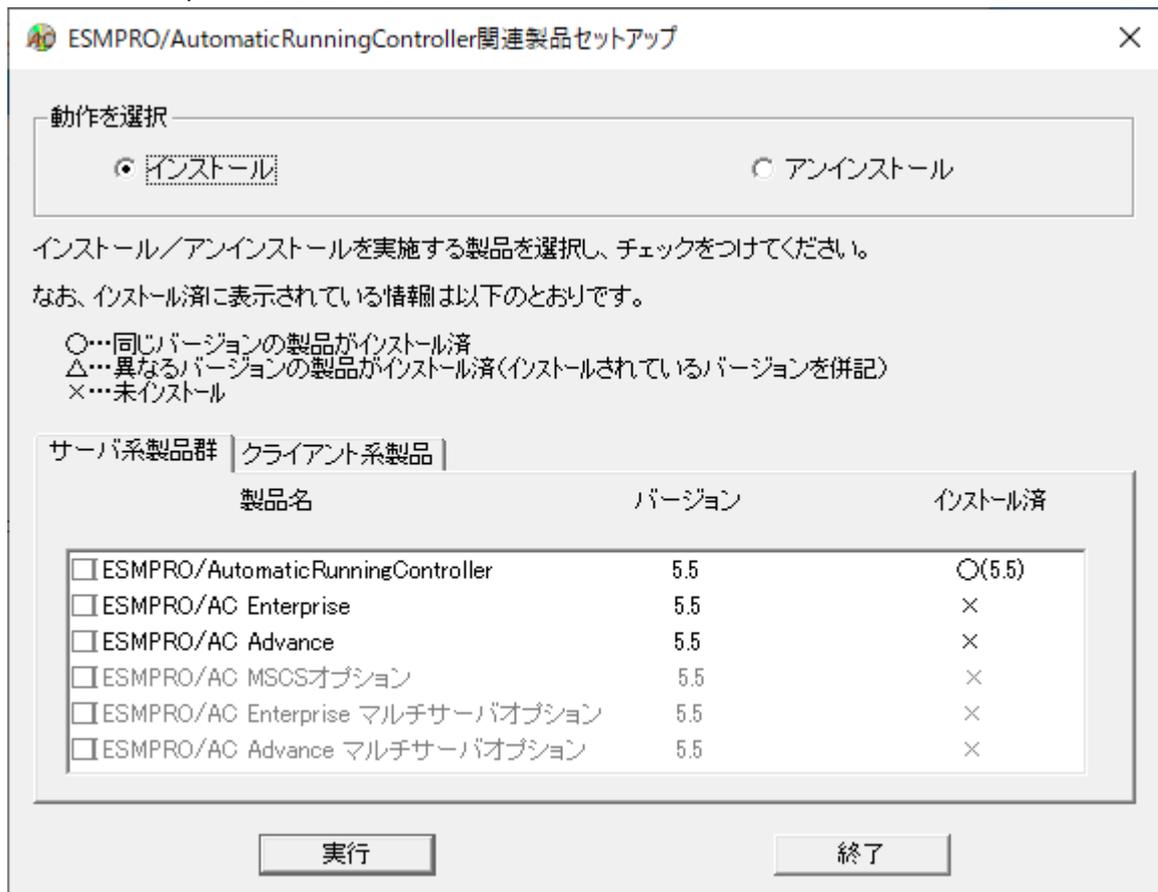


図 3.1-9

- (2) 「動作を選択」のラジオボタンで「インストール」を選択します。サーバ系製品群タブの中からESMPRO/AutomaticRunningControllerを選択し、チェックを有効にします。

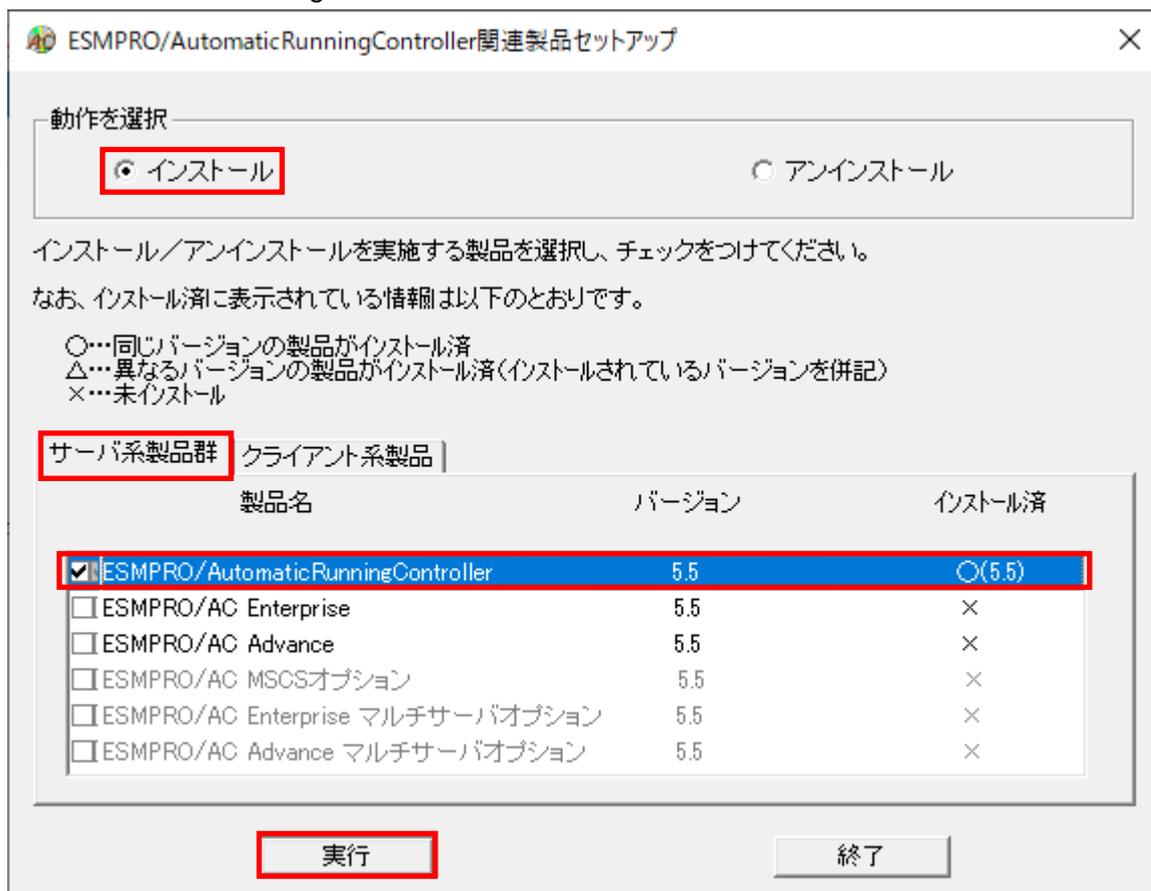


図 3.1-10

<サーバ系製品群タブの中から、ESMPRO/AutomaticRunningControllerのチェックを有効にした場合>
 ESMPRO/AutomaticRunningControllerのオプション製品 (ESMPRO/AC Enterprise、ESMPRO/AC Advance等)
 も同時に選択可能となり、順次上書きインストールすることができます。

- (3) 「実行」ボタンを選択します。
- (4) 選択した製品のインストール確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。



図 3.1-11

- (5) ESMPRO/AutomaticRunningControllerのセットアップが開始され、上書きインストールを実施するか表示されます。インストールを継続する場合は「はい」を選択します。

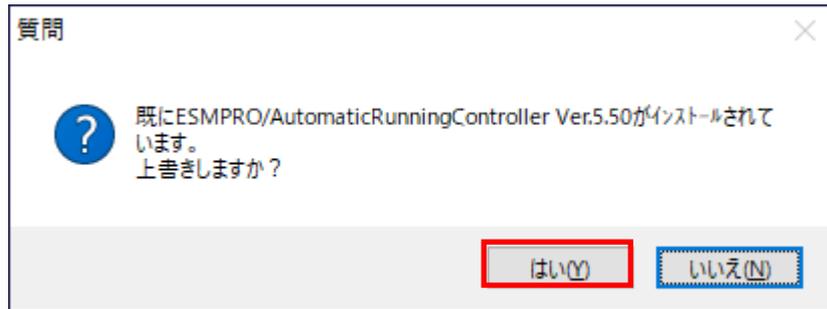


図 3.1-12

- (6) ファイルの転送が開始されます。
- (7) 次の画面が表示されたら、インストールは完了です。「完了」ボタンを選択します。

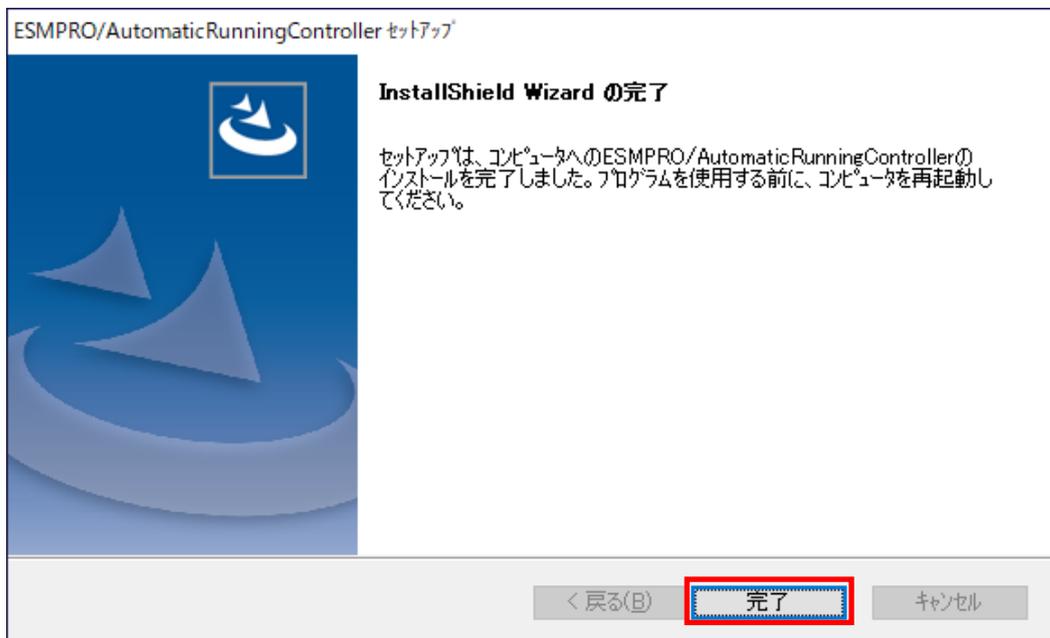


図 3.1-13

- (8) 最初の画面に戻り、ESMPRO/AutomaticRunningControllerのインストール済欄にOおよびバージョンが表示されていることを確認します。

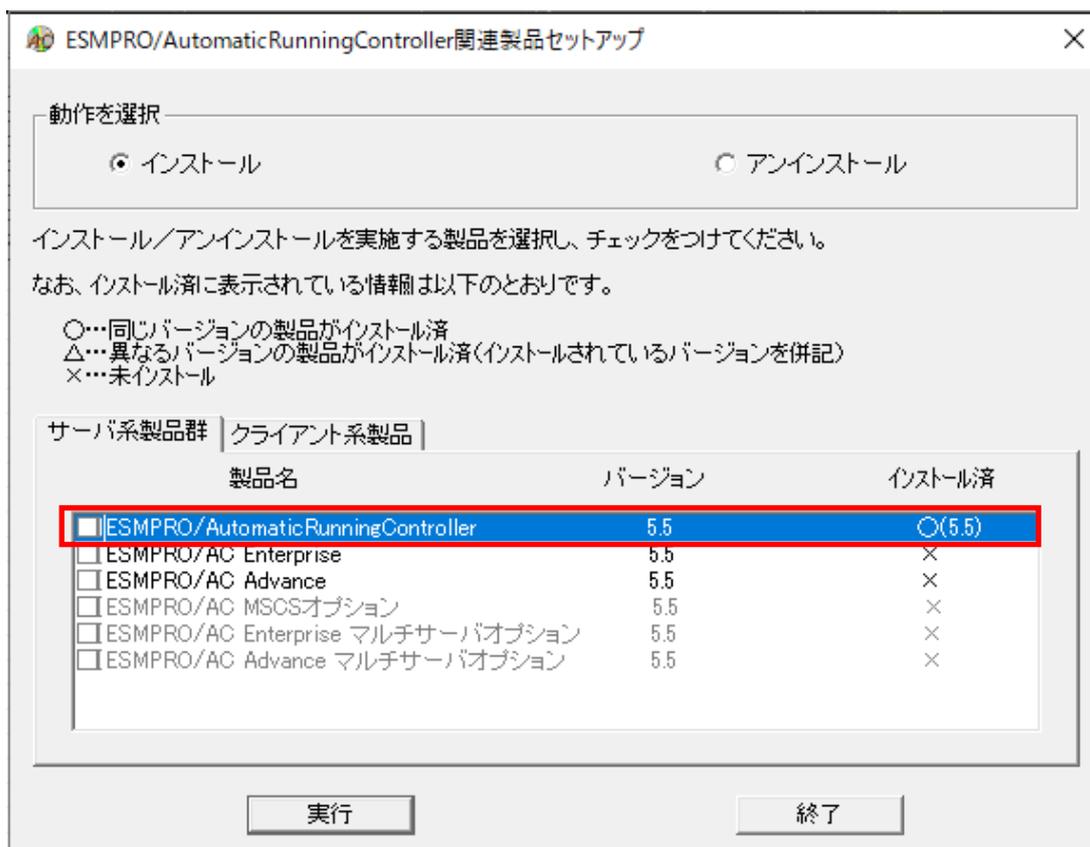


図 3.1-14

引き続き、ESMPRO/AutomaticRunningController のオプション製品 (ESMPRO/AC Enterprise、ESMPRO/AC Advance、ESMPRO/AC MSCS オプション) を上書きインストールする場合は、Setuppac.exe からのインストール作業を続行してください。インストール後は、Setuppac.exe を終了してシステムを再起動してください。

- (9) ESMPRO/AutomaticRunningControllerの動作環境の設定を変更する場合は「3.3 ESMPRO_AC環境ウィザードによる設定」を参照してください。

3.1.3 バージョンアップインストールの場合

(1) ドライブの『Setupac.exe』を起動します。

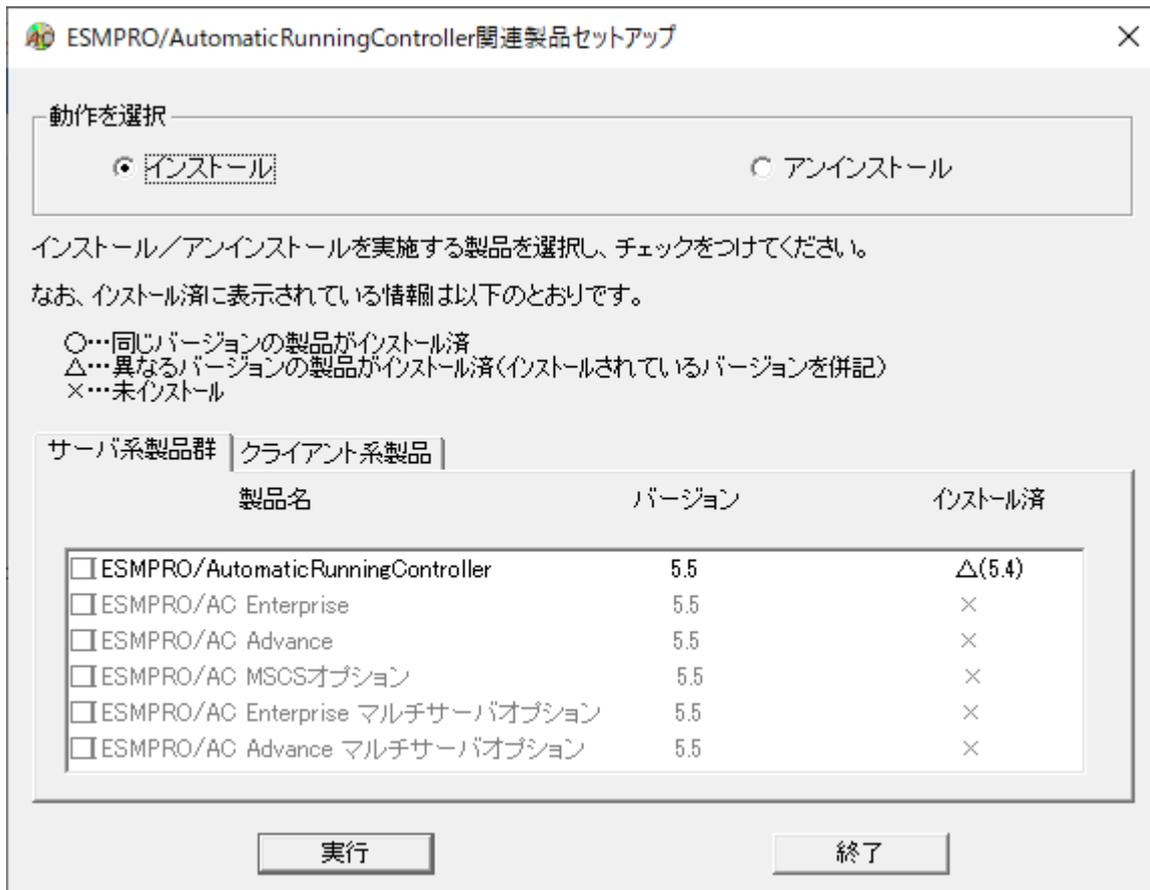


図 3.1-15

- (2) 「動作を選択」のラジオボタンで「インストール」を選択します。サーバ系製品群タブの中からESMPRO/AutomaticRunningControllerを選択し、チェックを有効にします。

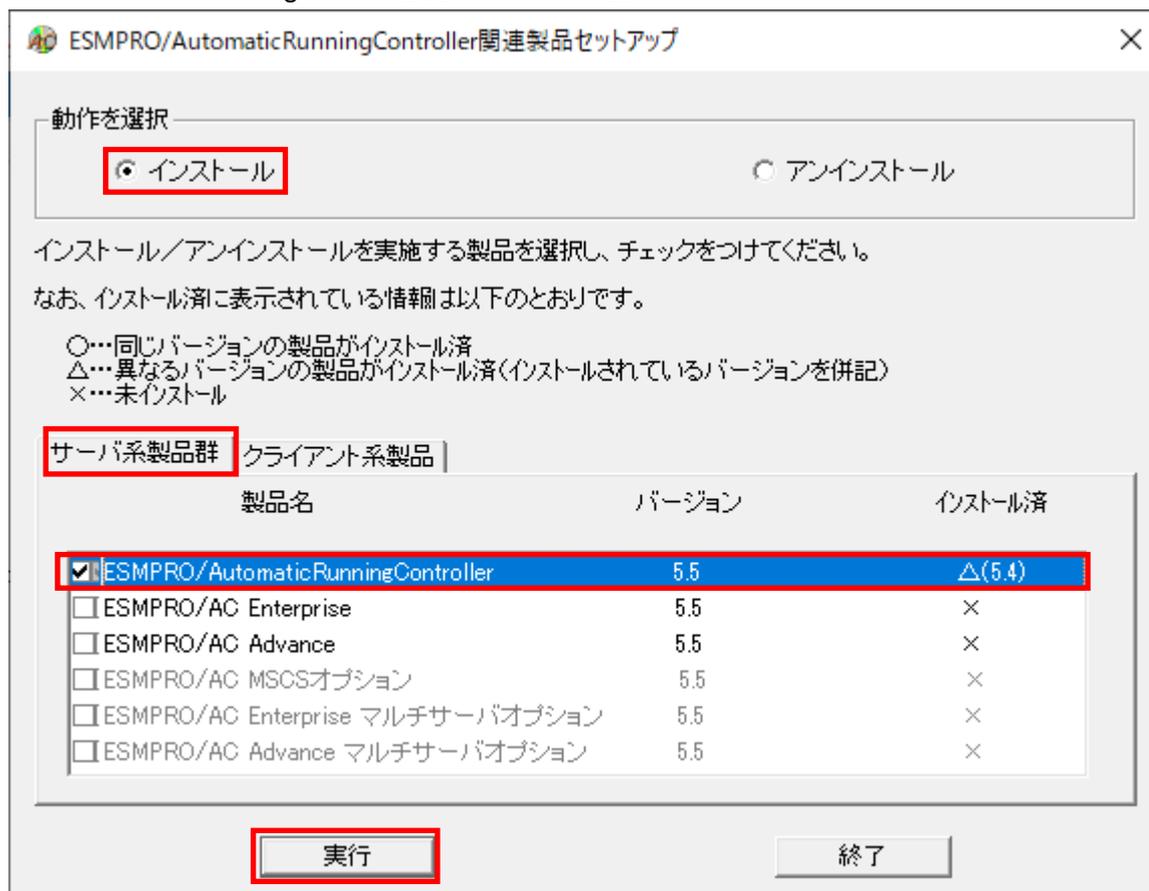


図 3.1-16

<サーバ系製品群タブの中から、ESMPRO/AutomaticRunningControllerのチェックを有効にした場合>
 ESMPRO/AutomaticRunningControllerのオプション製品 (ESMPRO/AC Enterprise、ESMPRO/AC Advance等)
 も同時に選択可能となり、順次バージョンアップインストールすることができます。

- (3) 「実行」ボタンを選択します。
- (4) 選択した製品のインストール確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。



図 3.1-17

- (5) サーバ系製品を選択した場合、ライセンスキーの入力が促されますので、ライセンスキーを入力し、「OK」ボタンを選択します。

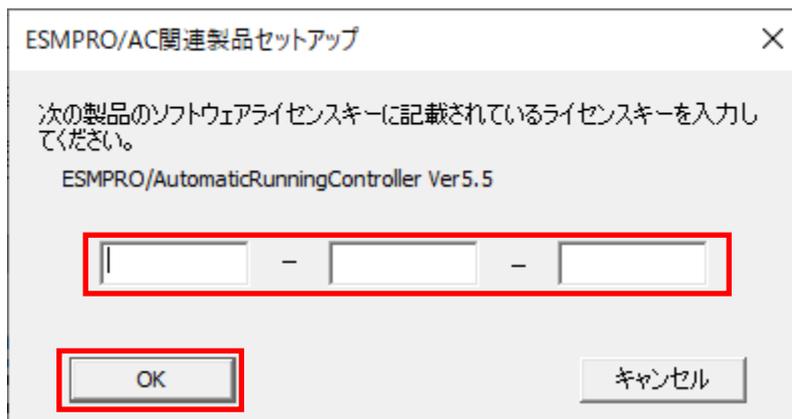


図 3.1-18

- (6) 入力したライセンスキーが認証されると、ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップが開始され、上書きインストールを実施するか表示されます。インストールを継続する場合は「はい」を選択します。

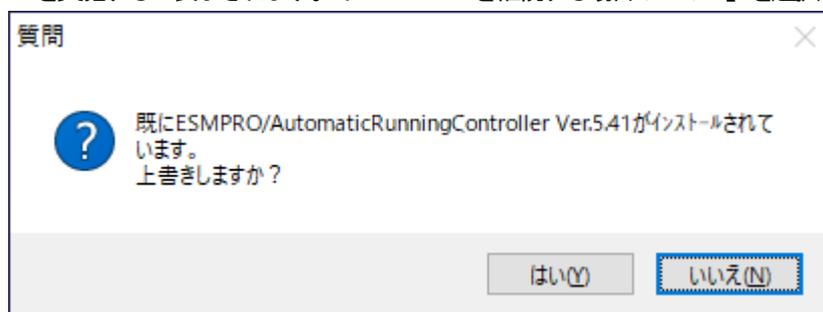


図 3.1-19

- (7) ファイルの転送が開始されます。

- (8) 次の画面が表示されたら、インストールは完了です。「完了」ボタンを選択します。

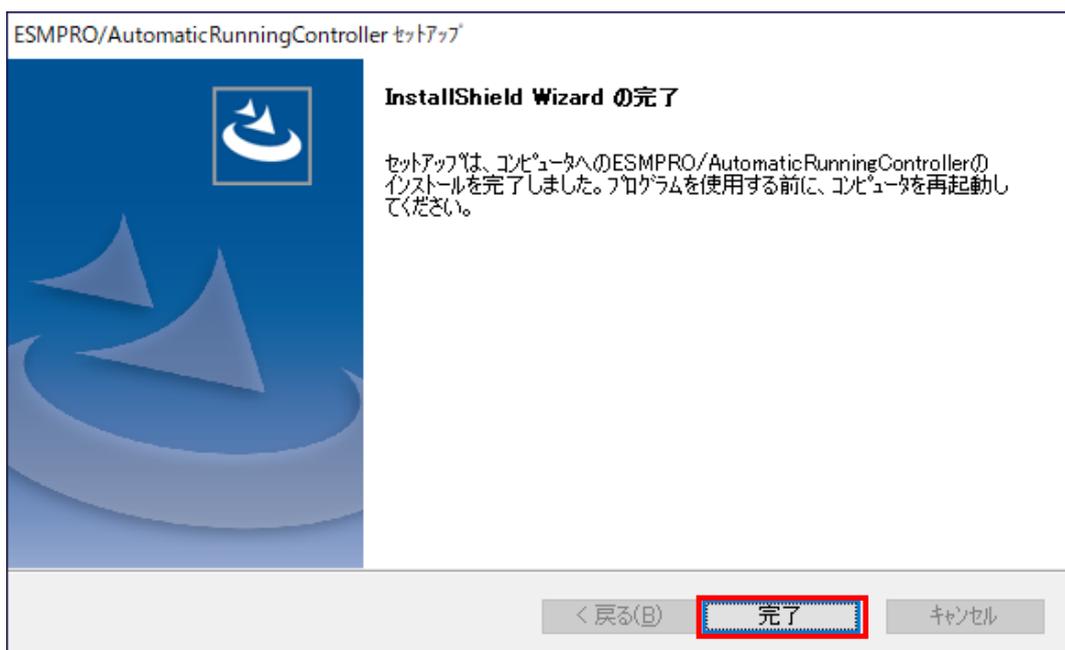


図 3.1-20

- (9) 最初の画面に戻り、ESMPRO/AutomaticRunningControllerのインストール済欄にOおよびバージョンが表示されていることを確認します。

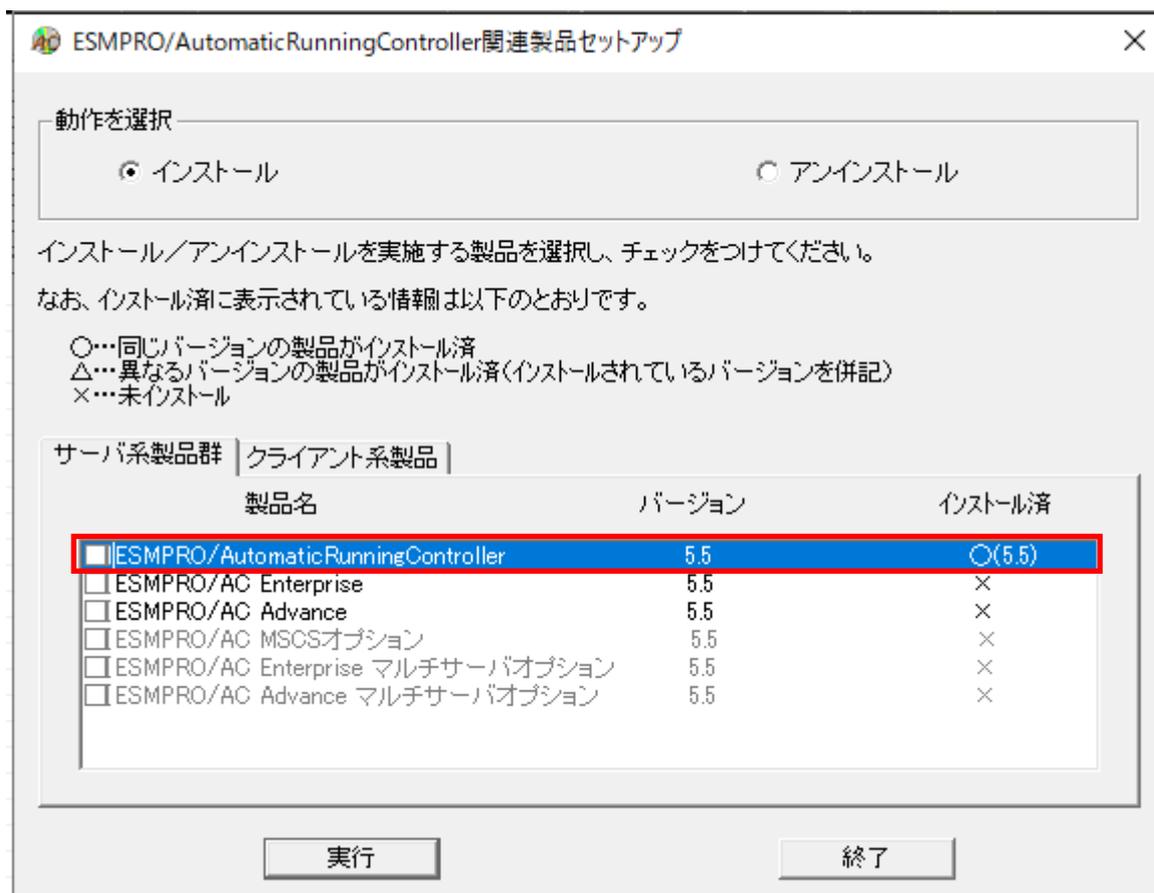


図 3.1-21

引き続き、ESMPRO/AutomaticRunningController のオプション製品 (ESMPRO/AC Enterprise、ESMPRO/AC Advance、ESMPRO/AC MSCS オプション) をバージョンアップインストールする場合は、Setupac.exe からのインストール作業を続行してください。インストール後は、Setupac.exe を終了してシステムを再起動してください。

- (10) ESMPRO/AutomaticRunningControllerの動作環境の設定を変更する場合は「3.3 ESMPRO_AC環境ウィザードによる設定」を参照してください。

3.2 ESMPRO Platform Management Kit からのインストール

「ESMPRO Platform Management Kit」より「ESMPRO/AutomaticRunningController Ver 5.5」をインストールされる場合は「ESMPRO インストールツール ユーザーズガイド」を参照願います。

注意

- (1) ライセンスキーの登録を行わない場合、ソフトウェア動作は無停電電源装置(UPS)の管理のみに制限されます。旧バージョンよりのアップデートインストールを行い、ライセンス適用を行わない場合、アップデート前の動作と同じにならないため、システム運用に問題が発生する可能性があります。アップデートインストールを行う場合は、アップデート完了後新しいライセンスの適用を行ってから運用を強く推奨します。
- (2) 「ESMPRO Platform Management Kit Version 1.003.01」以降の「ESMPRO インストールツール」「統合インストール」で、ライセンス適用済みのESMPRO/AutomaticRunningController 環境に対してアップデートインストールを行うことはできません。項目(1)の注意をお読みの上、「各種アプリケーション」よりアップデートインストールを行ってください。
- (3) 「ESMPRO Platform Management Kit Version 1.004.01」で【アップデート対象製品】をインストールした場合は、インストール後にインストールイメージの【アップデート格納ディレクトリ】中の『ESMARC55-01-230209.zip』を適用願います。ZIP ファイルを解凍し、ファイル解凍後のREADME.TXTにアップデート適用方法の詳細が記載されていますので、参照してください。

【アップデート対象製品】

ESMPRO/AutomaticRunningController
ESMPRO/AC Enterprise
ESMPRO/AC Advance

【アップデート格納ディレクトリ】

「software¥999¥win¥esmpro_arc¥update」

3.3 ESMPRO_AC 環境ウィザードによる設定

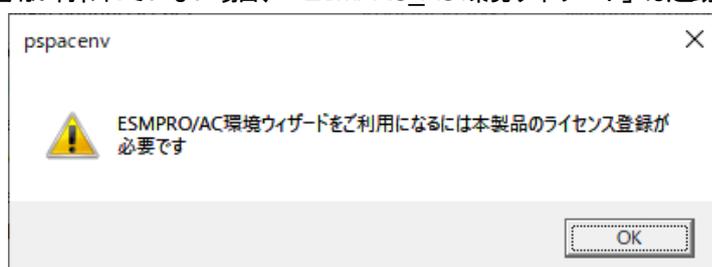
本ソフトウェアを使用して電源管理/自動運転を行うためには、「ESMPRO_AC 環境ウィザード」により、動作環境の設定を行う必要があります。

「UPS をネットワーク経由で制御し電源管理/自動運転を行う」場合には、ESMPRO/AC Enterprise のセットアップカードを参照の上で、「ESMPRO_AC 環境ウィザードによる設定」を実施願います。

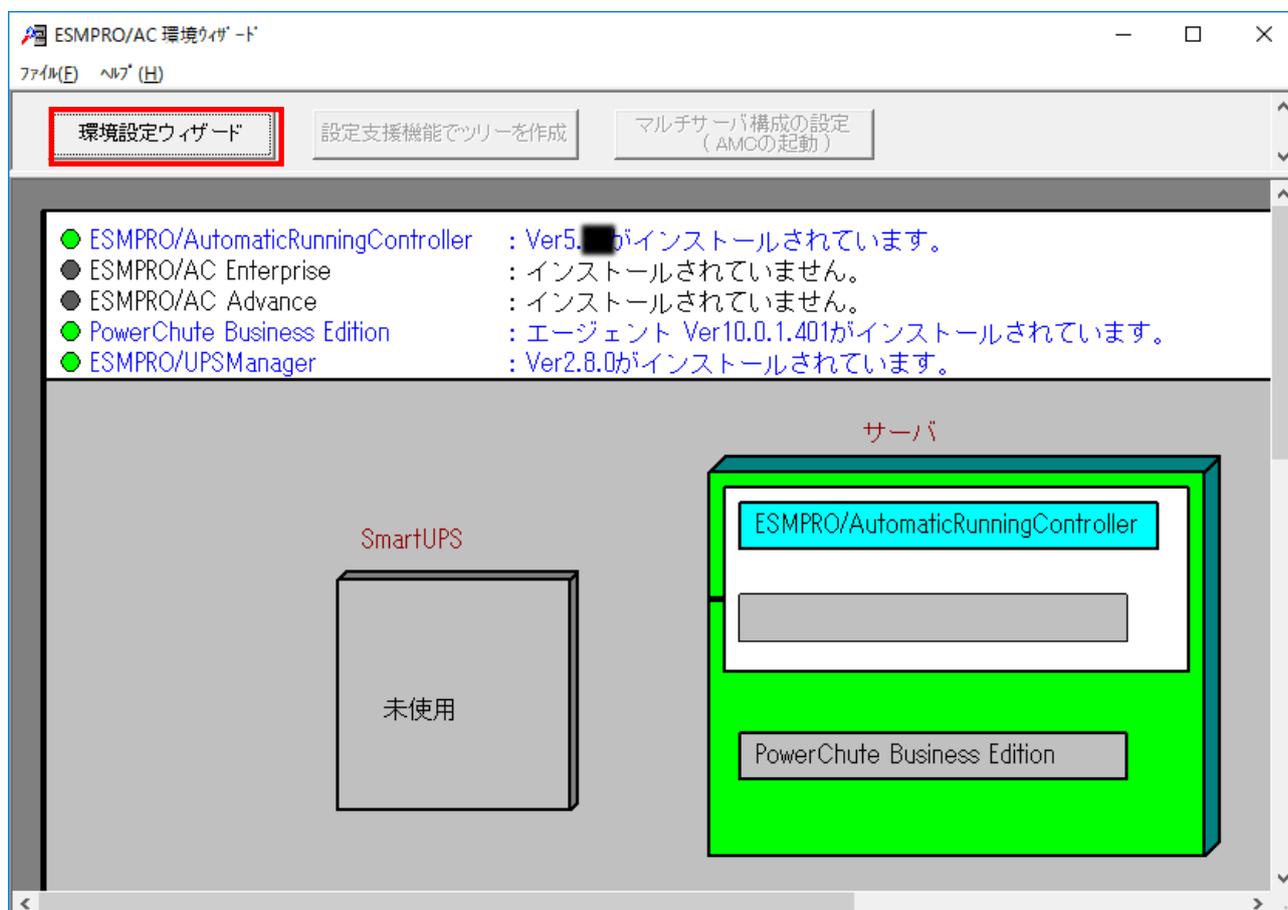
「UPS を使用せずに自動運転を行う」場合には、ESMPRO/AC Advance セットアップカードを参照の上で、「ESMPRO_AC 環境ウィザードによる設定」を実施願います。

注意：

製品ライセンス適用が行われていない場合、「ESMPRO_AC 環境ウィザード」は起動できません。



「ESMPRO_AC 環境ウィザード」を起動するには「スタート」-「プログラム」-「ESMPRO_AutomaticRunningController」を選択します。さらに、「ESMPRO_AC 環境ウィザード」を選択してください。



3.3.1 ESMPRO/AutomaticRunningController の動作環境の設定 (環境設定ウィザードボタン)

「環境設定ウィザード」ボタンを押すと、環境設定ウィザードが起動されます。

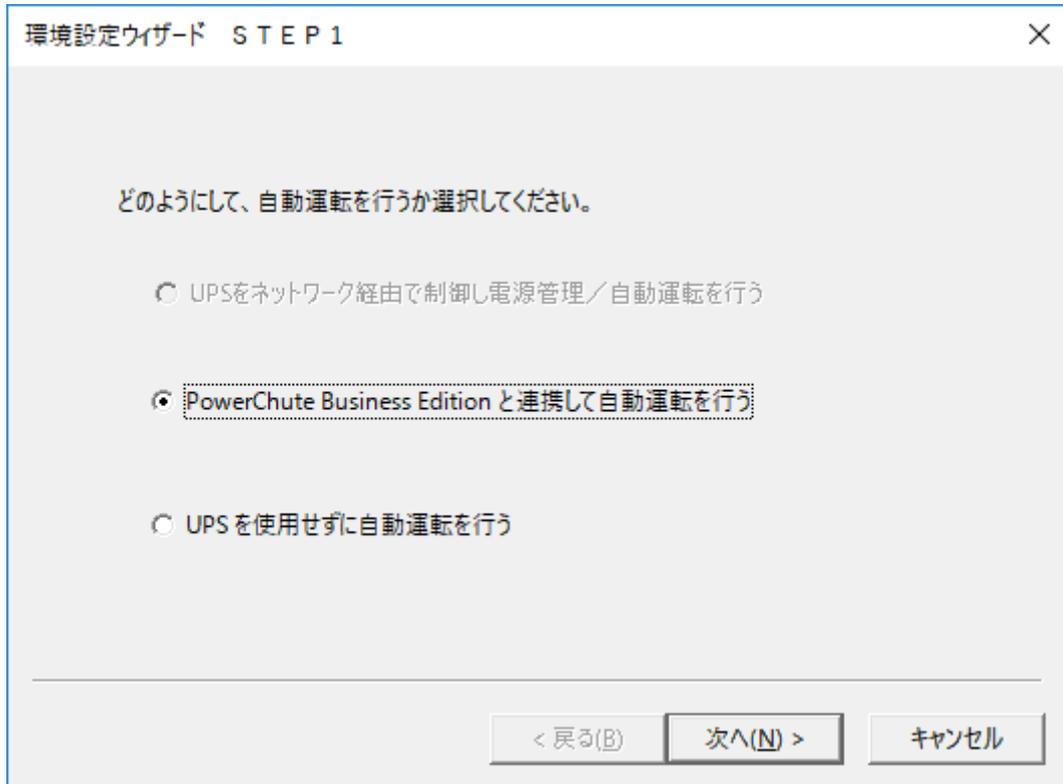


図 3.3-1

表示される選択項目に応じて説明いたします。

(1) UPSをネットワーク経由で制御し電源管理自動運転を行う

この選択をするには『ESMPRO/AC Enterprise』のインストールが必須です。
設定方法は『ESMPRO/AC Enterprise』のセットアップカードに記載しています。同セットアップガイドをご参照の上で、設定をお願いします。

(2) PowerChute Business Editionと連携して電源管理自動運転を行う

この選択をするには『PowerChute Business Edition』ならびに『ESMPRO/UPSManager』のインストールが必須です。事前にこれらの製品をインストールした上で、設定をお願いします。

下記、製品と連携する場合の設定方法を記載します。

- ESMPRO/UPSManager Ver2.8 (PowerChute Business Edition セット)

- ① PowerChute Business Editionの証明書をインストールします。

PowerChute Business Editionは自己署名証明書を使用します。自己署名証明書は、REST インターフェイスにアクセスする前にお使いのWindows コンピュータにインストールしておかなければなりません。詳細については、Schneider Electric Industries SAS社のウェブサイトのFAQ で記事 FA53519 を参照してください。下記、FAQサイトに「FA53519」を入力して検索ボタンを押してください。

- ・ Schneider Electric Industries SAS社のウェブサイト
< <https://www.apc.com/jp/ja/faqs/home/> >

注意：PowerChute Business Editionをバージョンアップした場合、バージョンアップにより証明書が消されるため、バージョンアップ後に証明書の再適用を実施してください

- ② PowerChute Business Edition v10.0の設定をします。

PowerChute Business EditionのエージェントのWEBインターフェースにアクセスして、SNMP設定メニューを選択します。

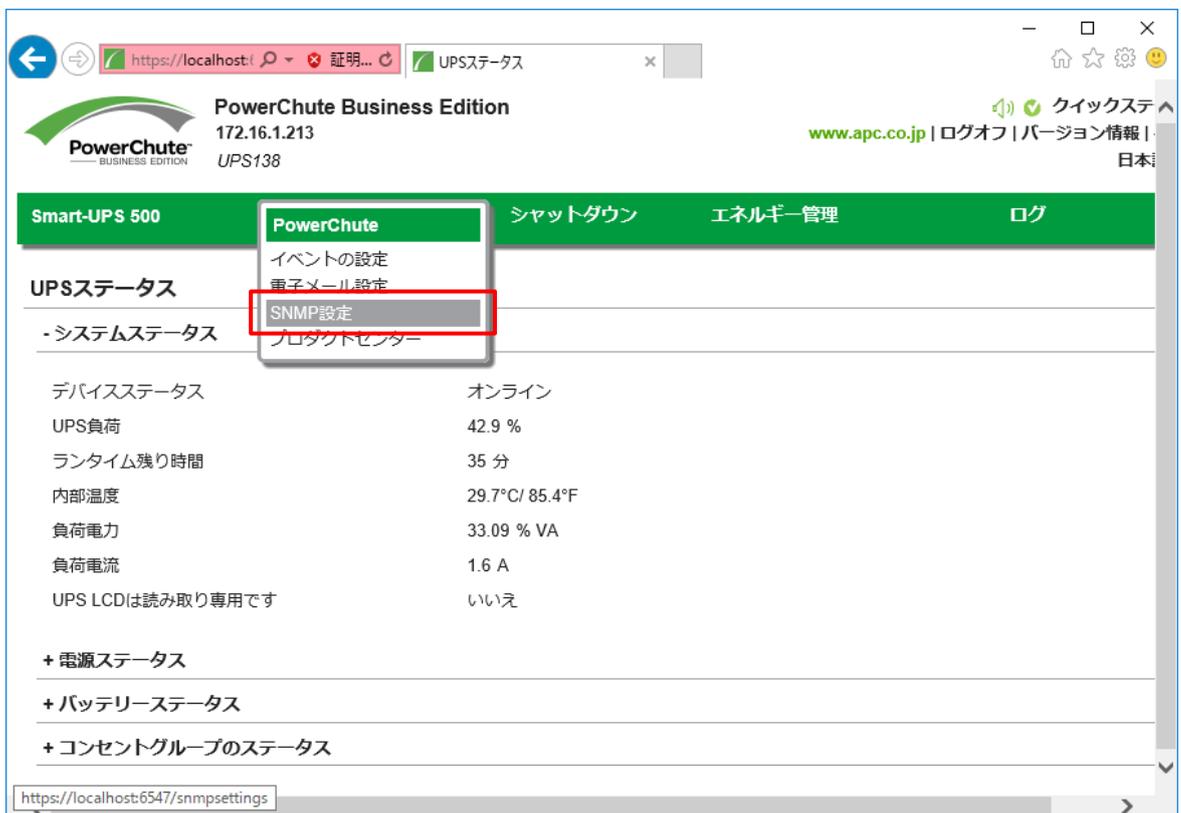


図 3.3-2

SNMP設定画面に遷移しますので「SNMPv1アクセスを有効にします」にチェックをつけてください。また、必要に応じてユーザプロフィールをデフォルトのPCBEUserから任意の文字列に変更してください。ディスカバリポートをデフォルトの161から、使用されていない任意のポート番号に変更してください。設定変更後に「適用」ボタンを選択します。

注意：ディスカバリポートをデフォルトの161から、使用されていない任意のポート番号に変更された場合、次ページの「③OSのSNMPサービスを停止します。」手順を実施する必要はありません。

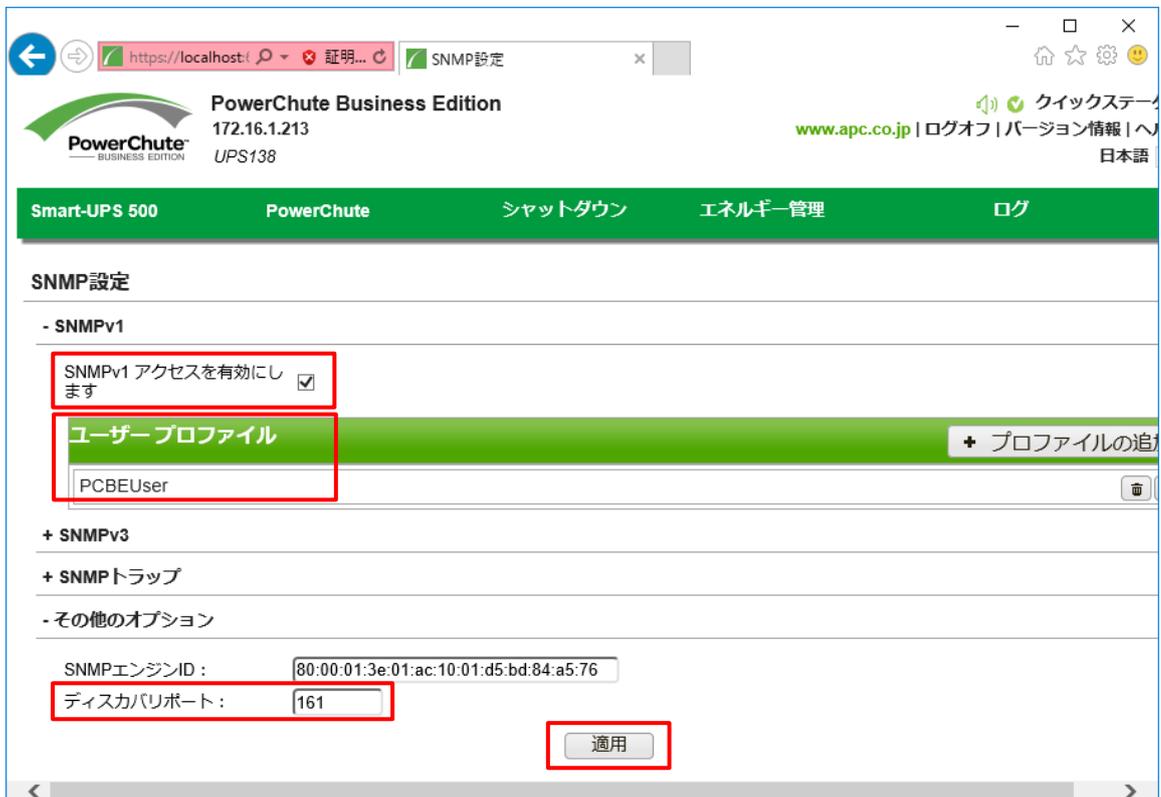


図 3.3-3

③ OSのSNMPサービスを停止します。

前ページ「② PowerChute Business Edition v10.0の設定をします。」の手順で、ディスカバリポートをデフォルトの161から、使用されていない任意のポート番号に変更された場合、本手順は不要です。④に進んでください。

Windows OSのサービスコントロールマネージャを開き、SNMPサービスが動作しているのを停止してください。

また、サービスの属性を「手動起動」に変更してください。

注意：OSのSNMPサービスを停止する場合、他の製品がSNMPサービスに依存していないことを確認のうえ、停止させてください。他の製品がSNMPサービスに依存している場合は、前ページ「② PowerChute Business Edition v10.0の設定をします。」の手順を実施してください。

- ④ 環境設定ウィザード STEP1の設定を行います。
“PowerChute Business Editionと連携して自動運転を行う” を選択し「次へ」 ボタンを選択します。

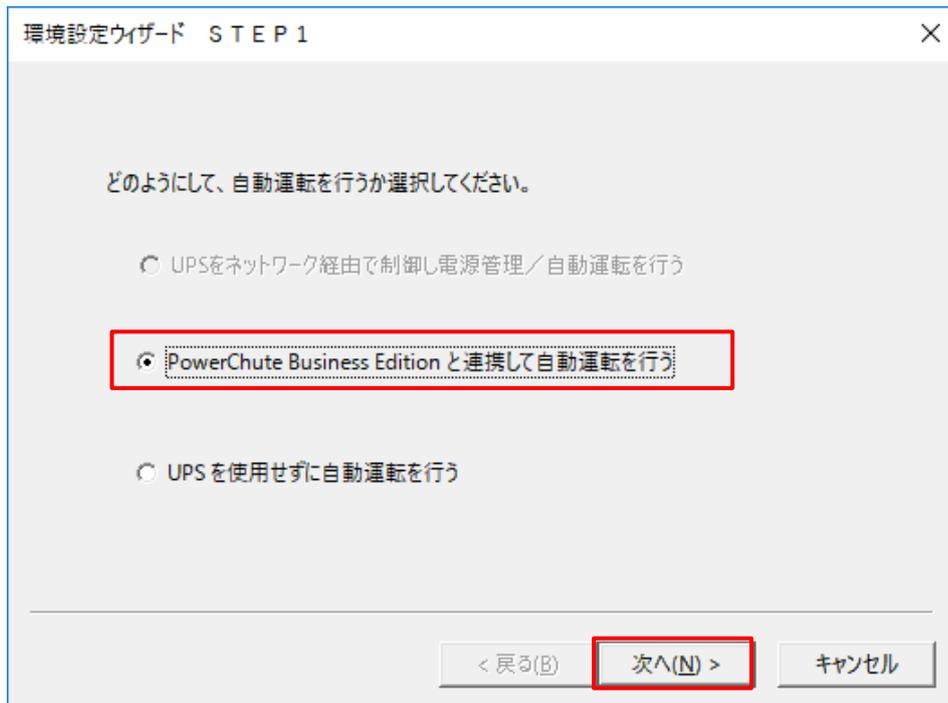


図 3.3-4

PowerChute Business Edition と連携させるために必要なソフトウェアおよびサービスのインストール、稼働状況が表示されます。

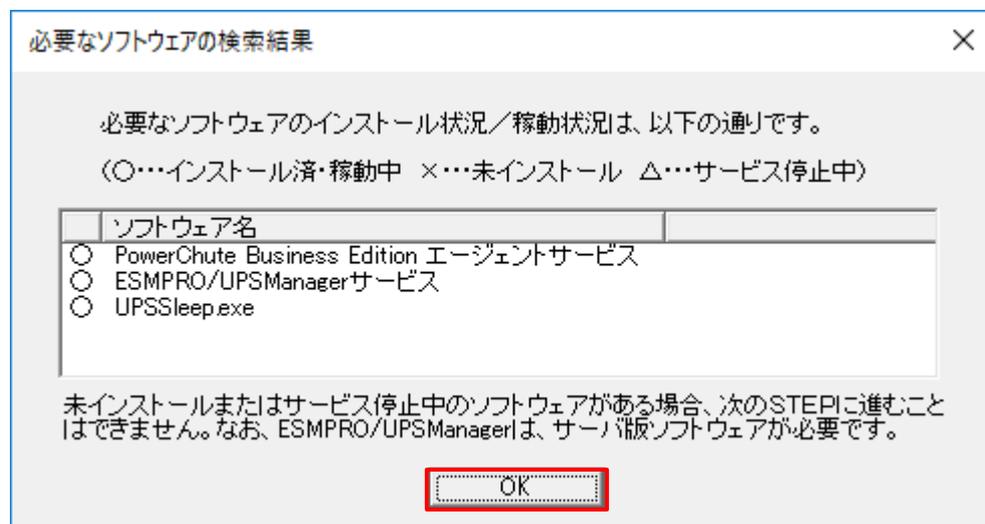


図 3.3-5

連携を行うのに必要なすべてのソフトウェアおよびサービスがインストールされていれば、OK ボタンを選択してSTEP2に進みます。

(注意)

以下のソフトウェアが、未インストールまたはサービス停止中の場合、以降の作業を行うことができません。

PowerChute Business Edition エージェントサービス
ESMPRO/UPSManager サービス

なお、画面上に表示されるソフトウェア「UPSSleep.exe」は
PowerChute Business Edition エージェントのオプションコマンドであり、
PowerChute Business Edition エージェントインストール時に、同時にインストールされます。

また、Windows OS の SNMP サービス起動中も以降の作業を行うことができません。

- ⑤ 環境設定ウィザード STEP2 の設定を行います。
PowerChute Business Edition およびESMPRO/UPSManager サービスとの接続確認を行います。

環境設定ウィザード STEP 2

接続確認ボタンを選択して、連携ソフトウェアとの接続を確認してください。接続確認が完了すると、次の画面に進むことができます。なお、PowerChute Business Edition と通信するためには、PowerChute Business Edition エージェントサービスが起動されている必要があります。

PowerChute Business EditionのSNMP v1
コミュニティ名 : PCBEUser 接続確認 (未確認)

ユーザ名/パスワード
エージェントWEBインターフェースにログインするためのユーザ名/パスワード : ユーザ名/パスワード (未登録)

ESMPRO/UPSManager
ESMPRO/UPSManager サービスとの通信を確認します。 接続確認 (未確認)

<戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

図 3.3-6

<PowerChute Business Edition の SNMPv1 との接続確認>

- ②で設定したPowerChute Business EditionのSNMPv1のコミュニティ名のユーザプロファイルが表示されていることを確認後に「接続確認(未確認)」ボタンを選択して、接続確認を行います。

環境設定ウィザード STEP 2

接続確認ボタンを選択して、連携ソフトウェアとの接続を確認してください。接続確認が完了すると、次の画面に進むことができます。なお、PowerChute Business Edition と通信するためには、PowerChute Business Edition エージェントサービスが起動されている必要があります。

PowerChute Business EditionのSNMP v1
コミュニティ名 : PCBEUser 接続確認 (未確認)

ユーザ名/パスワード
エージェントWEBインターフェースにログインするためのユーザ名/パスワード : ユーザ名/パスワード (未登録)

ESMPRO/UPSManager
ESMPRO/UPSManager サービスとの通信を確認します。 接続確認 (未確認)

<戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

図 3.3-7

接続に問題なければ下記のように表示されます。

「OK」ボタンを押すと、環境設定ウィザードSTEP2の画面に戻ります。

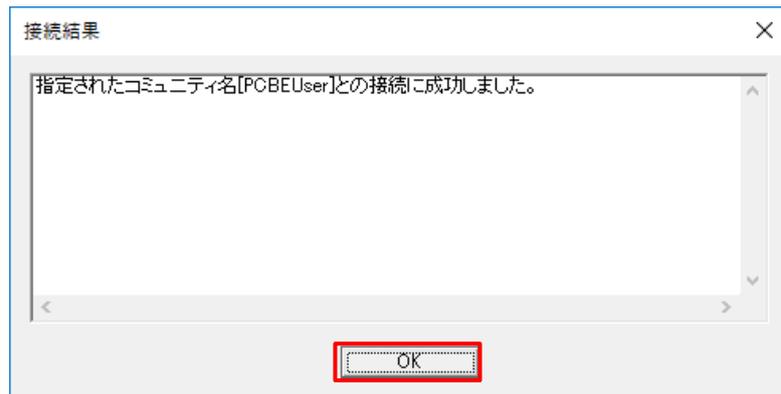


図 3.3-8

PowerChute Business Edition のSNMPv1の接続確認ボタンの文字列が「確認済」に変わっていることを確認してください。

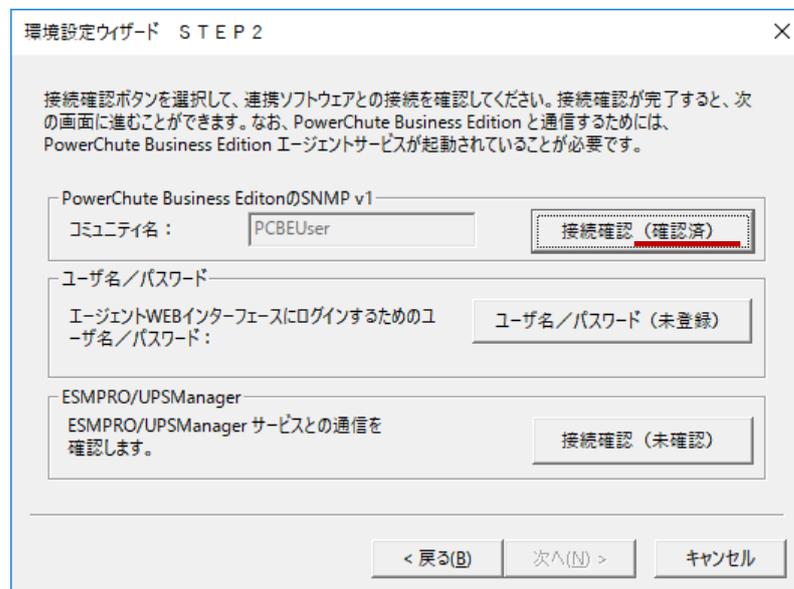


図 3.3-9

<ユーザ名/パスワードの登録>

「ユーザ名/パスワード(未登録)」ボタンを選択します。

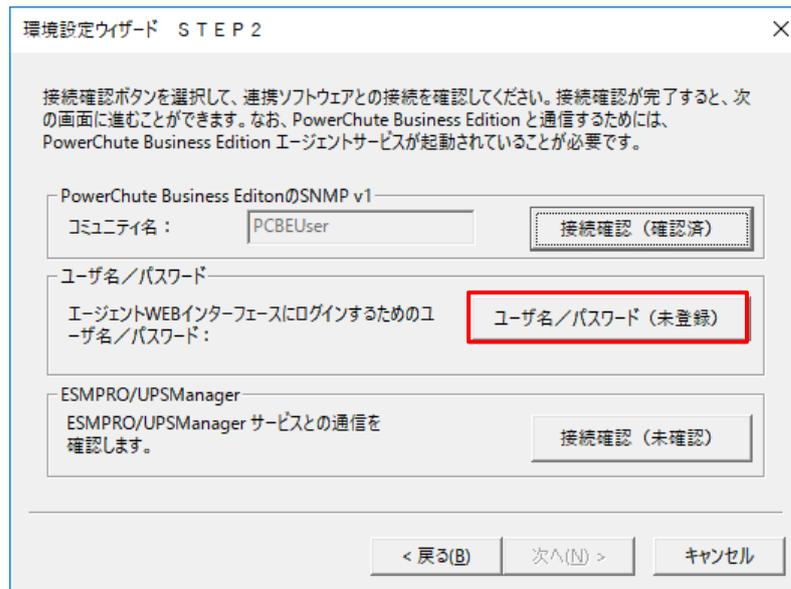


図 3.3-10

PowerChute Business EditionのエージェントWEBインターフェースにログインするためのユーザ名/パスワードを入力し「OK」ボタンを選択します。

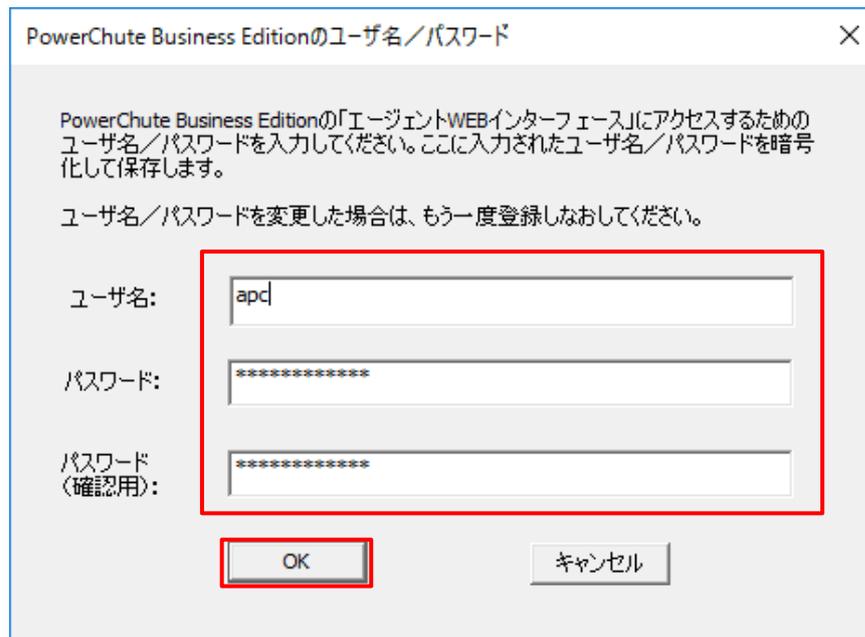


図 3.3-11

注意：ESMPRO/ACは、本画面で指定されたユーザ名/パスワードを使用して「UPSSleep.exe」を呼び出します。
ESMPRO/ACは、本画面で指定されたユーザ名/パスワードと、PowerChute Business Edition上で登録したユーザ名/パスワードが一致しているかどうかを確認することができないため、スケジュール運用に失敗するなどの問題が発生する場合があります。
そのような問題が発生した場合は、本画面で、正しいユーザ名/パスワードを再登録いただくことで、状況が改善されます。

ユーザ名/パスワードの登録完了後は下記のように表示されます。
「OK」ボタンを押すと、環境設定ウィザードSTEP2の画面に戻ります。

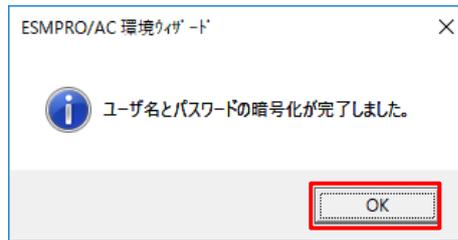


図 3.3-12

「ユーザ名/パスワード」のボタンの文字列が「ユーザ名/パスワード(登録済)」に変わっていることを確認してください。

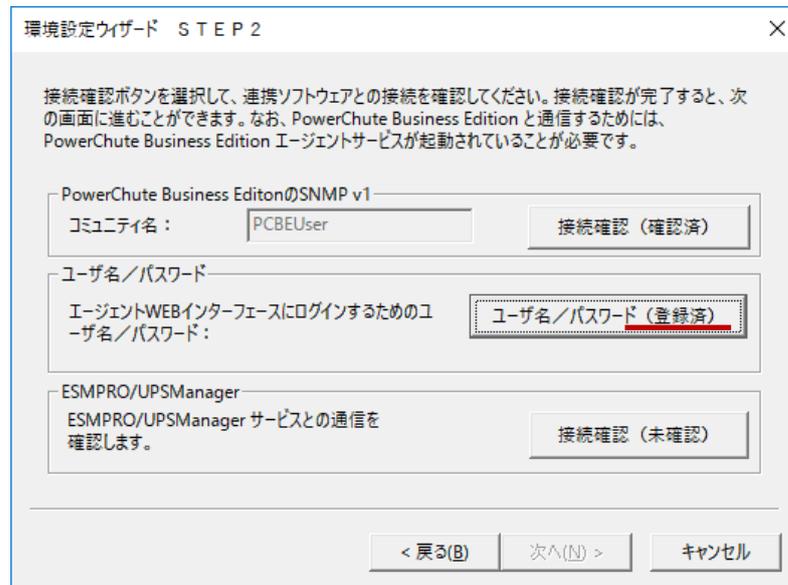


図 3.3-13

<ESMPRO/UPSManager サービスとの接続確認>

ESMPRO/UPSManager サービスとの接続確認を行います。
ESMPRO/UPSManager の「接続確認(未確認)」ボタンを選択してください。

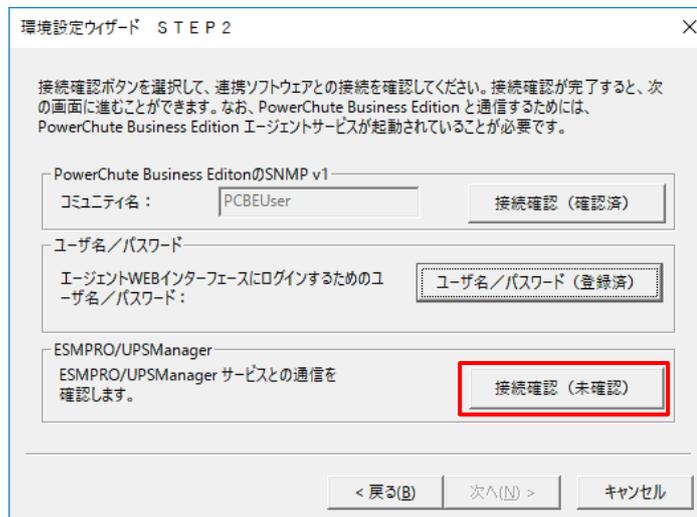


図 3.3-14

接続に問題なければ下記のように表示されます。

「OK」ボタンを押すと、環境設定ウィザードSTEP2の画面に戻ります。

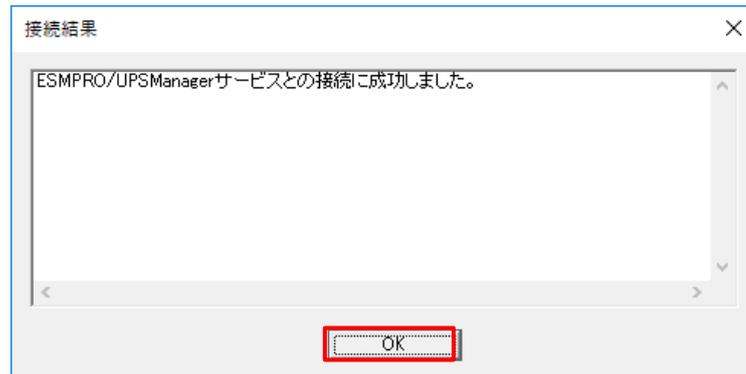


図 3.3-15

ESMPRO/UPSManagerの接続確認ボタンの文字列が「確認済」になっていることを確認してください。各項目の接続確認が終了したら、「次へ」ボタンが有効になりますので「次へ」ボタンを選択します。



図 3.3-16

- ⑥ 環境設定ウィザードSTEP3の設定を行います。
自動運転モードの設定内容が「PowerChute Business Editionと連携して自動運転を行う」となっていること、また、PowerChute Business Edition設定の注意事項を確認後に「完了」ボタンを押してください。

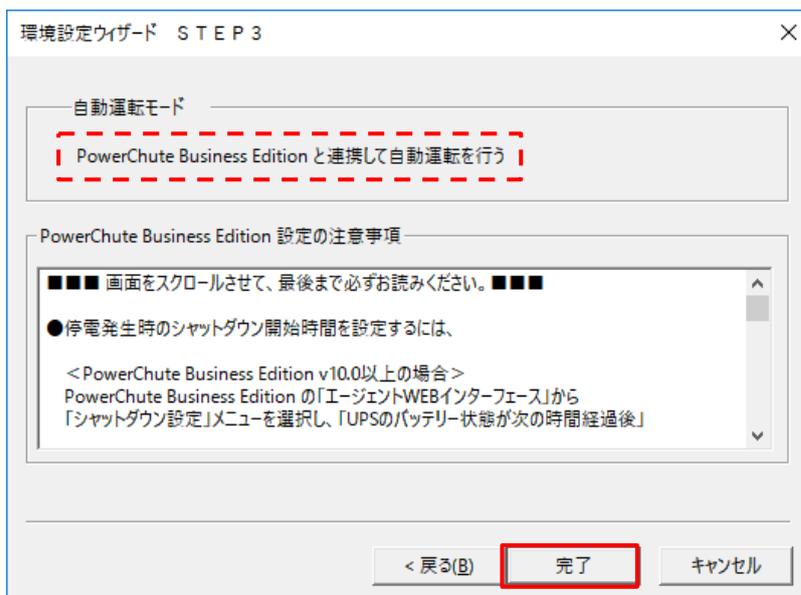


図 3.3-17

環境設定情報を更新する場合は「はい」を選択します。

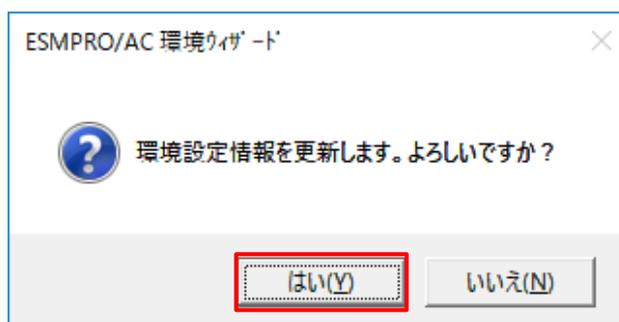


図 3.3-18

「OK」ボタンを選択して環境設定ウィザードのトップ画面に戻ります。

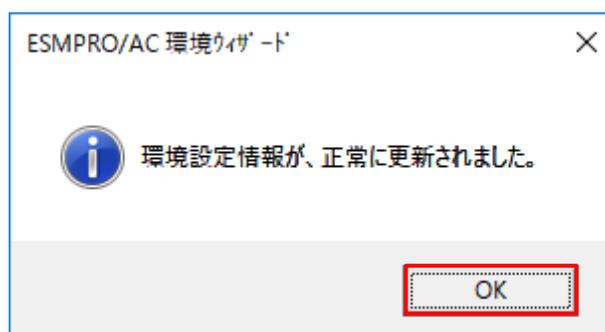


図 3.3-19

以上でESMPRO/AutomaticRunningController の動作環境の設定作業は終了です。

ESMPRO/AutomaticRunningControllerサービスが再起動され、「ESMPRO_AC環境設定ウィザード」の設定内容が更新されます。

環境設定ウィザードのトップ画面でESMPRO/AutomaticRunningControllerとPowerChute Business Editionが同じ枠に表示されていることを確認してください。

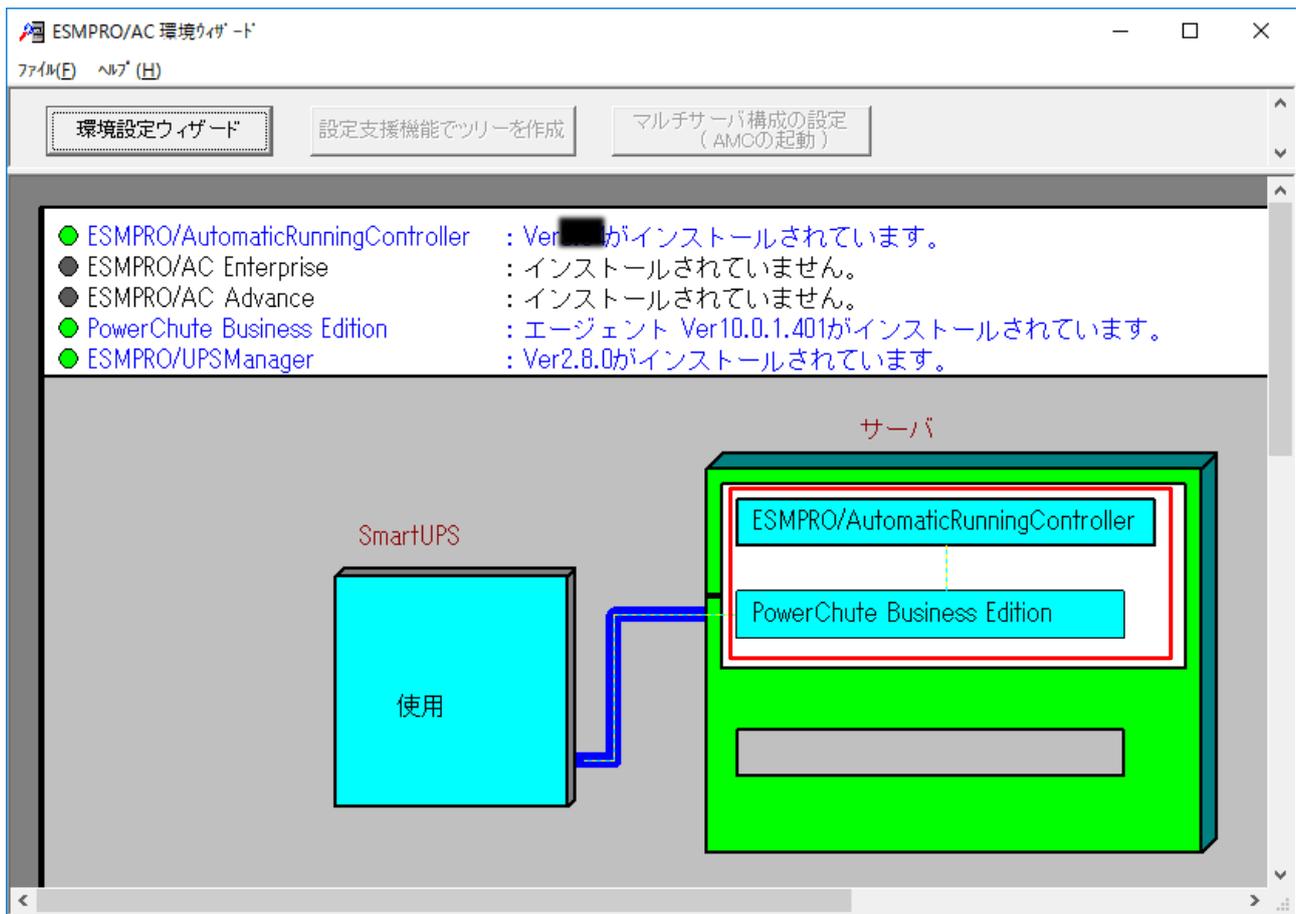


図 3.3-20

また、ESMPRO/AC GUI起動し、自動運転装置の項目が「S-UPS(PowerChute Business Edition)」と表示されていることを確認してください。

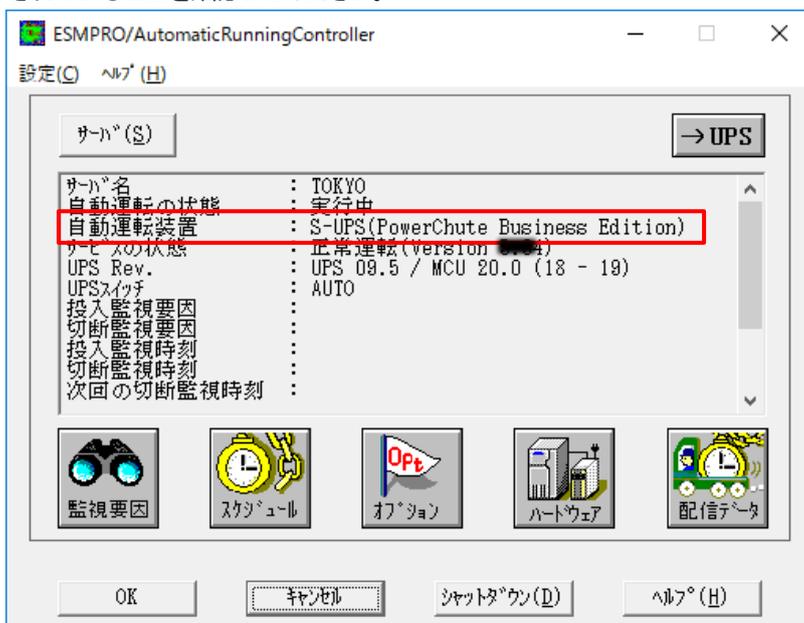


図 3.3-21

(3) UPSを使用せずに自動運転を行う

『ESMPRO/AC Advance』をインストールしている場合は、『ESMPRO/AC Advance』のセットアップカードを参照の上で設定をお願いします。
『ESMPRO/AC Advance』をインストールしていない場合は、下記設定をお願いします。

- ① "UPSを使用せずに自動運転を行う"を選択し「次へ」ボタンを押します。
- ② 設定内容が表示されますので、「完了」ボタンを押します。
以上で、ESMPRO/AutomaticRunningControllerの動作環境の設定作業は終了です。
ESMPRO/AutomaticRunningControllerサービスが再起動され、「ESMPRO_AC環境設定ウィザード」の設定内容が更新されます。

3.3.2 マルチサーバ構成の設定（「マルチサーバ構成の設定」(AMCの起動) ボタン)

オプション製品である『ESMPRO/AC Enterprise』または『ESMPRO/AC Advance』をインストールされている場合は、マルチサーバ構成の設定が必要です。「マルチサーバ構成の設定 (AMC の起動)」ボタンを押すと、「AC Management Console」が起動されます。設定方法の詳細は各オプション製品のセットアップカードを参照ください。

3.4 ライセンスキーの登録

以下の条件でESMPRO/AutomaticRunningController関連製品をインストールした場合、制御端末側でライセンスキー登録作業が必要です。

- ESMPRO/AC Enterpriseをインストールして、ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプションをインストールしたサーバを運動加端末として使用する場合。
- ESMPRO/AC Advanceをインストールして、ESMPRO/AC Advance マルチサーバオプションをインストールしたサーバを運動加端末として使用する場合。
- VMware ESXiを運動加端末として使用する場合。

注意

- ライセンス管理ツール「License Management Tool-ESMPEO/AC」起動中に「ESMPRO Platform Management Kit」の「ライセンス・バージョン管理」を実行した場合は、ライセンス状態がすぐに表示されません。本ツールを終了させた後に、もう一度起動してください。

- (1) [スタート]->[すべてのプログラム]->[ESMPRO/AutomaticRunningController]->[ESMPRO_AC ライセンス]を起動し、「追加」ボタンを選択します。

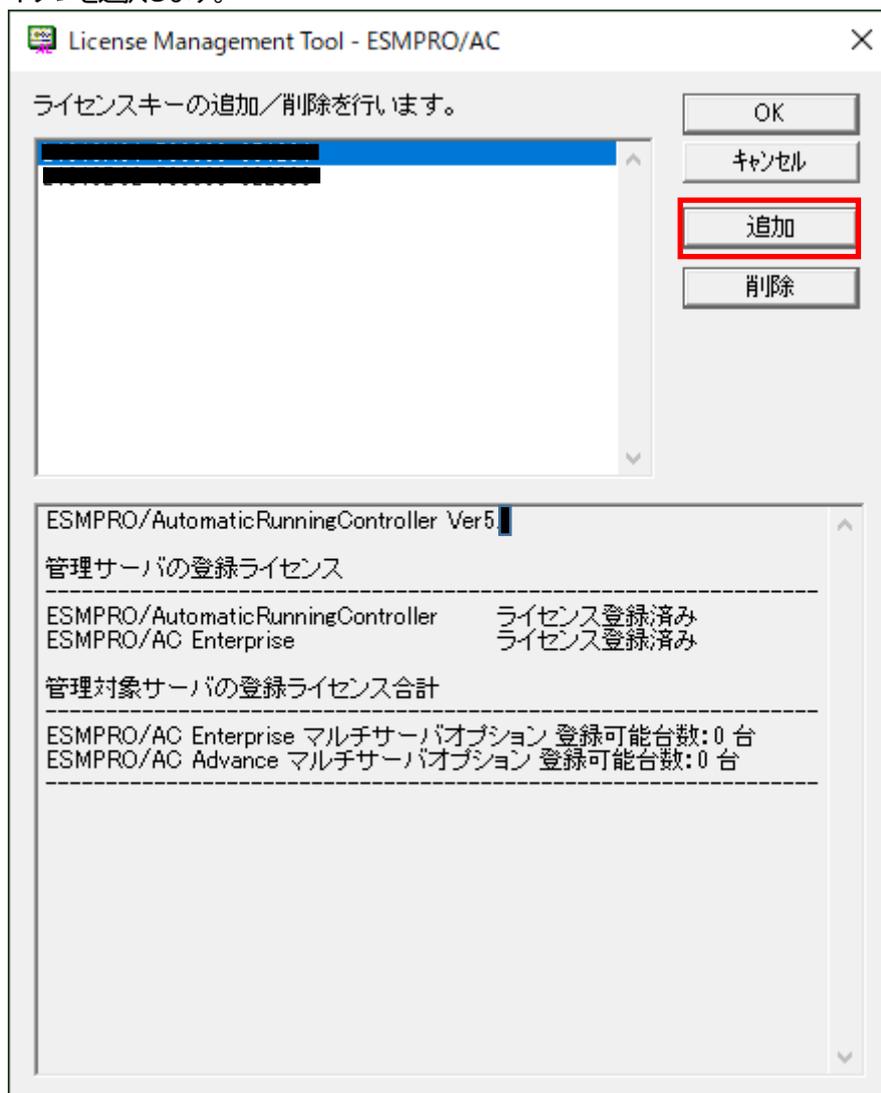


図 3.4-1

(2) ライセンスキーの入力画面が表示されますので、ライセンスキーを入力し、「OK」ボタンを選択します。

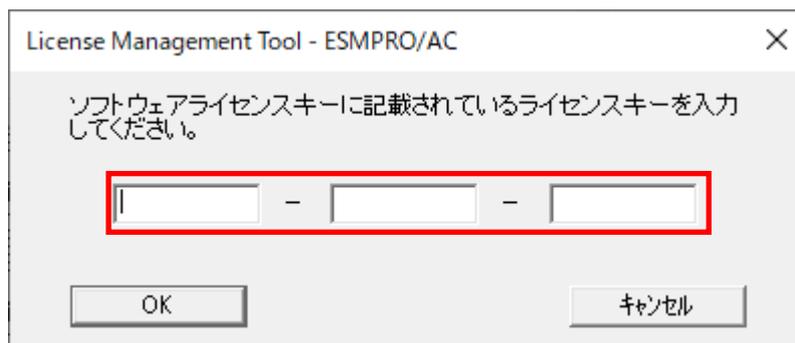


図 3.4-2

(3) 下図のように登録したライセンスキーが表示されていることを確認します。

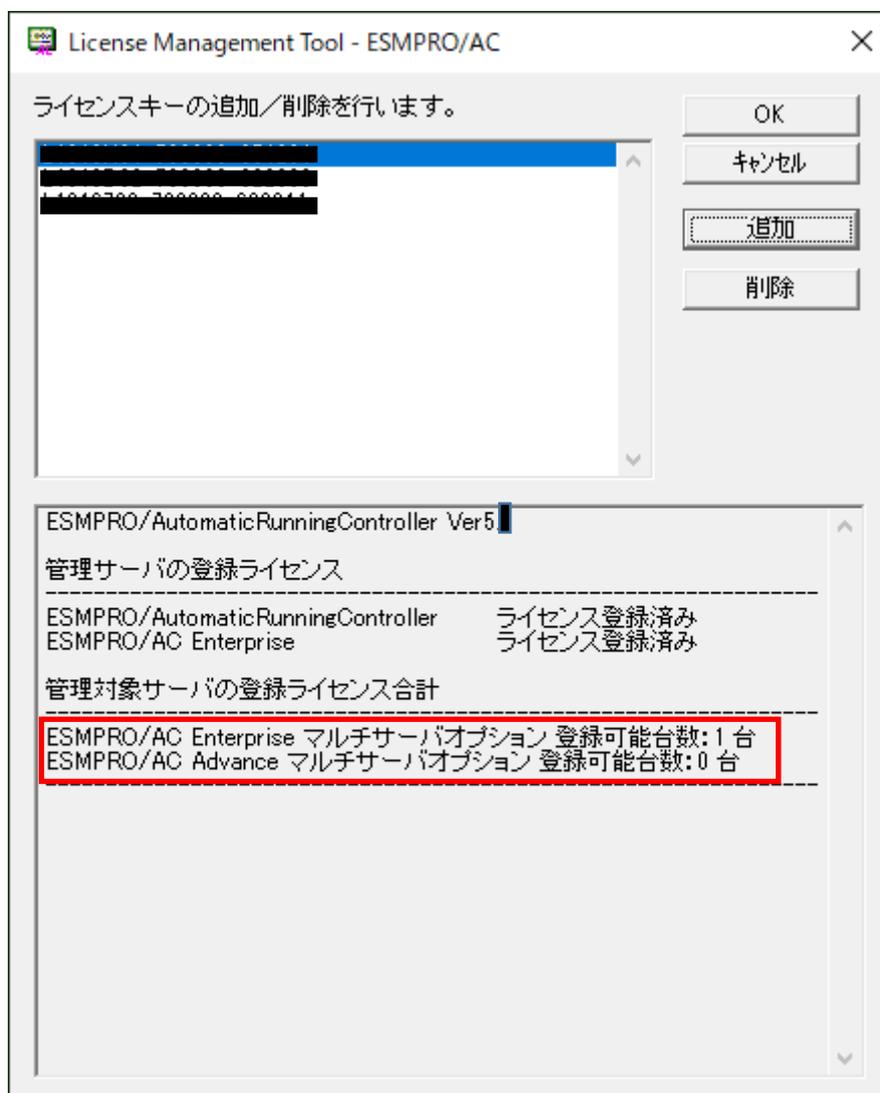


図 3.4-3

3.5 ESMPRO/AutomaticRunningController のアンインストール

注意

- 対象サーバに ESMPRO/AutomaticRunningController のオプション製品 (ESMPRO/AC Enterprise、ESMPRO/AC Advance、ESMPRO/AC MSCS オプション) がインストールされている場合は、先にそれらの製品のアンインストールを実行します。(方法についてはオプション製品のセットアップカードを参照してください。)
- 対象サーバに CLUSTERPRO X がインストールされている場合は、CLUSTERPRO サービスを停止させた後、コマンドプロンプト上で下記コマンドを実行します。CLUSTERPRO サービスの停止方法については、CLUSTERPRO X のマニュアルを参照してください。

```
> dpacmode disable
```

- ESMPRO Platform Management Kit よりアンインストールを実行する場合は、インストールイメージの以下のディレクトリより『Setupac.exe』を起動してください。
「software¥999¥win¥esmpro_arc¥cd」
 - CD-ROM ドライブをご利用できない場合は、『ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.5』の内容で iso イメージファイルを作成しマウントしてアンインストールを行ってください。
- インストールを行った Administrator もしくは Administrator 権限のあるユーザでコンピュータにログオンします。
ラベルに『ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.5』と記載されている CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットしてください。
 - CD-ROM ドライブの『Setupac.exe』を起動します。

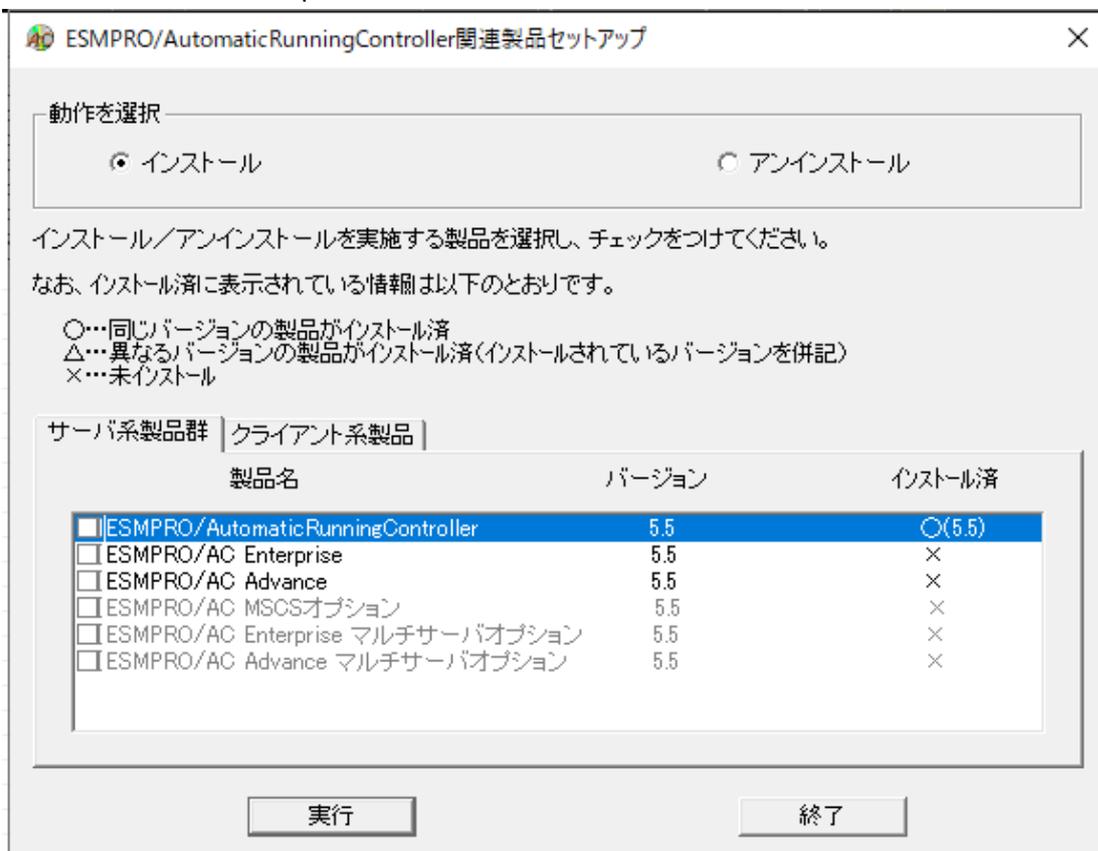


図 3.5-1
41

- (3) 「動作を選択」のラジオボタンで「アンインストール」を選択したあと、サーバ系製品群タブの中からESMPRO/AutomaticRunningControllerを選択し、チェックを有効にします。

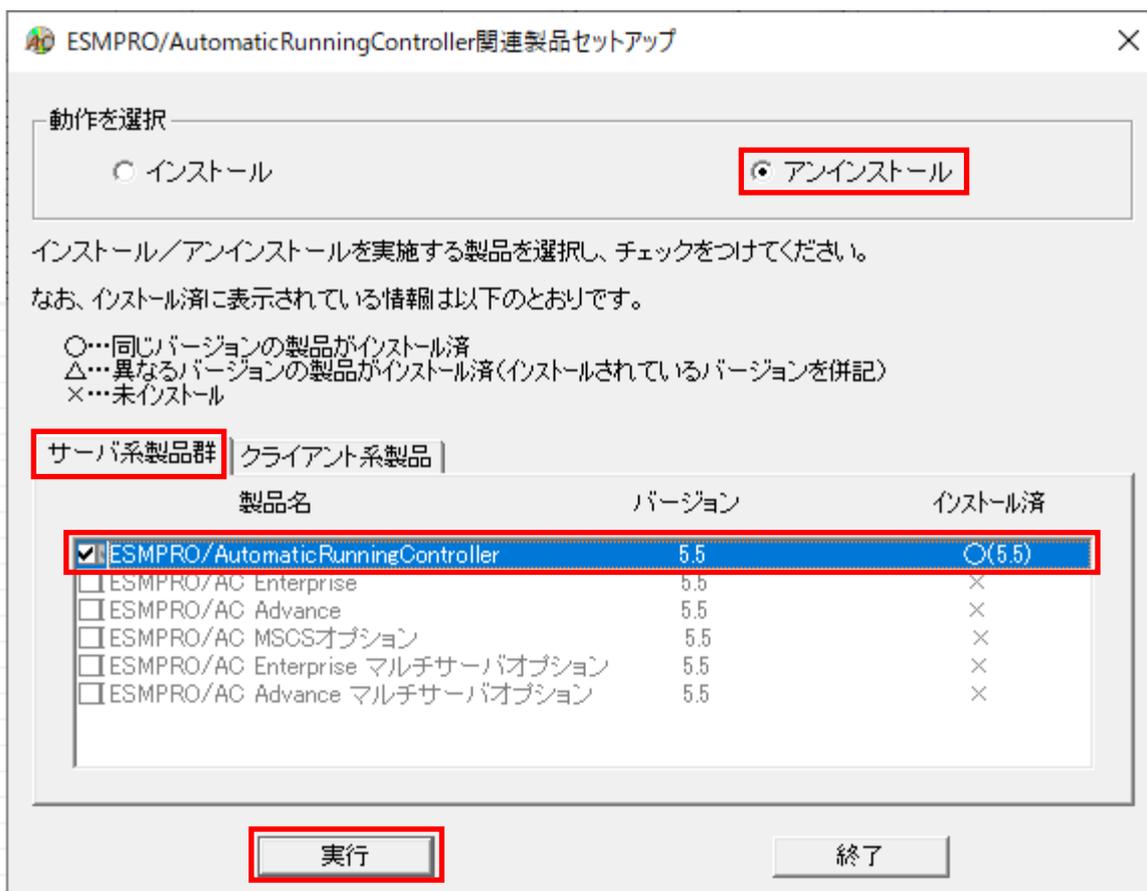


図 3.5-2

- (4) 「実行」ボタンを選択します。
- (5) 選択した製品のアンインストール確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。



図 3.5-3

(6) インストーラが起動され、もう一度確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。

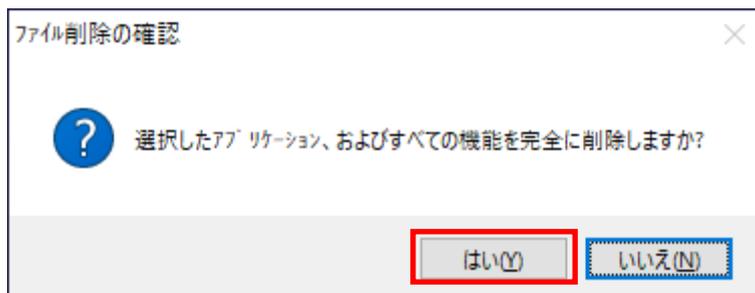


図 3.5-4

(7) ファイルの削除が行われます。

(8) 次の画面が表示されたら、アンインストールの完了です。「完了」ボタンを選択します。

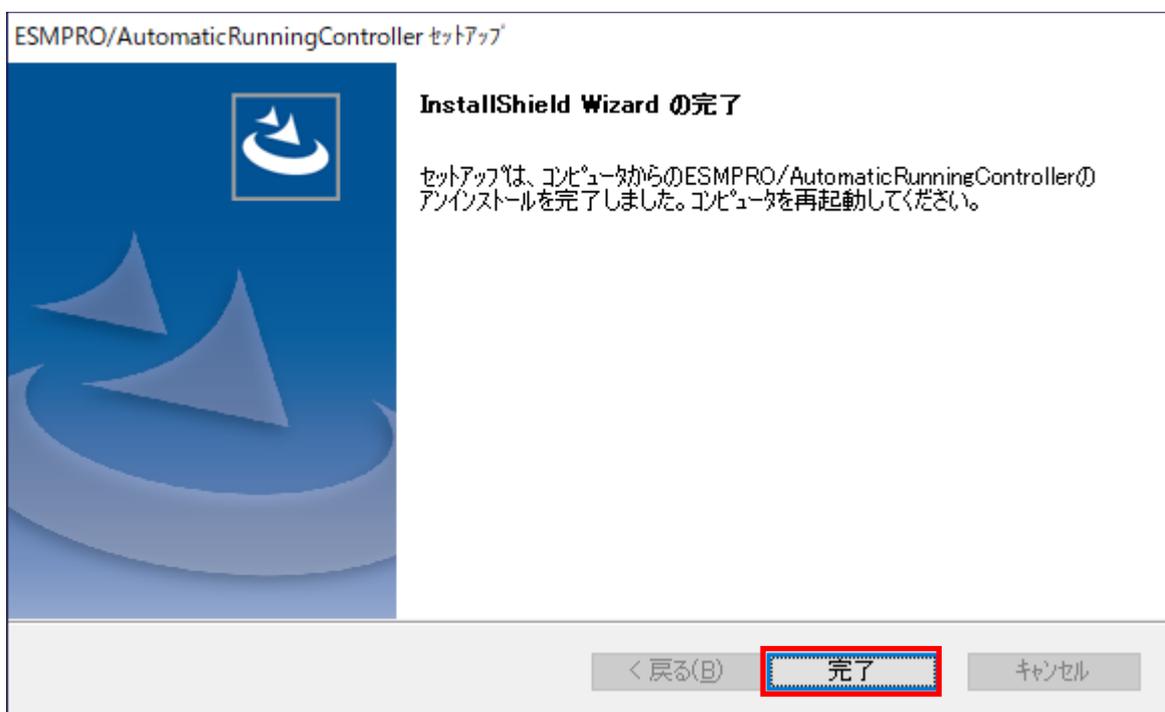


図 3.5-5

- (9) 最初の画面に戻り、ESMPRO/AutomaticRunningControllerのインストール済欄に×が表示されていることを確認します。

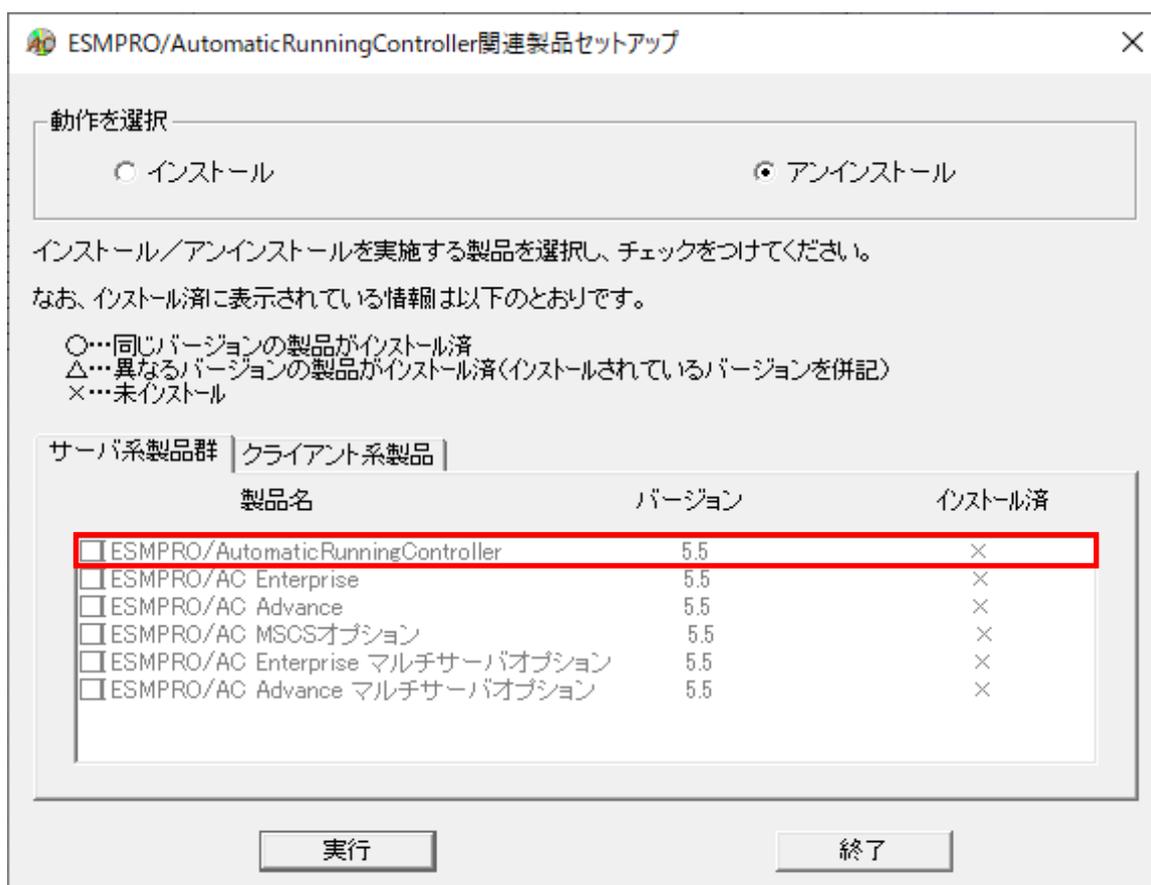


図 3.5-6

- (10) アンインストール後は、Setupac.exe を終了してシステムを再起動してください。

第4章 スケジュール運転の設定

4.1 スケジュール運転によるサーバの自動運転

注意:

製品ライセンス適用が行われていない場合、「ESMPRO/AutomaticRunningController GUI」は起動できません。



図 4.1-1

自動運転を行うサーバのスケジュール登録を行うには、『ESMPRO/AutomaticRunningController GUI』で設定を行う必要があります。

以下を例に、スケジュール運転の設定方法を説明します。

- ①月曜日から金曜日までは、8時00分に電源投入。17時00分に電源切断。
- ②土日祝は、運用しない。

(1) ESMPRO/AutomaticRunningController GUIの起動

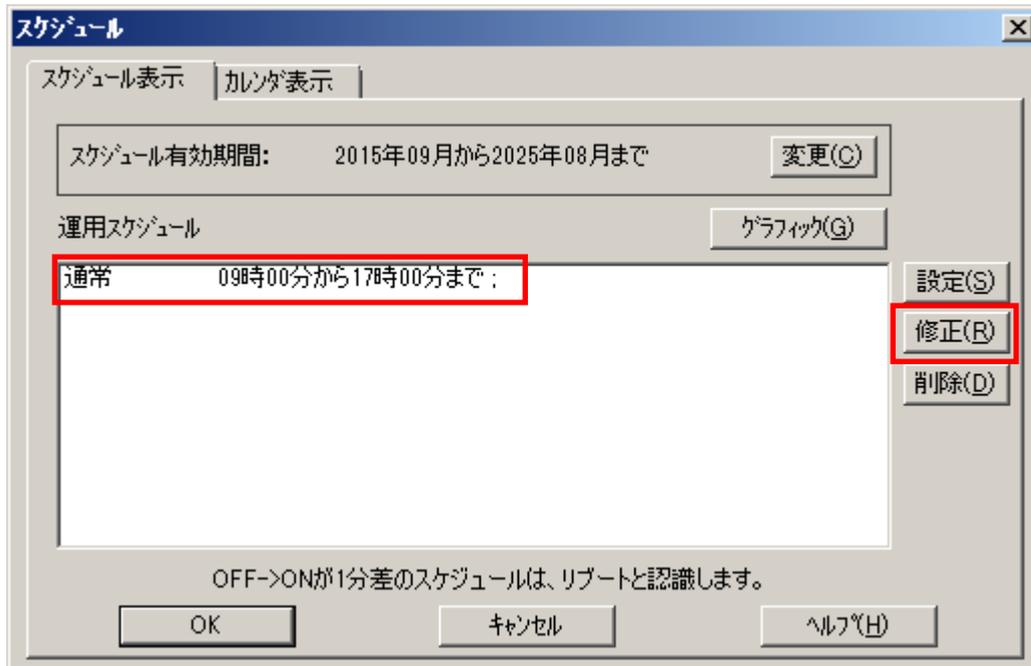
[スタート]メニュー → [すべてのプログラム] → [ESMPRO_AutomaticRunningController] → [ESMPRO_AC] を起動してください。

起動すると以下のような画面が表示されますので「スケジュール」ボタンを押してください。



図 4.1-2

- (2) 「スケジュール」画面が表示されますので、画面内の
“通常 09時00分から17時00分まで”（赤枠）を選択し「修正」ボタンを押してください。



“月曜日から金曜日までは、8時00分に電源投入。17時00分に電源切断。”
設定を行います。
投入時間を9時00分→8時00分に変更し、「OK」ボタンを選択してください。

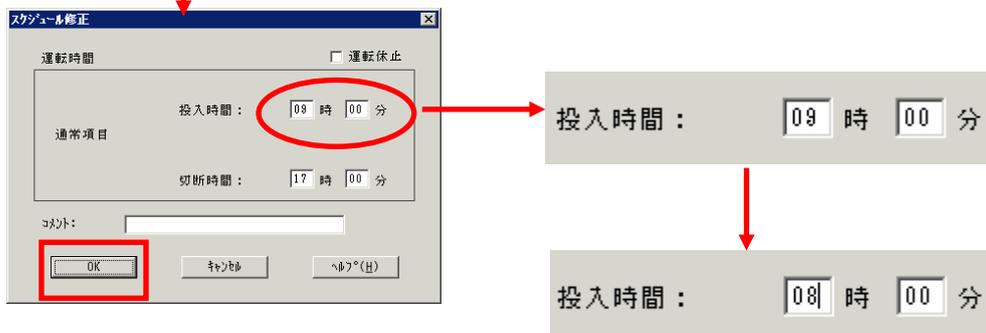


図 4.1-3

(3) 「スケジュール」画面に戻りますので、(2)で変更した時間が反映されているか確認を行います。
問題なければ、「設定」ボタンを選択して、「②土日祝は、運用しない。」の設定を行います。

- ①「設定」画面が表示されましたら「祭日休日指定」タブを選択します。赤枠内すべてのチェックを有効にします。
- ②次に「曜日指定」タブを選択します。
同じく赤枠内のように、「複数曜日」と「日」、「土」、「運転休止」のチェックを有効にして「OK」ボタンを選択してください。
- ③「スケジュール」画面に戻りますので、「OK」ボタンを選択してください。
- ④青枠のようなメッセージ画面が表示されますので、すべて「はい」または「OK」ボタンを選択してください。

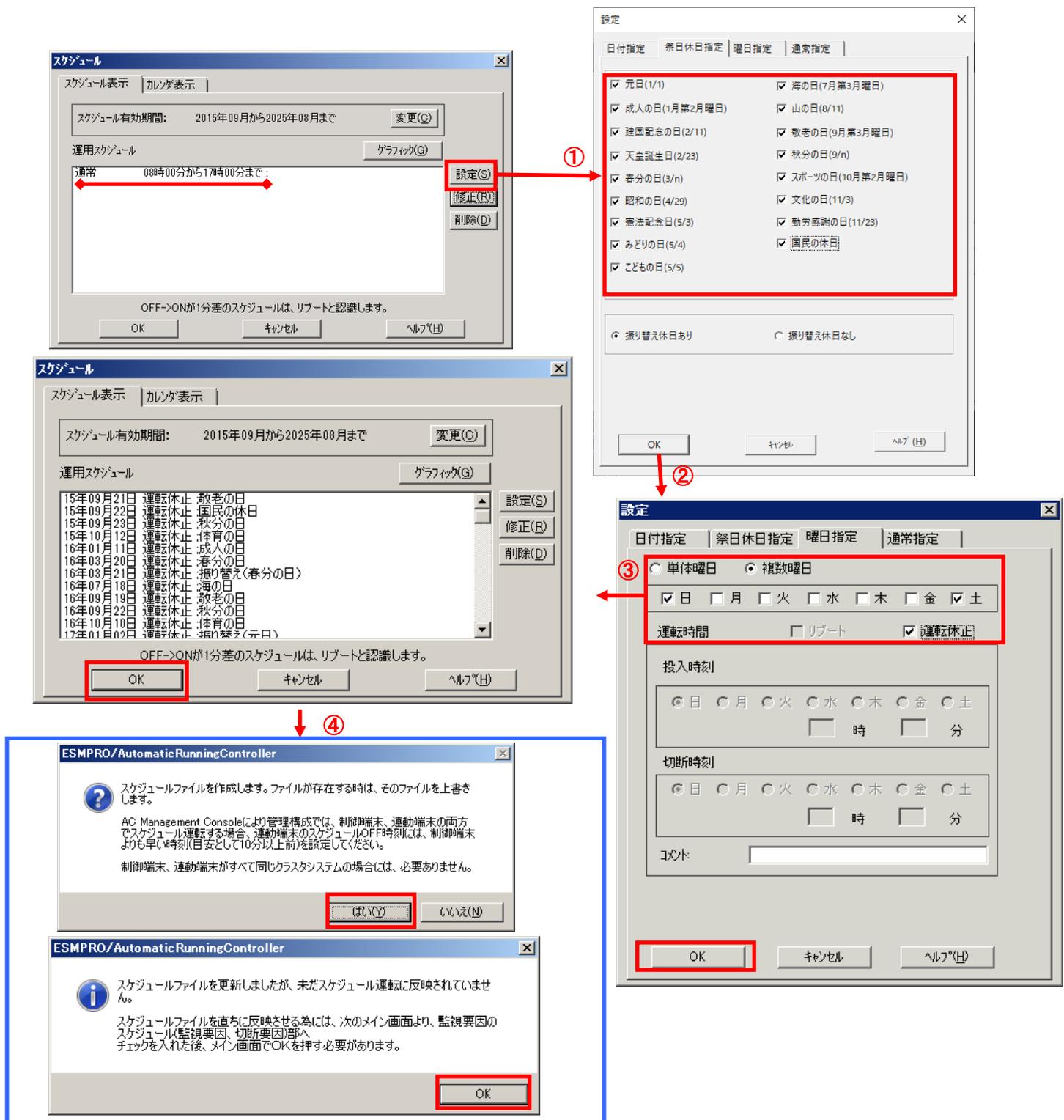


図 4.1-4
47

(4) 以下のような画面に戻りましたら、「監視要因」ボタンを選択してください。

①以下のような画面が表示されましたら、「投入要因」タブと「切断要因」タブ内にある、「基本部」欄の「スケジュール」のチェックを有効にしてください。

その後「OK」ボタンを選択してください。

③ メッセージ画面が表示されますので、「OK」ボタンを選択してください。

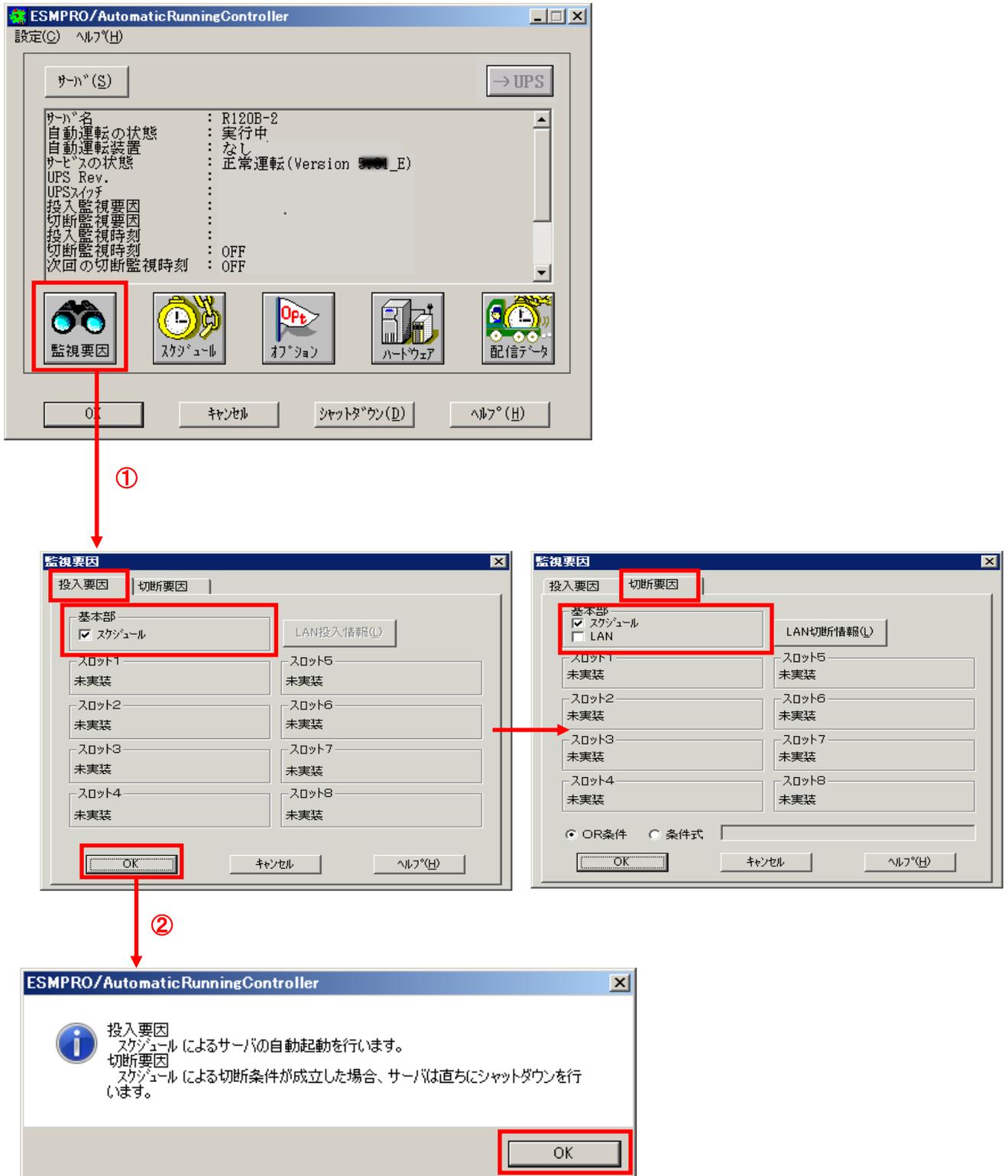


図 4.1-5

(5) 以下のような画面に戻りましたら、「OK」ボタンを選択してください。

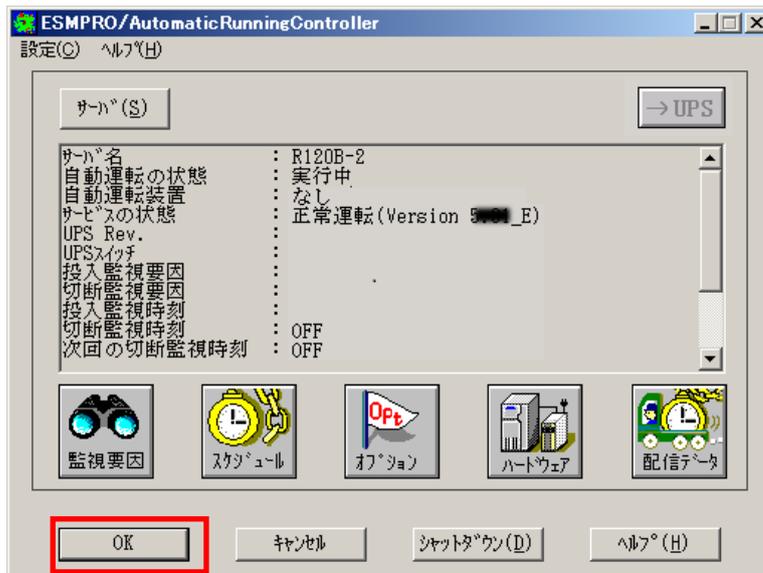


図 4.1-6

以下のような画面が表示されますので、「OK」ボタンを選択してください。

「OK」ボタンを押しますと、ESMPRO/AutomaticRunningController GUIが終了します。

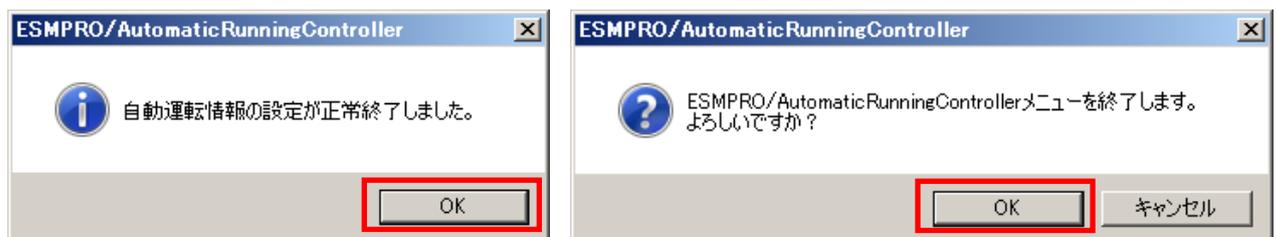


図 4.1-7

※参考

最後の確認メッセージで「キャンセル」を選択すると、スケジュール変更設定完了後の情報確認ができます。



図 4.1-8

(注意事項)

スケジュール設定方法の詳細は、『ESMPRO/AC GUI』のヘルプ、
"「スケジュール」ダイアログボックス"をご参照ください。

- ・ スケジュールの設定には優先順位があり、日付項目→曜日項目→通常項目という順位で優先されます。
- ・ 祭日休日は、設定した時のスケジュールの有効期限内のみ運転休止に登録します。
- ・ 設定後は、グラフィック表示やカレンダー表示にて正しくスケジュールが登録されていることをご確認ください。

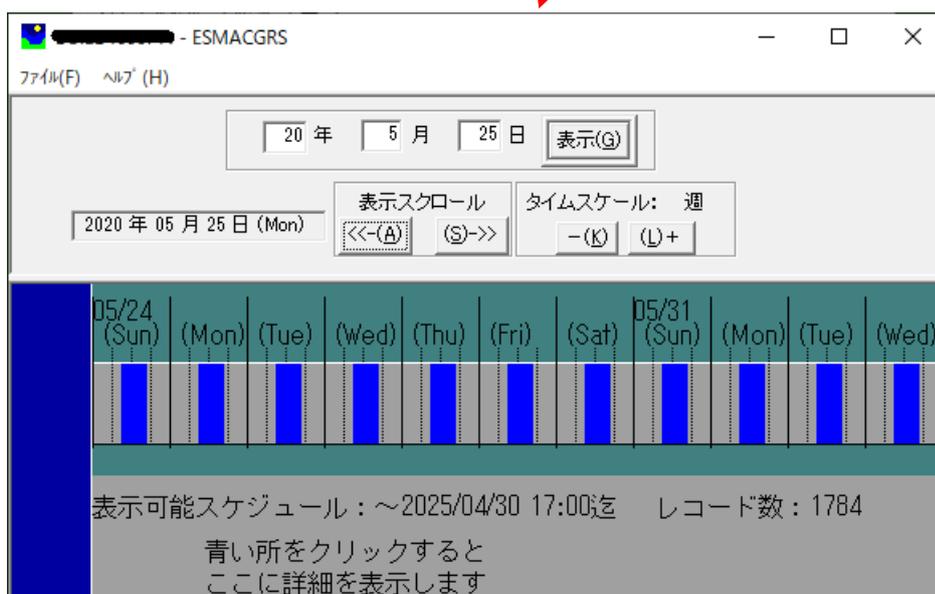
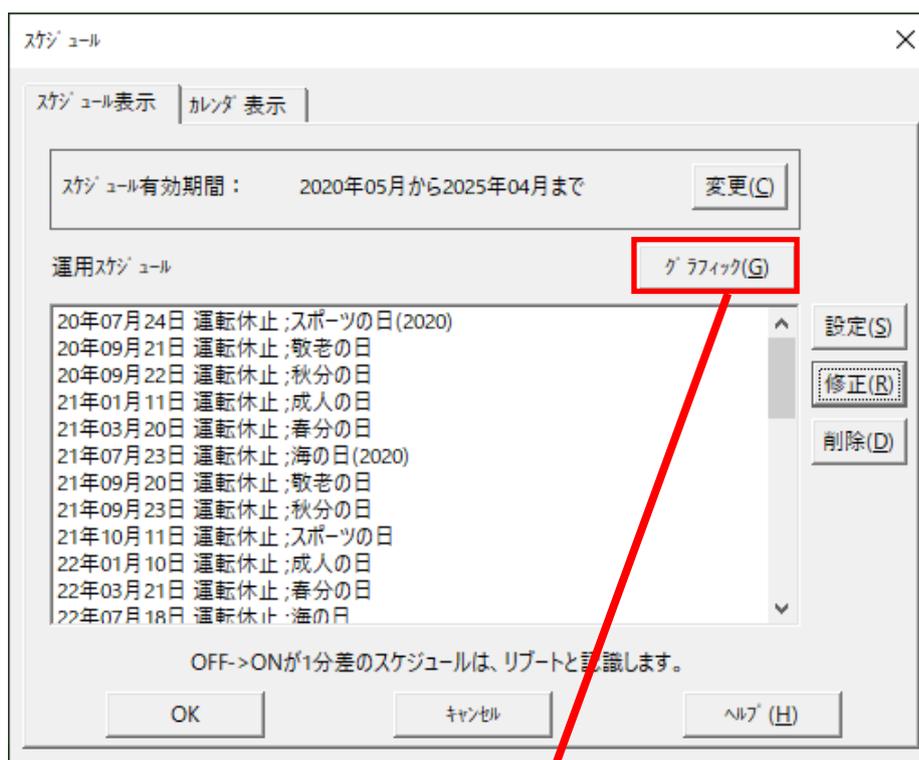


図 4.1-9

第5章 ジョブの登録方法

ESMPRO/AutomaticRunningControllerでは、サーバ停止時に動作させるジョブ（バッチファイルまたはプログラム）をあらかじめ登録することができます。ジョブの登録は、『ESMPRO/AutomaticRunningController GUI』で行います。

注意1

- ・登録されたジョブは、ESMPRO/ARC Service サービス（SYSTEM ユーザ）により実行されます。
- ・コマンドプロンプト上で実行した際にYes/No などの入力を促されるコマンドをジョブとして登録した場合、ジョブが入力待ちの状態となり、正しく実行されないことがあります。あらかじめ入力内容を記載したファイルから読み込ませるなどして、入力待ちの状態にならないように工夫願います。
- ・ジョブ実行に関するお問い合わせの際、ジョブの内容に関するお問い合わせにはお答えできませんのでご了承ください。

ジョブの登録は、以下の3つがあります。

- ①電源投入時のジョブ登録
- ②電源切断時のジョブ登録
- ③電源異常切断時のジョブ登録

なお、ここではジョブの登録方法について説明します。

注意2

製品ライセンス適用が行われていない場合、「ESMPRO/AutomaticRunningController GUI」は起動できません。



図 4.1-1

5.1 ジョブ登録画面の起動方法

(1) ESMPRO/AutomaticRunningController GUI の起動

[スタート]メニュー → [すべてのプログラム] → [ESMPRO_AutomaticRunningController] → [ESMPRO_AC] を起動してください。

起動すると以下のような画面が表示されますので「オプション」ボタンを押してください。



図 5.1-1

- (2) 「オプション」画面が表示されますので、「ジョブ起動」タブに切り替えて「ジョブ起動画面」を表示します。

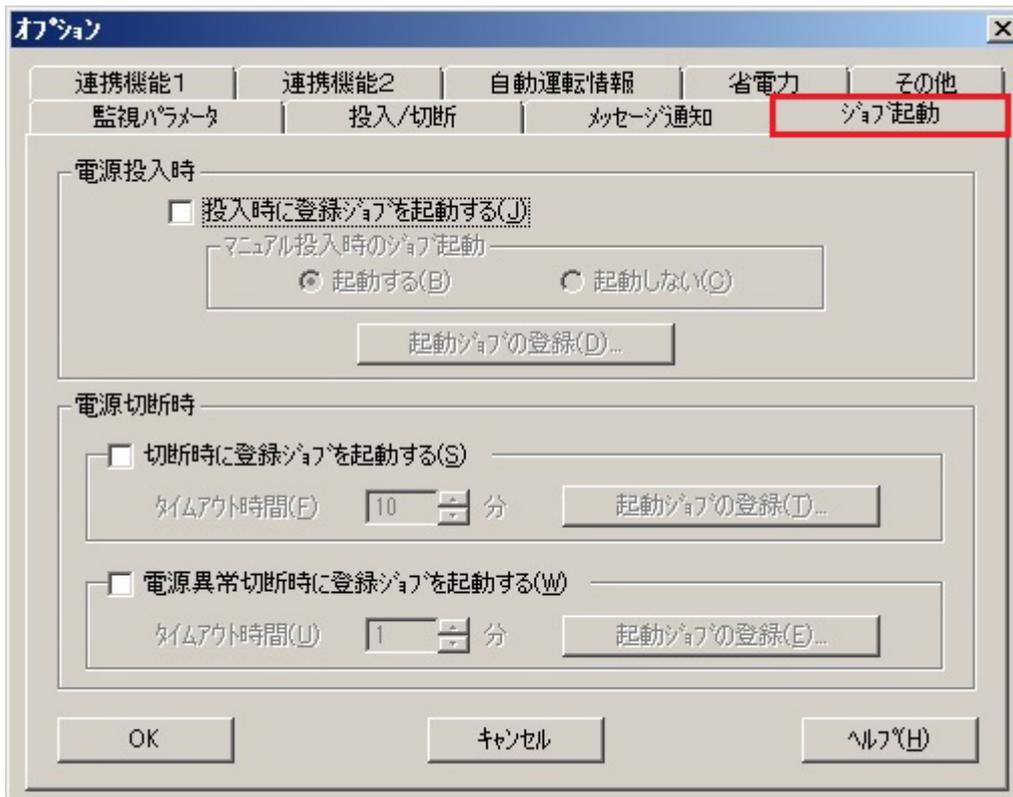


図 5.1-2

5.2 電源投入時のジョブ登録方法

投入条件が成立した後、電源を投入した後、実行するジョブを登録します。

- (1) 画面内の「電源投入時」－「電源投入時に登録ジョブを起動する」をチェックして、「起動ジョブの登録(D)」ボタンを押せる状態にします。

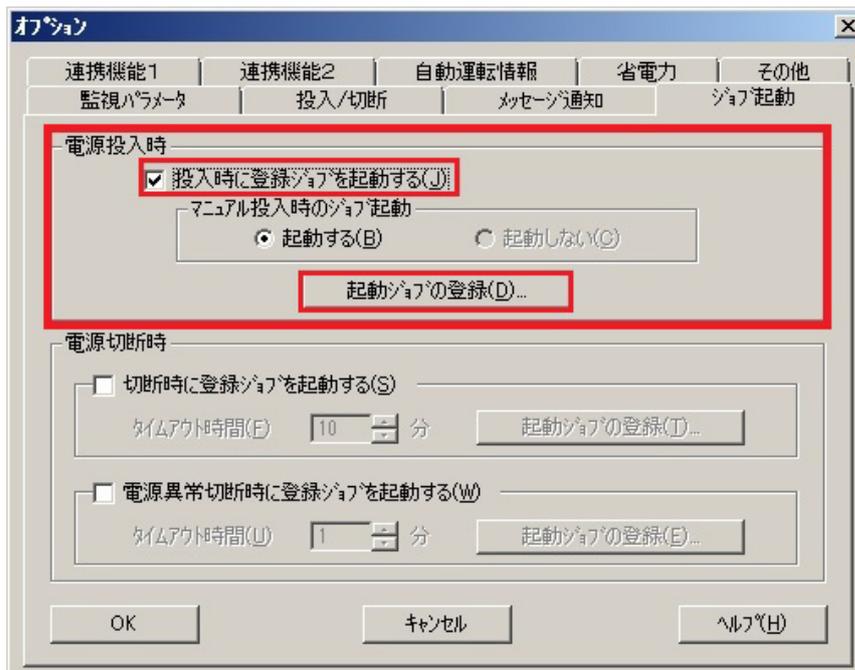


図 5.2-1

- (2) 画面内の「電源投入時」－「起動ジョブの登録」ボタンを押して、起動時のジョブ登録画面を表示します。

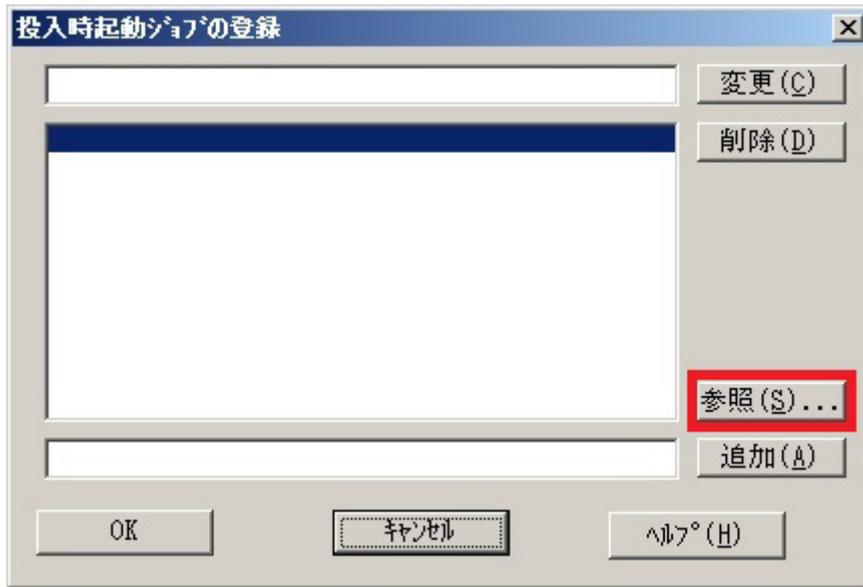


図 5.2-2

※登録時の注意事項

1. ジョブは、画面中段にあるリストボックスに登録された順番に実行されますが、複数のジョブが登録された場合は、先に実行されたジョブの終了を待たずに並列で実行されます。

<ジョブ登録例> コマンドリスト

```
C:\JOB1.EXE 1
C:\WORK\JOB2.EXE
D:\TEMP\JOB3.EXE /A/B
D:\USER1\BACKUP.EXE
```

上記登録例の場合、JOB1.EXE → JOB2.EXE → JOB3.EXE → BACKUP.EXE の順番に起動され、並列して実行されます。

2. 登録するジョブ名およびコマンド名は、ドライブ名を含めたフルパスで指定してください。
3. コマンドパラメータが必要な場合は、画面下段にあるテキストボックスに、直接入力してください。
4. 登録できるジョブ数は、最大99個です。
5. 登録するジョブが複数ある場合は、(3) から (5) の手順を繰り返し実行してください。

- (3) 「参照」ボタンを押して、「ファイルの参照」ダイアログボックスを表示します。
登録するジョブ名の選択を行い、画面下段にあるテキストボックスに表示します。

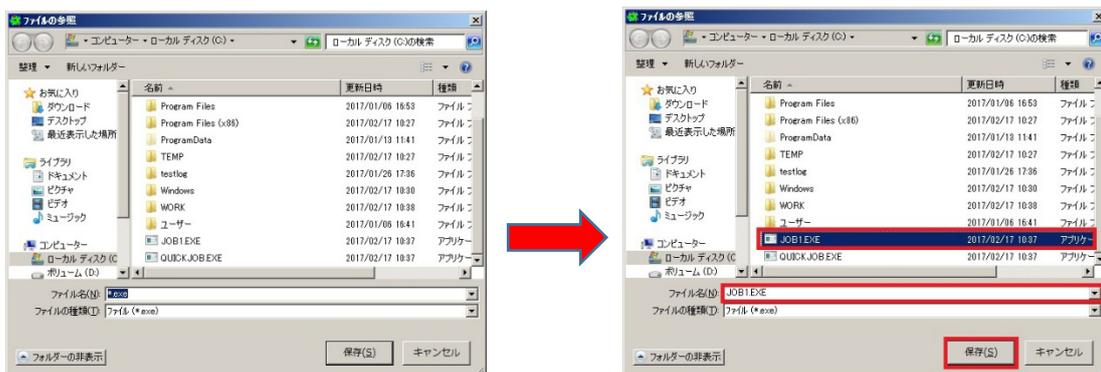


図 5.2-3

または、画面下段にあるテキストボックスに直接入力します。

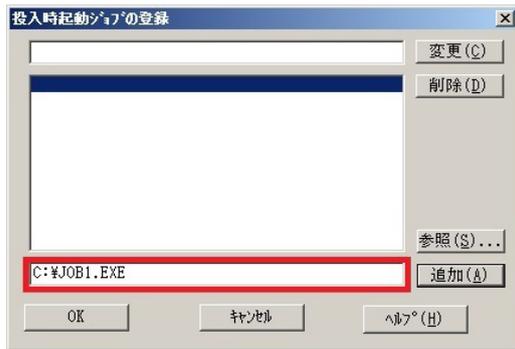


図 5.2-4

- (4) 画面下段にあるテキストボックスに表示されたジョブ名にコマンド/パラメータの指定が必要であれば、直接入力してください。

例) コマンド/パラメータとして1を入力した場合

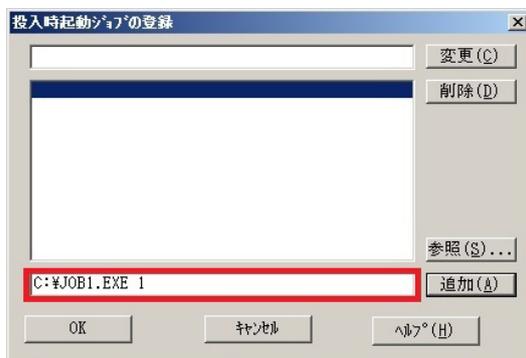


図 5.2-5

- (5) 「追加」 ボタンを押して、実行するジョブのリストに追加します。

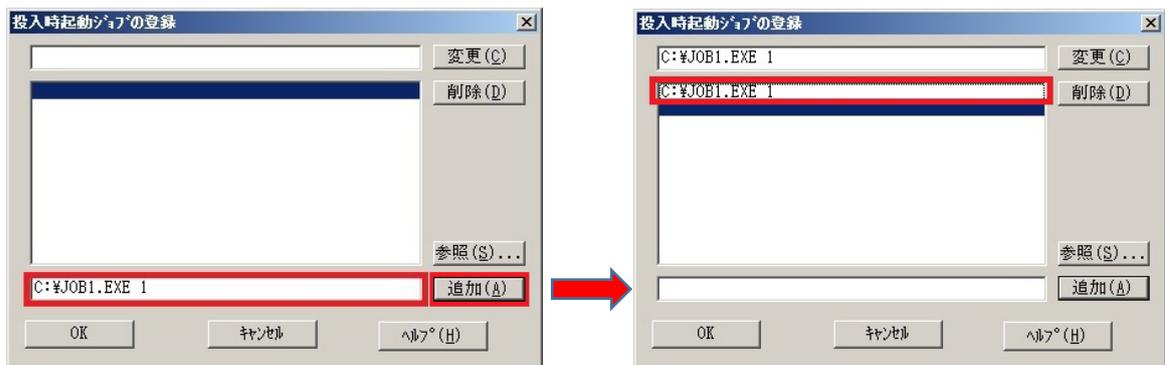


図 5.2-6

(6) 登録するジョブの指定が全部終わりましたら、「OK」ボタンを押して登録します。

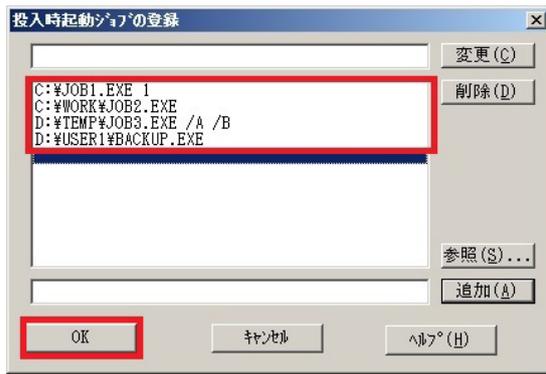


図 5.2-7

5.3 電源切断時のジョブ登録方法

切断条件が成立した後、電源を切断する前に、実行するジョブを登録します。

電源切断時のジョブ登録には、以下の2つがあります。

1. 切断時に登録ジョブを起動する場合
2. 電源異常切断時に登録ジョブを起動する場合

5.3.1 電源切断時に起動するジョブの登録方法

スケジュール運転や AC Management Console からのシャットダウン等、電源異常ではない場合のシャットダウンが開始する前に、登録ジョブが起動します。

- (1) 画面内の「電源切断時」－「切断時に登録ジョブを起動する」をチェックして、「起動ジョブの登録(T)」ボタンを押せる状態にします。

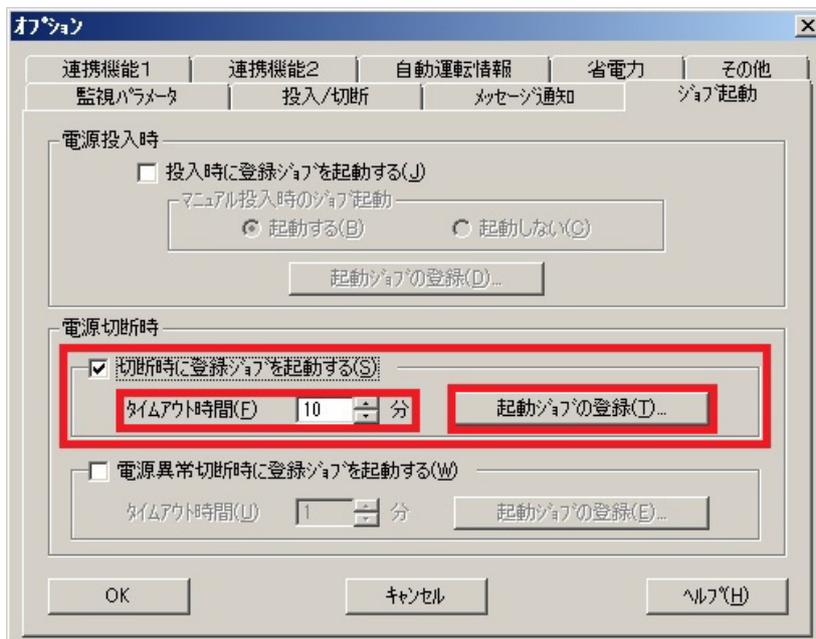


図 5.3-1

- (2) 画面内の「電源切断時」－「起動ジョブの登録(T)」ボタンを押して、切断時起動ジョブの登録画面を表示します。

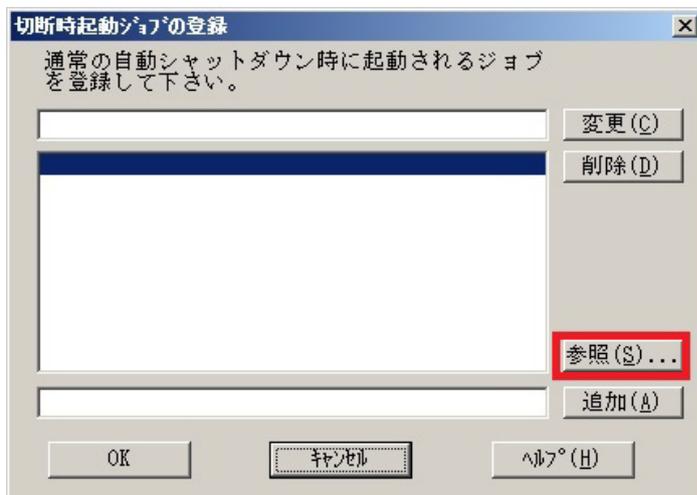


図 5.3-2

※登録時の注意事項

1. ジョブは、画面中段にあるリストボックスに登録された順番に実行されます。
<電源異常切離時のジョブ登録例> コマンドリスト
1 C:¥QUICKJOB.EXE
上記登録例の場合、QUICKJOB.EXE を実行します。
2. 登録するジョブ名およびコマンド名は、ドライブ名を含めたフルパスで指定してください。
3. コマンドパラメータが必要な場合は、画面下段にあるテキストボックスに、直接入力してください。
4. 登録できるジョブ数は、最大99個です。
5. 登録するジョブが複数ある場合は、(3) から (5) の手順を繰り返し実行してください。

- (3) 「参照」ボタンを押して、「ファイルの参照」ダイアログボックスを表示します。
登録するジョブ名の選択を行い、画面下段にあるテキストボックスに表示します。

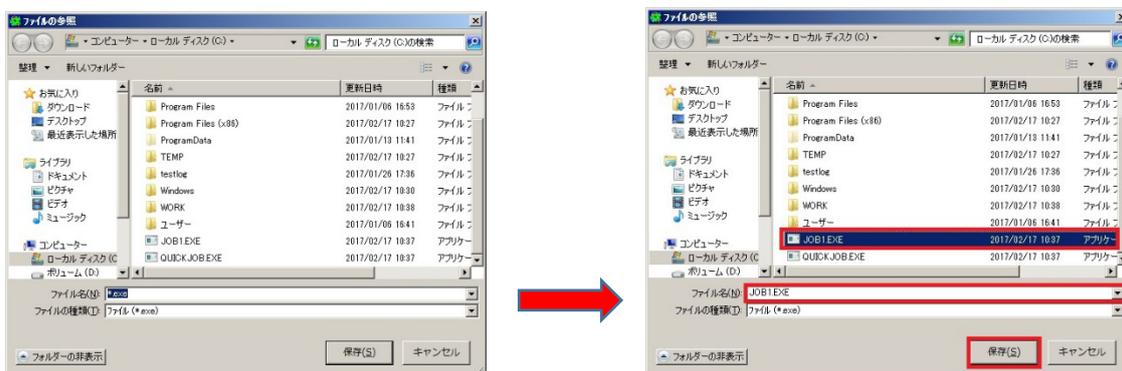


図 5.3-3

または、画面下段にあるテキストボックスに直接入力します。

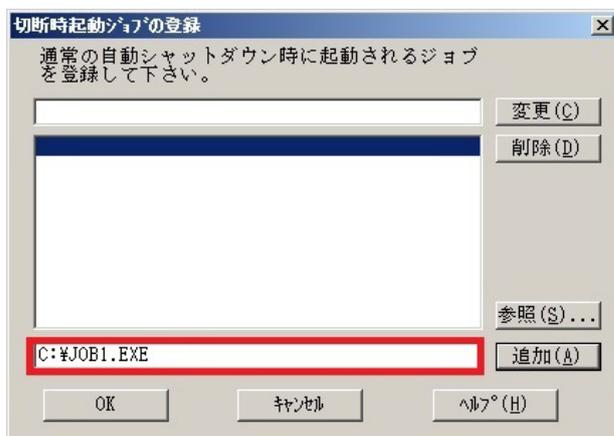


図 5.3-4

- (4) 画面下段にあるテキストボックスに表示されたジョブ名にコマンド/パラメータの指定が必要であれば、直接入力してください。

例) コマンドパラメータとして1を入力した場合

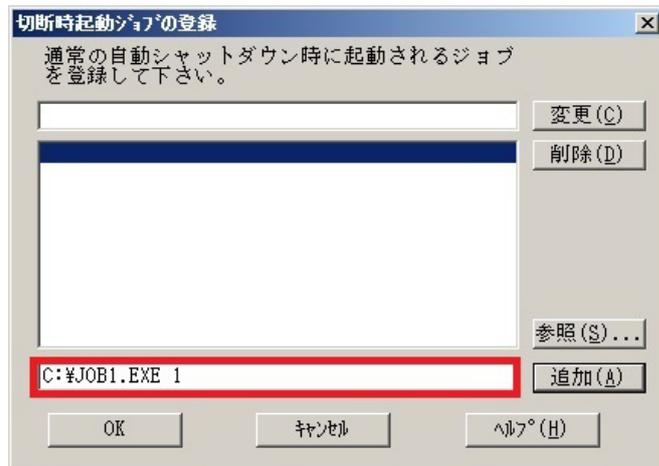


図 5.3-5

- (5) 「追加」ボタンを押して、実行するジョブのリストに追加します。

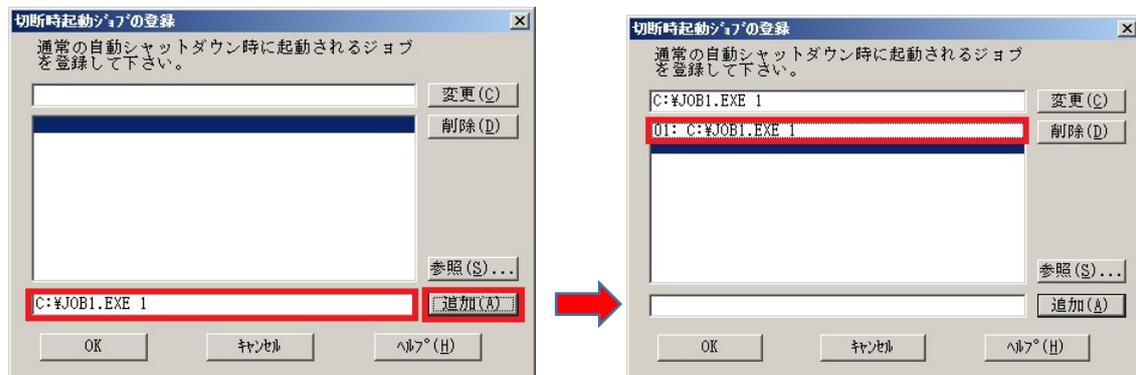


図 5.3-6

- (6) 登録するジョブの指定が全部終わりましたら、「OK」ボタンを押して登録します。

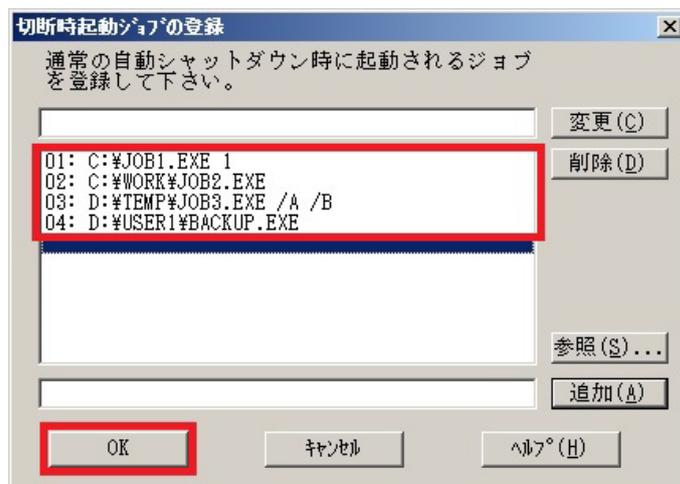


図 5.3-7

- (7) 画面内の「電源切断時」－「タイムアウト時間(F)」の設定を行います。
設定範囲は、1分～255分となります。
このタイムアウト時間以内に登録されたジョブが完了しない場合は、その時点でサーバのシャットダウン処理に移行しサーバが強制終了します。

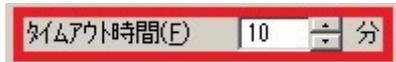


図 5.3-8

5.3.2 電源異常切断時に起動するジョブの登録方法

電源異常によるシャットダウンの前に、登録ジョブを起動することができます。登録方法について記載します。

- (1) 画面内の「電源切断時」－「電源異常切断時に登録ジョブを起動する」をチェックして、「起動ジョブの登録(E)」ボタンを押せる状態にします。

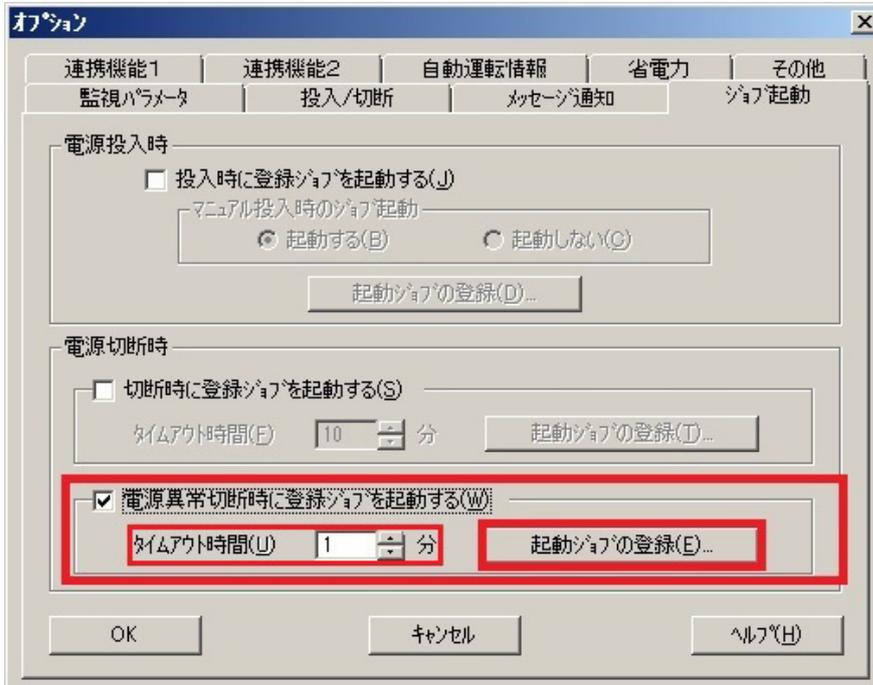


図 5.3-9

- (2) 画面内の「電源切断時」－「起動ジョブの登録(E)」ボタンを押して、電源異常時の切断時起動ジョブの登録画面を表示します。

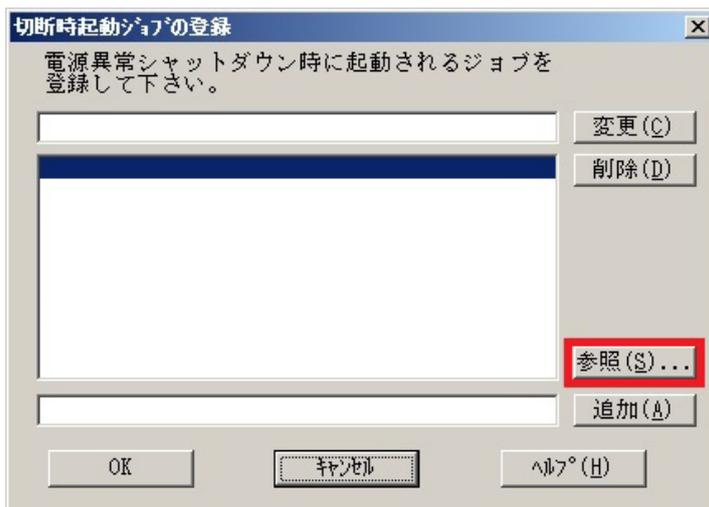


図 5.3-10

※登録時の注意事項

1. ジョブは、画面中段にあるリストボックスに登録された順番に実行されます。
 <電源異常切離時のジョブ登録例> コマンドリスト
 1 C:\QUICKJOB.EXE
 上記登録例の場合、QUICKJOB.EXE を実行します。
2. 登録するジョブ名およびコマンド名は、ドライブ名を含めたフルパスで指定してください。
3. コマンドパラメータが必要な場合は、画面下段にあるテキストボックスに、直接入力してください。
4. 登録できるジョブ数は、最大99個です。
5. 登録するジョブが複数ある場合は、(3) から (5) の手順を繰り返し実行してください。

- (3) 「参照」ボタンを押して、「ファイルの参照」ダイアログボックスを表示します。
 登録するジョブ名の選択を行い、画面下段にあるテキストボックスに表示します。

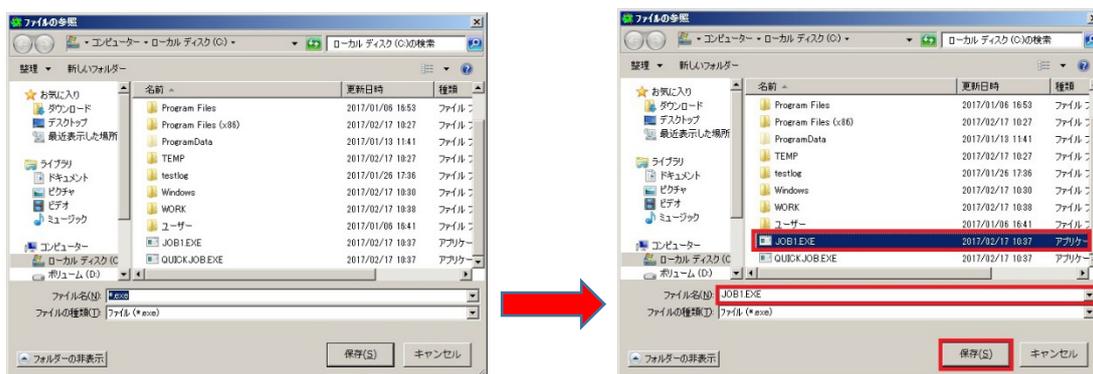


図 5.3-11

または、画面下段にあるテキストボックスに直接入力します。

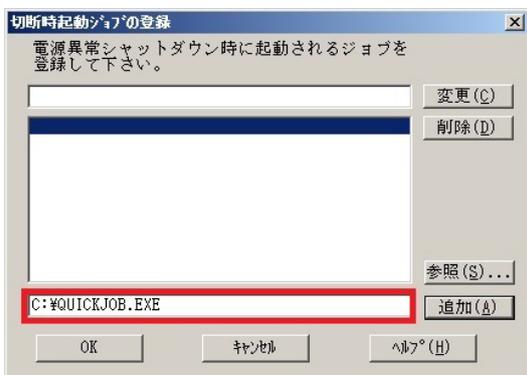


図 5.3-12

- (4) 画面下段にあるテキストボックスに表示されたジョブ名にコマンド/パラメータの指定が必要であれば、直接入力してください。

例) コマンド/パラメータとして1を入力した場合

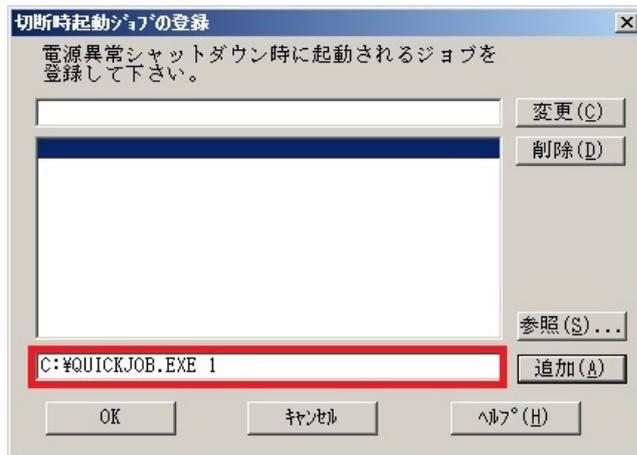


図 5.3-13

- (5) 「追加」ボタンを押して、実行するジョブのリストに追加します。

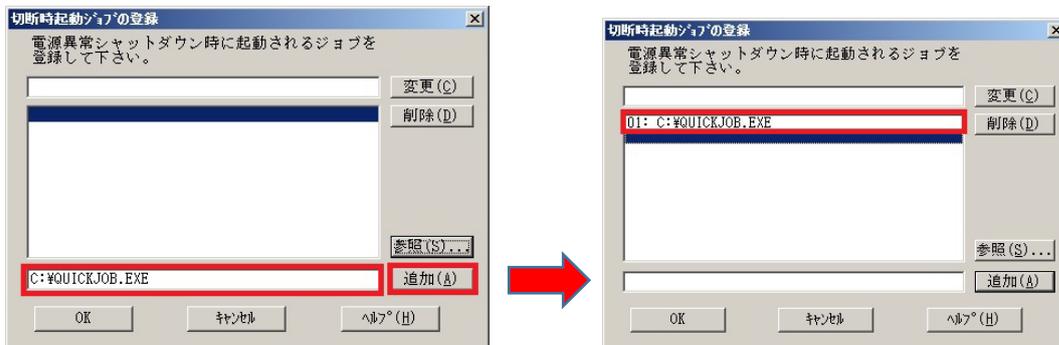


図 5.3-14

- (6) 登録するジョブの指定が全部終わりましたら、「OK」ボタンを押して登録します。

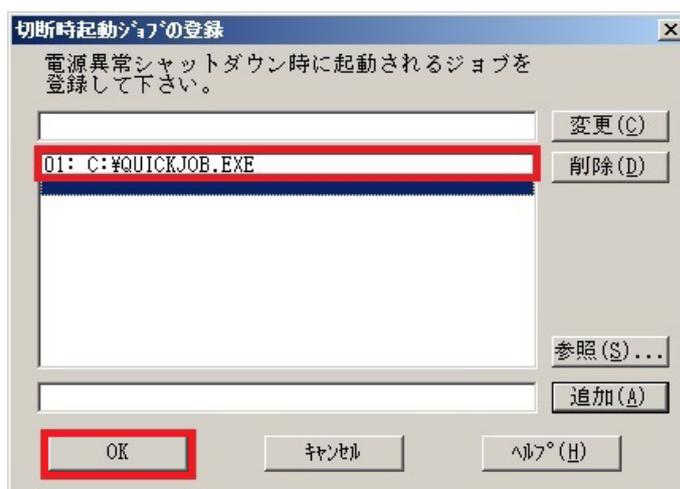


図 5.3-15

- (7) 画面内の「電源切断時」－「タイムアウト時間(U)」の設定を行います。
設定範囲は、1分～30分となります。
このタイムアウト時間以内に登録されたジョブが完了しない場合は、その時点でサーバのシャットダウン処理に移行しサーバの強制終了します。



図 5.3-16

5.4 ジョブ登録の保存

- (1) 「5.3 電源切断時のジョブ登録方法」にて登録された内容を保存するには、オプション画面の下段にある「OK」ボタンを押してください。

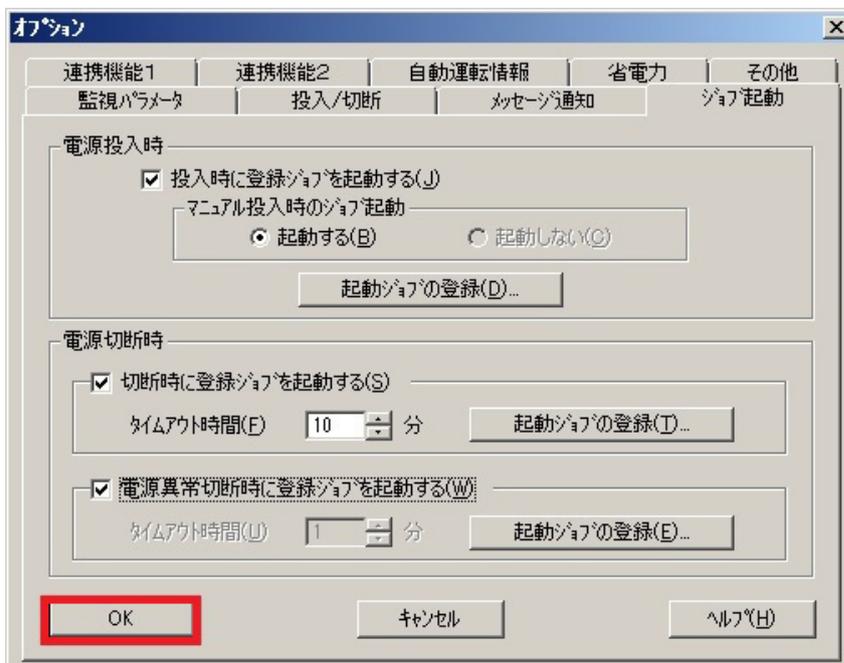


図 5.4-1

注意

PowerChute Business Edition と連携して自動運転を行う設定をしている場合は、「5. 3. 2 電源異常切断時に起動するジョブの登録方法」にて、電源異常切断時に起動するジョブを登録すると、以下の画面が表示されますので表示内容を確認していただき、関連する対応を行ってください。

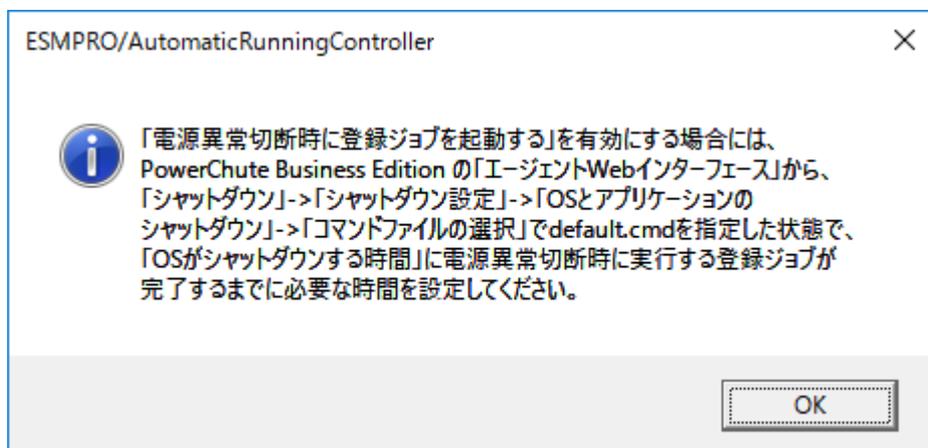


図 5.4-2

第6章 Client 監視機能

ESMPRO/AutomaticRunningController は、スケジュール機能や停電による切断要因のほか、制御端末や連動端末の切断監視要因として「Client 監視」機能を実装しています。「Client 監視」機能とは、ESMPRO/AC の制御端末や連動端末とクライアントとの通信状態を監視する機能です。同一 LAN 上に存在している、ESMPRO/AC 製品をインストールしていないサーバに Client 監視モジュールをインストールします（「クライアント」と呼んでいます）。制御端末や連動端末と、クライアントの通信が途切れると、ESMPRO/AC の制御端末や連動端末の切断要因が成立します。

本機能を ESMPRO/AC GUI を起動して後述する「Client 監視」の設定を行ってください。次に、クライアントに Client 監視モジュールをインストールして設定を行ってください。

6.1 制御端末側／連動端末側の設定

- (1) AMC ツリーより制御端末または連動端末を選択した状態で、マウスの右クリックメニューにより表示される「指定サーバの設定」を選択します。連動端末の場合は、「指定サーバ」のユーザ名とパスワードの入力が促されますので、入力します。ESMPRO/AC GUI が起動されますので、「監視要因」ボタンを選択します。



図 6.1-1

- (2) 「監視要因」画面にて「切断要因」タブを選択し、「LAN」のチェックを有効にした上で、「LAN 切断情報」ボタンを選択します。



図 6.1-2

- (3) 「LAN 切断情報」画面にて「Client 監視」タブを選択し、「Client 監視(Client 監視のセットアップを行ったマシンの監視をする)」のチェックを有効にして「OK」ボタンを選択します。

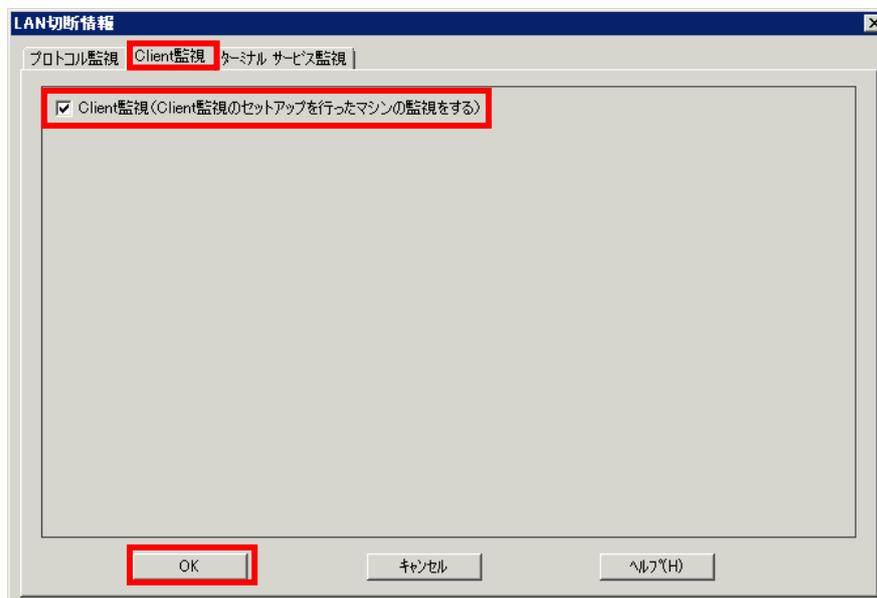


図 6.1-3

- (4) 以下のメッセージが表示されますので、「OK」ボタンを選択します。



図 6.1-4

- (5) 「監視要因」画面に戻りますので、「OK」ボタンを選択します。



図 6.1-5

- (6) ESMPRO/AC GUI の初期画面が表示されますので、「OK」ボタンを選択してAC GUIを終了させます。これで制御端
末側/連動端末側の設定は完了です。



図 6.1-6

6.2 Client 監視モジュールのインストール

- (1) 監視対象となるクライアント側端末より、本製品をインストールした制御端末のサーバに接続し、“CMSETUP.EXE”を実行します。

※実行ファイル保存先の共有名「CMSETUP」はサーバにESMPRO/AutomaticRunningController をインストールすると自動的に生成されます。

例) 制御端末をインストールしたサーバのIP アドレスが172.16.1.14の場合、エクスプローラから

[¥172.16.1.14¥cmsetup](http://172.16.1.14/cmsetup)

に接続します。

名前	更新日時	種類	サイズ
CMSETUP.INF	2017/10/26 10:34	セットアップ情報	1 KB
README.TXT	2017/10/25 15:50	テキスト文書	2 KB
CMSETUP.EXE	2017/10/19 11:59	アプリケーション	104 KB
fm2uistf.dll	2017/10/19 11:59	アプリケーション拡張	84 KB
cmsetup.ver	2017/10/12 20:03	VER ファイル	1 KB
CTL3D32.DLL	2017/06/15 19:39	アプリケーション拡張	26 KB
ESMCM.INF	2017/06/15 19:39	セットアップ情報	1 KB
MSCOMSTF.DLL	2017/06/15 19:39	アプリケーション拡張	80 KB
MSDETSTF.DLL	2017/06/15 19:39	アプリケーション拡張	19 KB
MSINSSTF.DLL	2017/06/15 19:39	アプリケーション拡張	58 KB
MSSHLSTF.DLL	2017/06/15 19:39	アプリケーション拡張	22 KB
MSUILSTF.DLL	2017/06/15 19:39	アプリケーション拡張	47 KB
MSVCRT40.DLL	2017/06/15 19:39	アプリケーション拡張	306 KB
CMSETUP.EXE.manifest	2017/06/15 19:39	MANIFEST ファイル	1 KB
NTI	2018/08/07 15:25	ファイル フォルダー	
W95	2018/08/07 15:25	ファイル フォルダー	

図 6.2-1

- (2) クライアント側端末にセットアップを行うためのインストーラが起動しますので、「インストール」を選択後、「続行」ボタンを選択します。

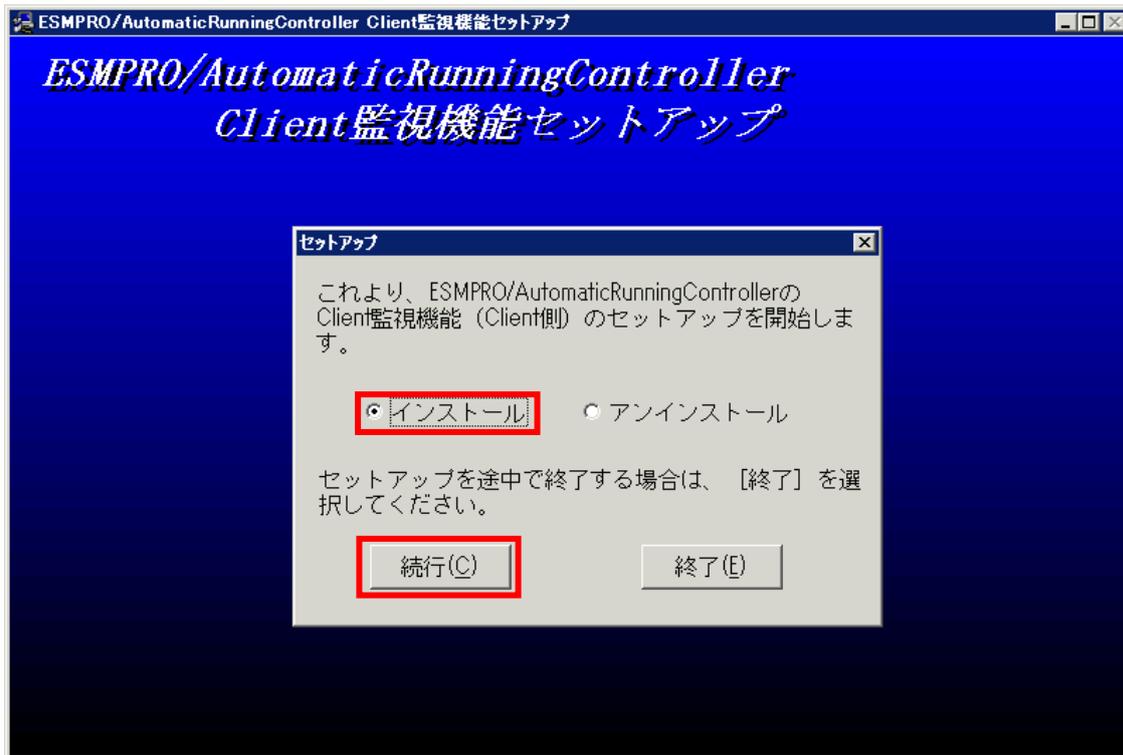


図 6.2-2

- (3) Client 監視モジュールをインストールするフォルダを確認されますので、任意のフォルダを指定し、「続行」ボタンを選択してください。

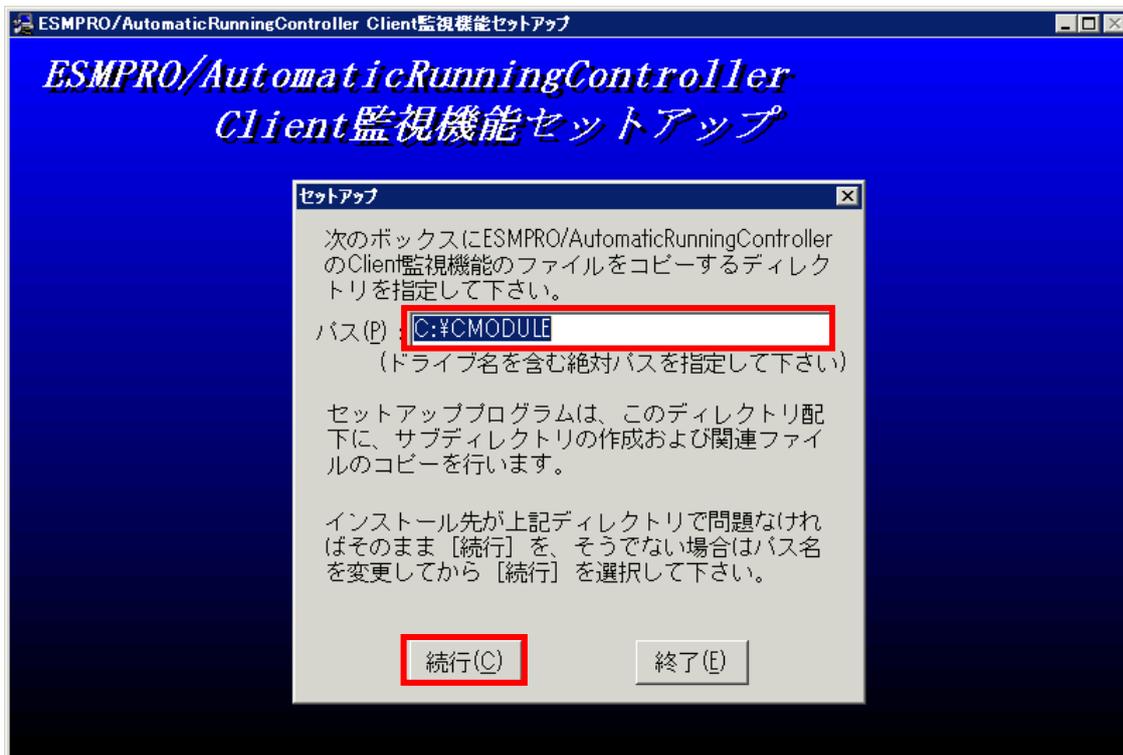


図 6.2-3

(4) 以下の画面が表示されますので、「続行」ボタンを選択します。

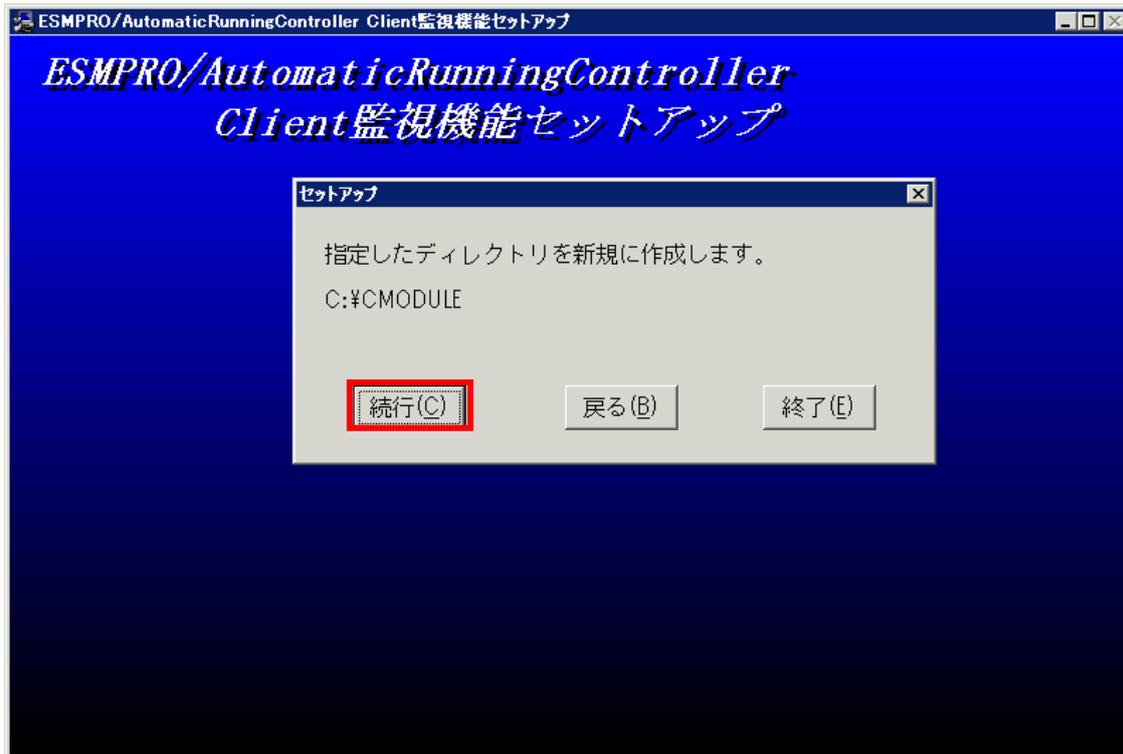


図 6.2-4

(5) 以下の画面が表示されましたら、インストールは完了です。



図 6.2-5

6.3 Client 監視機能を活用した運用

- (1) Client 監視モジュールのインストール後、Client 監視モジュールをインストールしたサーバにログインします。以下のよう
にClient 監視モジュールのアイコンがタスクバーに常駐した状態となります。これにより、Client 監視モジュールと連
動するサーバとして登録されている制御端末または運動加端末 (Client 運動サーバ) に対し、クライアントが稼働中である
ことを通知し続けます。



図 6.3-1

- (2) アイコンを選択している状態で、マウスの右ボタンを選択すると、メニューが表示されます。



図 6.3-2

- (3) 「メニューの起動」を選択すると、<ESMPRO/AutomaticRunningController Client>画面が表示され、このクライアント
と運動している Client 運動サーバ (制御端末または運動加端末) の状態を確認することができます。このクライアントと、
この画面に表示されている Client 運動サーバとの通信が途切れたときに、画面に表示されている Client 運動サーバの
切断条件が確立します。

<ESMPRO/AutomaticRunningController Client>画面



図 6.3-3

リストボックスには、現在、Client 監視機能と運動しているサーバ (Client 運動サーバ) の稼働状態が表示されます。
ESMPRO/AutomaticRunningController Client インストール直後は、インストールを行うために接続したサーバの稼働状
態が表示されます。

稼働中：サーバが稼働中であることを示します。

稼働状態不明：サーバの稼働状態が不明であることを示します。

<ESMPRO/AutomaticRunningController Client>画面にて「編集」ボタンを選択して<編集>画面を呼び出すと、Client 監視機能と連動する Client 連動サーバを最大 8 台まで登録することができます。

Client 連動サーバを追加したいときは、「ネットワークリストによる指定」を選択して「表示情報更新」ボタンを選択します。ネットワーク上にある Client 連動可能なサーバを検索され、追加候補のサーバがリストボックスに表示されます。Client 連動サーバとして追加したいサーバを選んで「追加」ボタンを選択します。また、IP アドレスを指定して追加することもできます。

一度登録した Client 連動サーバを削除したい場合は、削除したいサーバを選んで「削除」ボタンを選択します。

<編集>画面

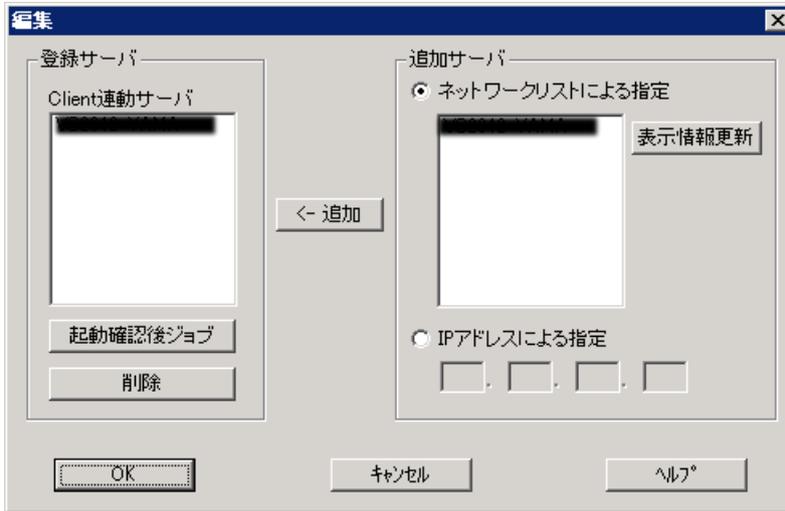


図 6.3-4

「起動確認後ジョブ」ボタンを選択すると、クライアント上の ESMPRO/AutomaticRunningController Client が、システム起動後のログオン操作により起動され、リストボックスに表示しているサーバの起動を確認した後、クライアント上で起動させるジョブを登録することができます。

- (4) <ESMPRO/AutomaticRunningController Client>画面にて「オプションボタン」を選択すると、ESMPRO/AutomaticRunningController Client の詳細情報を設定する<オプション>画面が表示されます。

<オプション>画面

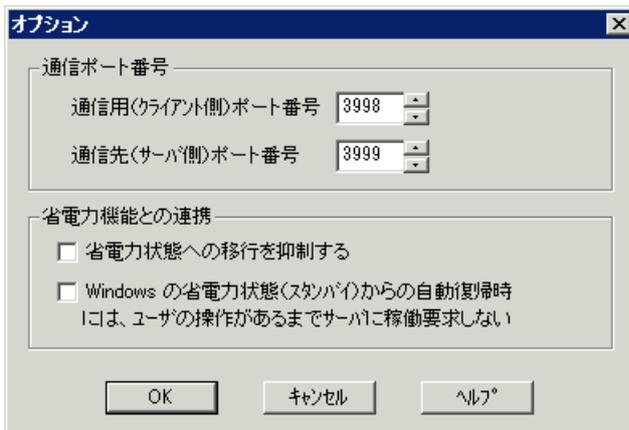


図 6.3-5

クライアントと Client 連動サーバとの通信に使用する通信ポート番号を変更したい場合、ここで変更することができます。

既定値は以下のとおりです。

ESMPRO/AutomaticRunningController Client が通信する時に使用するクライアント側の受信ポート番号

既定値 : 3998

ESMPRO/AutomaticRunningController Client が通信する時に使用するサーバ側の接続先ポート番号

既定値 : 3999

「8.4通信ポート番号関連」にも記載しているとおり、設定したポート番号でudp通信を行いますので、Client監視機能を使用する場合は、通信ポートの開放を行ってください。

「Windowsの省電力状態（スタンバイ）からの自動復帰時には、ユーザの操作があるまでサーバに移動要求しない」のチェック状態は、**Windows Server 2008以降のWindows OSでは機能しません。**

- (5) <編集>画面より「起動確認ジョブ」ボタンを選択すると、<サーバ起動確認後ジョブ>画面が表示され、登録されているジョブを確認することができます。

<サーバ起動確認後ジョブ>画面

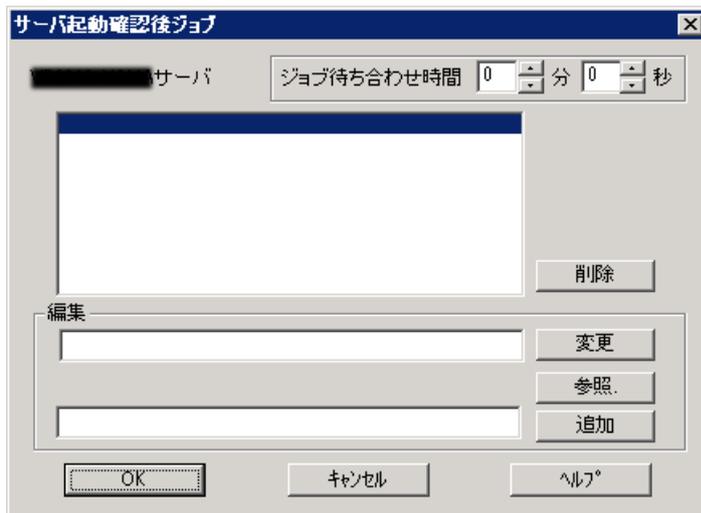


図 6.3-6

「5.2電源投入時のジョブ登録方法」と同様の操作で、サーバ起動を確認した後、順次起動するように登録されたジョブを登録することができます。なお、ジョブはリストの上から順次起動されますが、並列して実行されます。

ジョブ待ち合わせ時間

既定値 : 0分0秒

設定範囲 : 0分0秒から99分59秒まで

6.4 Client 監視機能のアンインストール

「Client 監視」機能のアンインストールは、以下の手順で行います。

- (1) インストール時と同様に、Client 監視機能をインストールしたクライアント側端末にて、本製品をインストールしたサーバに接続し、「CMSETUP.EXE」を実行します。

※実行ファイル保存先の共有名「CMSETUP」はサーバに ESM/PRO/AutomaticRunningController をインストールすると自動的に生成されます。

例) 制御端末をインストールしたサーバの IP アドレスが 172.16.1.14 の場合、エクスプローラから

172.16.1.14/cmsetup

に接続します。

名前	更新日時	種類	サイズ
CMSETUP.INF	2017/10/26 10:34	セットアップ情報	1 KB
README.TXT	2017/10/25 15:50	テキスト文書	2 KB
CMSETUP.EXE	2017/10/19 11:59	アプリケーション	104 KB
fm2uistfdll	2017/10/19 11:59	アプリケーション拡張	84 KB
cmsetup.ver	2017/10/12 20:03	VER ファイル	1 KB
CTL3D32.DLL	2017/06/15 19:39	アプリケーション拡張	26 KB
ESMCM.INF	2017/06/15 19:39	セットアップ情報	1 KB
MSCOMSTF.DLL	2017/06/15 19:39	アプリケーション拡張	80 KB
MSDETSTF.DLL	2017/06/15 19:39	アプリケーション拡張	19 KB
MSINSSTF.DLL	2017/06/15 19:39	アプリケーション拡張	58 KB
MSSHLSSTF.DLL	2017/06/15 19:39	アプリケーション拡張	22 KB
MSUILSSTF.DLL	2017/06/15 19:39	アプリケーション拡張	47 KB
MSVCRT40.DLL	2017/06/15 19:39	アプリケーション拡張	306 KB
CMSETUP.EXE.manifest	2017/06/15 19:39	MANIFEST ファイル	1 KB
NTI	2018/08/07 15:25	ファイル フォルダ	
W95	2018/08/07 15:25	ファイル フォルダ	

図 6.4-1

- (2) アンインストールを行うためのアンインストーラが起動しますので、「アンインストール」を選択後、「続行」ボタンを選択します。

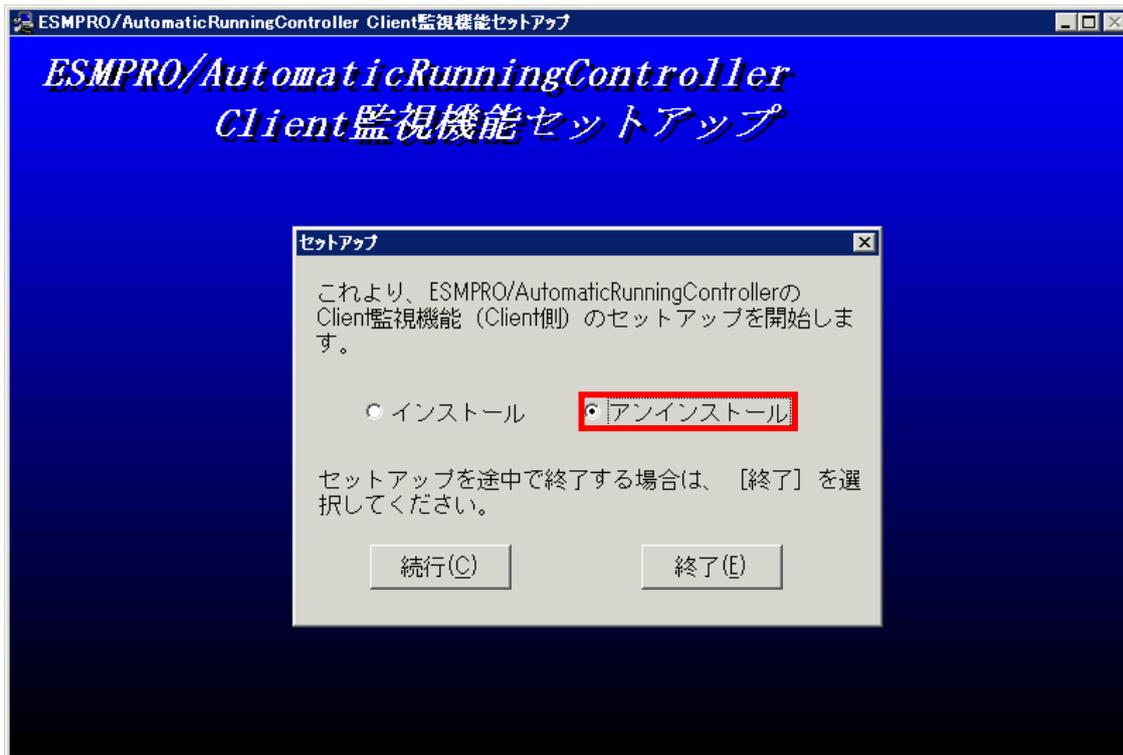


図 6.4-2

- (3) 以下の画面が表示されますので、「続行」ボタンを選択します。

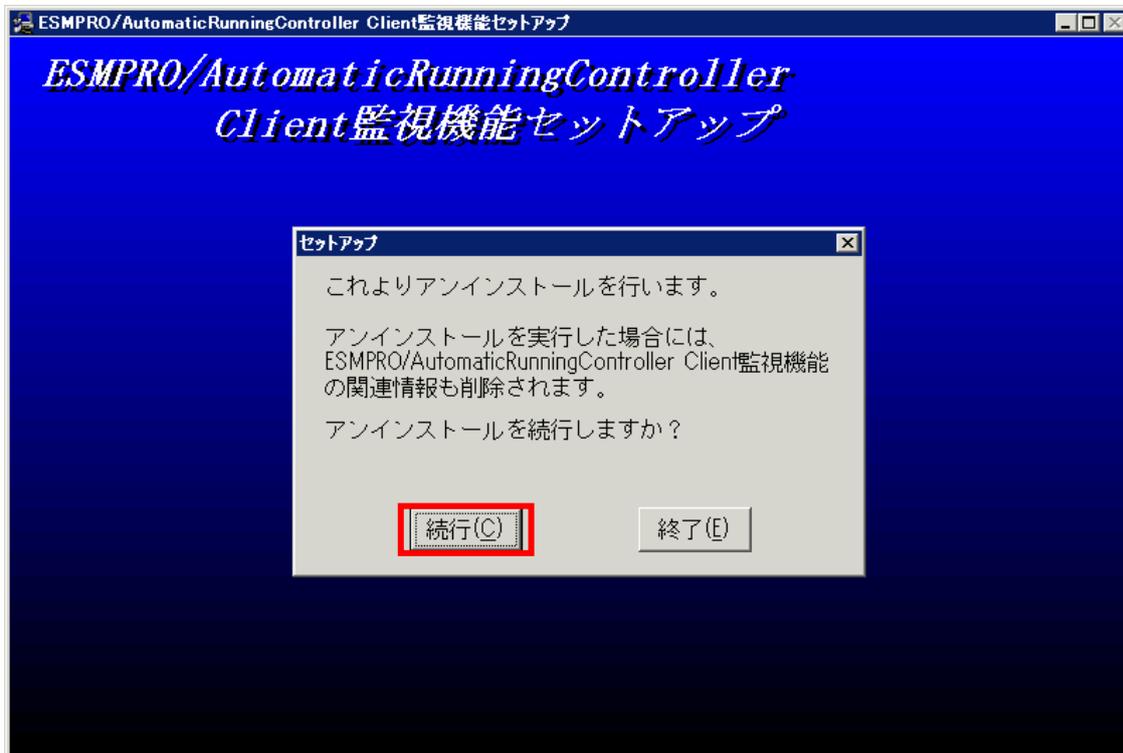


図 6.4-3

(4) 以下の画面が表示されましたら、アンインストールは完了です。



図 6.4-4

第7章 ユーティリティ

ESMPRO/AutomaticRunningController では、各種ユーティリティコマンドを用意しています。ユーティリティコマンドを使うことで、細やかな電源制御が可能となります。ユーティリティコマンドは特に明記がないかぎり、ESMPRO/AutomaticRunningController のインストールディレクトリ直下にあります。

例：C:\Program files (x86)\AUTORC\

コマンドの機能ならびに使い方を説明します。

7.1 acpowoff.exe

[名前]

acpowoff.exe - 電源切断処理の実行

[構文]

```
acpowoff [r|R] [WaitTime]
```

[機能]

電源切断処理を実行する。

パラメータを1つ以上指定した場合、非対話型コマンドとして動作し、確認ならびにメッセージを一切表示しない。

パラメータを何も指定しなかった場合、対話型コマンドとして動作し、確認ならびにメッセージをメッセージボックスで表示する。

[パラメータ]

r,R

リポートする。同オプション指定がない場合、電源切断処理はシャットダウンとなる。クラスタ連携時には、同オプションの指定（リポート）は不可である。

WaitTime

WaitTime 秒 停止した後で、電源切断処理を実行する。指定可能な値は0~4294967(10進数、デフォルト値0)。

[戻り値]

- 0x00000000 電源切断成功。
- 0x20000000 サービスが起動していない。
- 0x20000001 ESMPRO/AC サービスとの間の通信エラーが発生した。
- 0x20000003 関数内部エラーが発生した。
- 0x20000004 ESMPRO/AC がインストールされていない。
- 0x20000005 自動電源制御装置内部エラーが発生した。
- 0x20000013 ユーザによる関数の停止要求発生。
- 0x20000100 その他のエラー。

[前提条件]

ESMPRO/ARC Service サービスが動作中であること。

7.2 WAITJOB.EXE

[名前]

WAITJOB.EXE - 指定した時間だけコマンド終了を待機

[構文]

```
WAITJOB [/?/h/H] [WaitTime]
```

[機能]

パラメータ WaitTime で指定した時間(秒)だけ待機した後、本コマンドを終了する。

ジョブ起動機能を使用する際、登録したジョブとジョブの間一定の待ち時間を設定する必要がある場合や、登録したジョブの後一定の終了待ち時間を設定する必要がある場合などに使用する。

※本コマンドは、ESMPRO/AC に対して何らかの操作を行うものではない。

<補足>

本コマンドは以下のような待ち合わせが必要な場合に利用します。

- ・バックアップに関するジョブなど、表面上、終了しているように見えているが、実際にはバックグラウンドで動作が継続しているようなジョブを登録した場合
- ・上記のジョブの後本コマンドを登録することで、次に登録しているジョブの起動や、電源切断時の場合、ジョブ終了時のシャットダウン起動を、指定した時間分、遅らせることができる。

[パラメータ]

/?/h,H

コマンド説明を表示する。

WaitTime

WaitTime 秒 停止する。指定可能な値は 0~9999(10 進数、デフォルト値 20)。

[戻り値]

0 のみ

[ジョブ登録例]

```
C:\WORK\BACKUP.EXE
C:\AUTORC\WAITJOB.EXE 600
C:\USER\JOB1.EXE
```

7.3 GetAcVer.exe

[名前]

GetAcVer.exe - ESMPRO/AutomaticRunningController 製品情報出力

[構文]

```
GetAcVer
```

[機能]

ESMPRO/AutomaticRunningController 関連製品の製品情報を確認するためのコマンドである。本コマンドを利用することにより、コマンドを実行する環境にインストールされている ESMPRO/AutomaticRunningController 関連製品の製品情報をコンソールに出力する。本コマンドは、ESMPRO/AutomaticRunningController のインストールフォルダに格納されている。

<ESMPRO/AutomaticRunningController がインストールされているサーバ以外で使用する場合>
関連製品がインストールされているサーバに、本コマンド (GetAcVer.exe) をコピーして実行する。

[パラメータ]

なし

[コマンドの実行結果]

インストールされている製品の[バージョン]に5.5x (xは、製品のリリース情報) と表示される。

実行結果に表示される[SV]は、ESMPRO/AutomaticRunningController CD2.5 のインストーラ画面に表示されている[サーバ系製品群]に含まれる製品であることを意味する。

また、[CL]は、ESMPRO/AutomaticRunningController CD2.5 のインストーラ画面に表示されている[クライアント系製品の製品または ESMPRO/AC for Linux 製品]に含まれる[クライアント系製品]であることを意味する。

[戻り値]

0 のみ

[コマンドの実行例]

- ① ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.5+ESMPRO/AC Enterprise Ver5.5 がインストールされている環境で実行した場合

```
C:\Program Files (x86)\AUTORC>GetAcVer.exe
```

```
=====
```

```
[製品名]:ESMPRO/AutomaticRunningController[SV]
```

```
[バージョン]:5.5x
```

```
[インストールパス]:C:\Program Files (x86)\AUTORC
```

```
=====
```

```
[製品名]:ESMPRO/AC Enterprise[SV]
```

```
[バージョン]:5.5x
```

```
[インストールパス]:C:\Program Files (x86)\AUTORC
```

```
=====
```

- ② ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプションがインストールされている環境で実行した場合

ESMPRO/AutomaticRunningController[SV]のインストールフォルダに格納されている、コマンド (GetAcVer.exe) を ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプションがインストールされているサーバ上にコピーして実行する。

```
C:\>temp\GetAcVer.exe
```

```
=====
```

```
[製品名]:ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション[SV]
```

```
[バージョン]:5.5x
```

```
[インストールパス]:C:\Program Files (x86)\AUTORC
```

```
=====
```

④ ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.5+ESMPRO/AC Advance Ver5.5 がインストールされている環境で実行した場合

```
C:\Program Files (x86)\AUTORC>GetAcVer.exe
```

```
=====
```

```
[製品名]:ESMPRO/AutomaticRunningController[SV]
```

```
[バージョン]:5.5x
```

```
[インストールパス]:C:\Program Files (x86)\AUTORC
```

```
=====
```

```
=====
```

```
[製品名]:ESMPRO/AC Advance[SV]
```

```
[バージョン]:5.5x
```

```
[インストールパス]:C:\Program Files (x86)\AUTORC
```

```
=====
```

```
=====
```

⑤ ESMPRO/AutomaticRunningController 関連製品が何もインストールされていない環境で実行した場合

「ESMPRO/AutomaticRunningController[SV]のインストールフォルダに格納されている、コマンド (GetAcVer.exe) を該当のサーバ上にコピーして実行する。」

```
C:\>temp\GetAcVer.exe
```

```
(製品情報は何も出力されません。)
```

第8章 注意事項

ESMPRO/AutomaticRunningController を使用する際は、次の点にご注意ください。

8.1 セットアップ関連

- (1) ESMPRO/ServerManager の統合ビューア利用時の注意
<統合ビューアから、ESMPRO/AutomaticRunningController ユーザインターフェイスを起動する場合>
「ESMPRO/ServerManager」のインストールを先に行う必要があります。
※ ESMPRO/ServerManager Ver.5 以降では統合ビューアが廃止されているため、ESMPRO/ServerManager から ESMPRO/AutomaticRunningController ユーザインターフェイスの起動はできません。

8.2 運用関連

- (1) Windows サーバをご使用になる場合、コントロールパネルの「電源オプション」機能の「休止状態のサポート」はOFF（初期状態）にしてください。
「休止状態」になった場合、ESMPRO/AutomaticRunningController によるサーバの自動運転は、制御不能になります。
- (2) ESMPRO/AutomaticRunningController による自動電源制御を行っている間は、サーバ本体のパワースイッチを操作して電源を切断しないでください。もしサーバ本体のパワースイッチを操作して電源切断を実行された場合は、ESMPRO/AutomaticRunningController が介入しない電源操作が行われたこととなります。ESMPRO/AutomaticRunningController は次回の電源自動投入を行いません。そのため、Smart-UPS をご使用の場合は、ON/テストボタンやLCDパネルを操作して、手動で電源投入を行ってください。また、Smart-UPS のOFF ボタンやLCDパネルからの操作によりUPSを停止しますと、サーバのシャットダウンが行われずにそのまま電源が切断されますので、ご注意ください。
- (3) ESMPRO/ServerManager の統合ビューア利用時の注意
<統合ビューアから ESMPRO/AutomaticRunningController ユーザインターフェイスで行う操作の場合>
Administrator 権限のあるユーザでのみ操作を行うことができます。
- (4) スケジュール作成でワイルドカードを使用した毎日設定を行う場合、あるいは、曜日指定で一週間の連続運転を設定する場合には、通常指定は運転休止にすることを推奨します。

- (5) 「ユーザーアカウント制御」を有効化している場合、以下のような確認ダイアログが表示される場合があります。「続行」ボタンを選択して起動してください。
- ※インストール時に起動する Setupac.exe や、ESMPRO/AutomaticRunningController の GUI を実行する場合には表示されます。



図 8.2-1

- (6) リモートデスクトップ サービス監視を行う場合
以下の設定画面で、「セッション数を監視する」チェックを有効にして、1 以上の値を設定していただく必要があります。
- ・ローカルサーバのみ監視
 - ・ローカルサーバとリモートサーバ（共通条件）を監視
 - ・ローカルサーバとリモートサーバ（個別条件）を監視
- また、「ローカルサーバとリモートサーバ（共通条件）を監視」や「ローカルサーバとリモートサーバ（個別条件）を監視」でリモートサーバを監視する場合、「ESMPRO/ARC Service」サービスには、ドメインサーバの Administrator アカウントを割り当てる設定を行う必要があります。
- 1.「管理ツール」→「サービス」を起動し、「ESMPRO/ARC Service」プロパティを表示してください。「ESMPRO/ARC Serviceのプロパティ」画面が表示されます。
 - 2.「ログオン」タブを選択して表示される画面において、「アカウント」を選択し、「アカウント」、「パスワード」の設定を行ってください。
 - アカウント：アカウント情報にドメインサーバの「Administrator」の情報を入力してください。
 - パスワード：「ログオン」アカウントのパスワード情報を入力してください

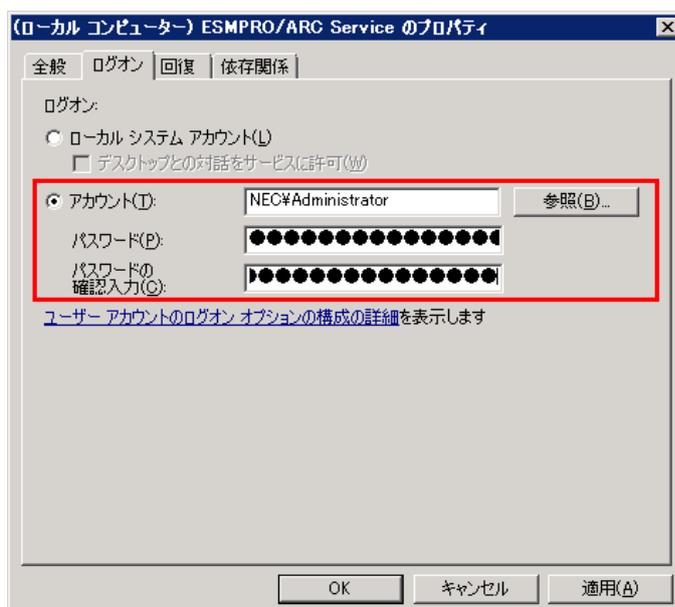


図 8.2-2

- (7) 本バージョンのESMPRO/AutomaticRunningControllerは、JIS2004で新規追加された文字に対応していません。そのため、インストール時のインストールパスや、GUI操作において、JIS2004の新規追加文字が含まれるパス情報は指定、入力しないでください。
- (8) ESMPRO/AutomaticRunningController GUI やAC Management Console からパスワードを入力して対象サーバにネットワーク接続する場合、Administratorアカウントでアクセスする必要があります。
- (9) Smart-UPS 相当無停電電源装置を使用してスケジュール運転を行っている環境では以下を注意してください。
 - ・ESMPRO/AutomaticRunningControllerのシャットダウン以外でシャットダウンを行った場合、ESMPRO/AutomaticRunningControllerのスケジュール機能は有効になりません。
 - ・停電によるシャットダウンが行われ、スケジュールOFF時刻経過後に復電により起動してきた場合、スケジュールOFF時刻は経過しているため、スケジュールによるシャットダウンは行われません。

「ESMPRO_AC ヘルプ」情報の「ご使用にあたってのご注意」および「トラブルシューティング」もご覧ください。「ESMPRO_AC ヘルプ」はスタートメニューから起動することができます。

8.3 PowerChute Business Edition 連携関連

8.3.1 共通

- (1) 停電発生時のシャットダウン開始時間は、PowerChute Business Edition 「コンソール」または「WebUI」から設定してください。

<LCD パネル無し Smart-UPS の場合>

PowerChute Business Edition 「コンソール」を起動し、「デバイスのプロパティ」画面の「サーブシャットダウン」->「電源障害」->「電源障害時のシャットダウン開始」で設定してください。

<LCD パネル付き Smart-UPS の場合>

PowerChute Business Edition 「WebUI」を起動し、「シャットダウンの設定」画面の「電源障害時のシャットダウン開始」で設定してください。

- (2) スケジュールの設定は、PowerChute Business Edition 「コンソール」および「WebUI」で行わず、ESMPRO/AutomaticRunningController の GUI のみで行ってください。PowerChute Business Edition でスケジュール登録すると、連携動作が正常に動作しません。

- (3) 電源切断猶予時間とは、OS シャットダウン開始後、UPS 装置からの電源供給が停止するまでの時間についての設定項目になります。この設定値が短い場合、シャットダウン途中で UPS 装置からの電源供給が停止され、システムに重大な障害が発生する可能性があります。必ず、運用されているシステムに適した値になっているかを確認し、変更の必要がある場合は設定値を変更し、運用してください。OS のシャットダウンに必要な時間はシステム毎に異なるため、設定値は実環境のサーバを使用して OS のシャットダウン時間を複数回計測し、その結果を十分に超える時間を設定してください。

<LCD パネル無し Smart-UPS の場合>

PowerChute Business Edition 「コンソール」を起動し、「デバイスのプロパティ」画面を表示後、「シャットダウン」->「シャットダウンシーケンス」から「シャットダウンシーケンスの設定」を選択します。表示されるウィンドウの、「コマンドファイルの設定」画面(後述の次の画面(バーグラフが表示される画面)にて、「OS」を選択した状態での「期間」に十分な値を設定してください。

<LCD パネル付き Smart-UPS の場合>

PowerChute Business Edition 「WebUI」を起動し、「シャットダウンの設定」画面の「OS がシャットダウンする時間」に十分な値を設定してください。

- (4) ESMPRO/AutomaticRunningController において、「電源異常切断時に登録ジョブを起動する」を有効にする場合には、PowerChute Business Edition 「コンソール」または「WebUI」からの設定が必要となります。

<LCD パネル無し Smart-UPS の場合>

PowerChute Business Edition 「コンソール」を起動し、「デバイスのプロパティ」画面から「シャットダウン」->「シャットダウンシーケンス」から「シャットダウンシーケンスの設定」を選択します。さらに、表示されるウィンドウの、「コマンドファイルの設定」画面で default.cmd を指定してください。そして次の画面(バーグラフが表示される画面)にて、「コマンドファイル」を選択した状態で「期間」の値を、「電源異常切断時に実行する登録ジョブ」が完了するまでに必要な時間に設定してください。

<LCD パネル付き Smart-UPS の場合>

PowerChute Business Edition 「WebUI」を起動し、「シャットダウンの設定」画面で「コマンドファイルの選択」に default.cmd を指定します。「コマンドファイルを実行するのに必要な時間」の値に、「電源異常切断時に実行する登録ジョブ」が完了するまでに必要な時間を設定してください。

- (5) ESMPRO/AutomaticRunningController において、「停電時のクラスタシャットダウン」を有効にする場合には、PowerChute Business Edition 「コンソール」または「WebUI」からの設定が必要となります。
- <LCD パネル無し Smart-UPS の場合>**
 PowerChute Business Edition 「コンソール」を起動し、「デバイスのプロパティ」画面から「シャットダウン」→「シャットダウンシーケンス」から「シャットダウンシーケンスの設定」を選択します。さらに、表示されるウィンドウの、「コマンドファイルの設定」画面でdefault.cmdを指定してください。そして次の画面(バーグラフが表示される画面)にて、「コマンドファイル」を選択した状態で「期間」の値を、「停電時のクラスタシャットダウン」のタイムアウト時間以上の値に設定してください。
- <LCD パネル付き Smart-UPS の場合>**
 PowerChute Business Edition 「WebUI」を起動し、「シャットダウンの設定」画面で「コマンドファイルの選択」にdefault.cmdを指定します。「コマンドファイルを実行するのに必要な時間」に、「停電時のクラスタシャットダウン」のタイムアウト時間以上の値に設定してください。
- (6) PowerChute Business Edition の再インストールを行った場合は、PowerChute Business Edition の「コンソール」において、上記内容を再設定する必要があります。
- (7) PowerChute Business Edition の使用方法につきましては、PowerChute Business Edition に付属のマニュアルを参照してください。

8.3.2 ESMPRO/UPSManager Ver2.8 (PowerChute Business Edition セット)と連携

- (1) PowerChute Business Edition と連携して自動運転を行う動作環境を構築する場合は、以下のソフトウェアがインストールされている必要があります。

ソフトウェア名	インストール先
ESMPRO/UPSManager Ver2.8 サーバ	ローカルコンピュータ
PowerChute Business Edition エージェント	ローカルコンピュータ

表 8-1

- (2) PowerChute Business Edition のエージェントWEB インタフェースにログインするためのユーザ名/パスワードを変更した場合は、次の手順を実施してください。

[ESMPRO/AutomaticRunningController の動作環境の設定 \(環境設定ウィザードボタン\)](#) の手順で再度 PowerChute Business Edition のエージェントWEB インタフェースにログインするためのユーザ名/パスワードを登録する。

- (3) ESMPRO/UPSManager Ver2.7 (PowerChute Business Edition セット)との連携環境から ESMPRO/UPSManager Ver2.8 (PowerChute Business Edition セット)をバージョンアップする場合、下記手順を実施してください。

- ① PowerChute Business Edition Ver9.11 と ESMPRO/UPSManager Ver2.7 をアンインストールします。
- ② PowerChute Business Edition Ver10.0 と ESMPRO/UPSManager Ver2.8 をインストールします。
- ③ [ESMPRO/AutomaticRunningController の動作環境の設定 \(環境設定ウィザードボタン\)](#) の手順で環境設定ウィザードを再度実行します。

8.4 通信ポート番号関連

使用するポート番号は、以下のとおりです。

[ESMPRO/AutomaticRunningController]

(クラスタシステムの時ご使用)

[クラスタサーバ] [クラスタサーバ]

不定/udp→4000/udp

4000/udp←不定/udp

(Client 監視機能を実行時、使用)

[サーバ] [クライアント]

3999/udp←不定/udp

3999/udp→3998/udp

[ESMPRO/AC Enterprise]

(AC Management Console 機能を使用したSNMP カードを使用するマルチサーバ構成)

[制御端末 (マスタ)] [制御端末 (マスタの控え)]

不定/udp→6000/udp

6000/udp←不定/udp

[制御端末] [連動端末]

不定/udp→6000/udp

6000/udp←不定/udp

[制御端末] [UPS]

不定/udp↔161/udp

[AC Management Console] [制御連動端末]

不定/udp→6000/udp

不定/udp←不定/udp

(Storage S/D/M シリーズ連携機能使用時)

[制御端末] [Storage S/D/M シリーズ]

不定/tcp ↔ 6001/tcp

(VMware ESXi サーバ監視時)

[制御端末] [VMware ESXi サーバ]

ICMP <=> ICMP

不定/tcp <=> 443/tcp

[ESMPRO/AC Advance]

[制御端末 (マスタ)] [制御端末 (マスタの控え)]

不定/udp->4005/udp

[制御端末] [連動端末]

不定/udp->4005/udp

[AC Management Console/AC GUI] [制御連動端末]

不定/udp->4005/udp

8.5 共有フォルダ関連

ESMPRO/AutomaticRunningController では、ネットワーク機能を提供するために、以下の共有フォルダを設定しています。

フォルダ名	共有名	デフォルトのアクセス権
(インストールフォルダ)¥DATA	ARCDATA	Administrators フルコントロール

表 8-2

「ARCDATA」の共有フォルダは、GUI をサーバ以外からリモートで行う場合に使用します。サーバ上でのみ GUI を使用する場合には、この共有を解除しても問題ありません。

フォルダ名	共有名	デフォルトのアクセス権
(インストールフォルダ)¥CMSETUP	CMSETUP	Administrators フルコントロール

表 8-3

「CMSETUP」の共有フォルダは、LAN 投入・切断監視に Client 監視機能を使用する場合に、クライアントをセットアップするために使用します。Client 監視機能を使用しない場合には、この共有を解除しても問題ありません。

8.6 AC-LINK 関連

UPS を使って自動運転を行う場合は、サーバ装置の BIOS の設定で、AC-LINK を「Power ON」にしておいてください。BIOS の設定変更の方法については、サーバにより異なりますので、サーバ本体添付のマニュアルを参照してください。

なお、AC-LINK は、サーバ機種により「After Power Failure」あるいは「Automatic Power-On」と記載されている場合があります。

8.7 ウィルススキャンソフト関連

ウィルススキャンソフトがインストールされた環境で運用される場合は、以下のファイルをスキャン対象外に設定してください。

ESMPRO/AutomaticRunningController のインストールディレクトリの DATA 配下にある

SCHEBASE.APC

例) インストール先が C:\Program Files (x86)\AUTORC の場合

C:\Program Files (x86)\AUTORC\DATA\SCHEBASE.APC

をスキャン対象外に設定

第9章 障害発生時には

障害発生時には、お手数ですが、以下の情報を採取してください。

- ①ESMPRO/AutomaticRunningController ログ
- ②ESMPRO/AC マルチサーバオプションログ (Smart-UPS LAN 制御の場合のみ)
- ③イベントログ
- ④ESMPRO/UPSManager のログ
(Smart-UPS シリアル制御の場合のみ)
- ⑤PowerChute Business Edition のログ (PowerChute Business Edition による自動運転を行なっている場合)
- ⑥バージョン情報
- ⑦SNMP カードからの情報採取 (Smart-UPS LAN 制御の場合のみ)

また、Collect ログを採取すると①または②と③と④と⑤のログが一度に採取できます。(9.9 章参照)
ログ採取時は障害が発生した時刻も合わせてお知らせください。

9.1 ESMPRO/AutomaticRunningController ログ

(1) サーバのログ採取方法

■ESMPRO/AC GUI からのログ採取方法

サービスおよびGUIの動作不良のため、ESMPRO/AC GUI からの操作でログ採取できない場合があります。その場合は、後述の「■手動によるログ採取方法」を参照してください。

①ESMPRO/AutomaticRunningController メインメニューのサーバボタンを選択すると、以下のサーバ指定ダイアログが表示されます。



図 9.1-1

②サーバ指定ダイアログのサーバ名のところに、

ESM/PC MAINTEN

と入力し、OK ボタンを選択すると、以下のメンテナンスダイアログが表示されます。

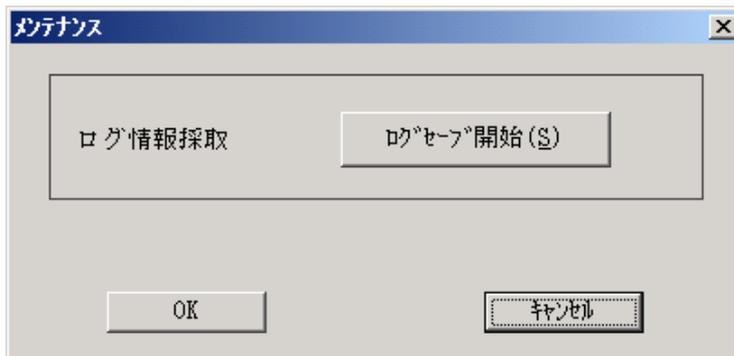


図 9.1-2

③「ログセーブ開始(S)」ボタンを選択してください。ログ採取が開始されます。ログ採取が終了すると、以下のダイアログが表示されます。

ログ採取正常終了メッセージ

ログ採取正常終了のメッセージです。④の作業を実行してください。

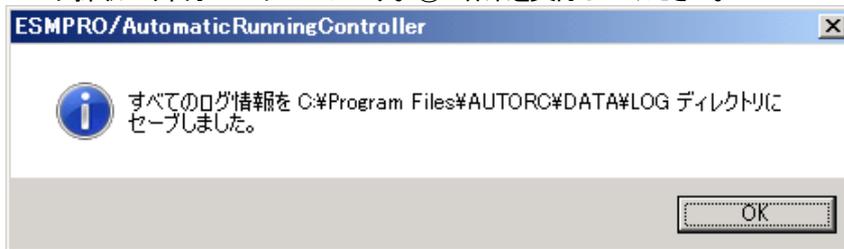


図 9.1-3

ログ採取異常終了メッセージ



図 9.1-4

<上記のエラーメッセージが表示された場合>

既にログファイルが存在することが考えられます。ESMPRO/AutomaticRunningController インストールディレクトリ下の DATA\LOG を確認します。ディレクトリ下にログファイルが存在する場合は、ファイルを退避するか削除して、再度①からの操作をやり直してください。

④採取されたログのファイルは、ESMPRO/AutomaticRunningController インストールディレクトリ下の DATA\LOG 下に置かれます。

エクスプローラ等により、DATA\LOG ディレクトリごと USB メモリ 等の外部記憶媒体に採取してください。DATA\LOG 下に採取されるファイルは、採取するタイミング/状態によって異なります。

- ・スケジュールの有効期間が長い場合、登録するスケジュール項目が多い場合などは、ログファイルのサイズが大きくなります。

■手動によるログ採取方法

①エクスプローラ等を使用してください。

②ESMPRO/AutomaticRunningController インストールディレクトリ\DATA ディレクトリ下のすべてのファイルを採取してください。

(2) Client 監視を行っているクライアントのログ採取方法

Client 監視で不具合が発生した場合は、(1)のログおよび以下のファイルを USB メモリ 等の外部記憶媒体に採取してください。

【ディレクトリ】

Client 監視機能をセットアップした Client 側のコンピュータから Client 監視機能インストールディレクトリ

既定値 : C:\MODULE

【情報ファイル名】

ACNETSVR.LOG
ACNETSV/APC
CLIENTD/APC
ONJOB0.APC
:
ONJOB7.APC

連動サーバ数によってファイル数が異なります。

9.2 ESMPRO/AC マルチサーバオプションログ

システムの構成が、マルチサーバ構成の場合、次のような方法でログを採取してください。

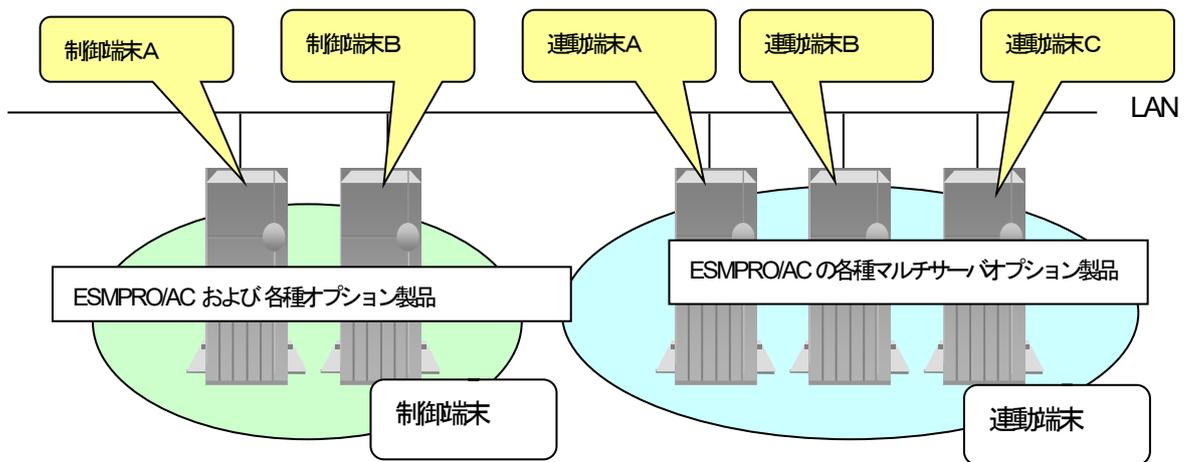


図 9.2-1

(1) 連動端末 (Windows サーバ) のログ採取方法

■ESMPRO/AC GUI からのログ採取方法

サービスおよびGUIの動作不良のため、ESMPRO/AC GUIからの操作でログ採取できない場合があります。その場合は、後述の「■手動によるログ採取方法」を参照してください。

制御端末または管理 GUI がインストールされているコンピュータの ESM/AC GUI を使用し、下記手順で、連動端末 A、B、C のそれぞれのログを採取してください。

例：制御端末 A から連動端末 A のログを採取する場合

- ①制御端末の ESM/AC メインメニューの「サーバ」ボタンを選択すると、以下のサーバ指定ダイアログが表示されます。

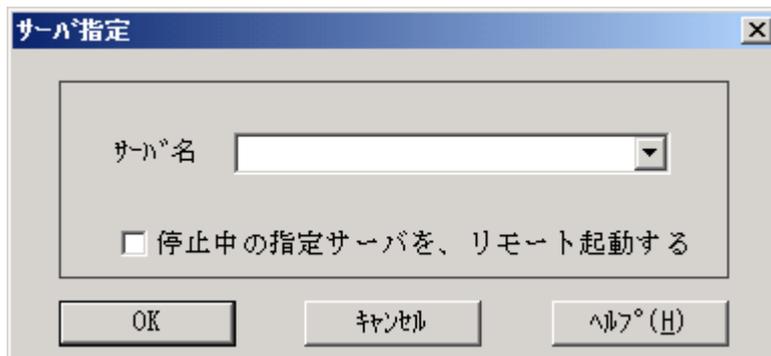


図 9.2-2

②サーバ指定ダイアログのサーバ名のところに、**連動端末A**のサーバ名を入力し、「OK」ボタンを選択して、連動端末Aに接続します。

例：連動端末のサーバ名が、R120B-1の場合、上記サーバ指定で

R120B-1

と入力します。接続したら下記のように表示されます。



図 9.2-3

③もう一度、サーバボタンを選択し、サーバ指定ダイアログを表示させます。



図 9.2-4

④サーバ指定ダイアログのサーバ名のところに、

ESM/PC MAINTE

と入力し、「OK」ボタンを選択すると、以下のメンテナンスダイアログが表示されます。

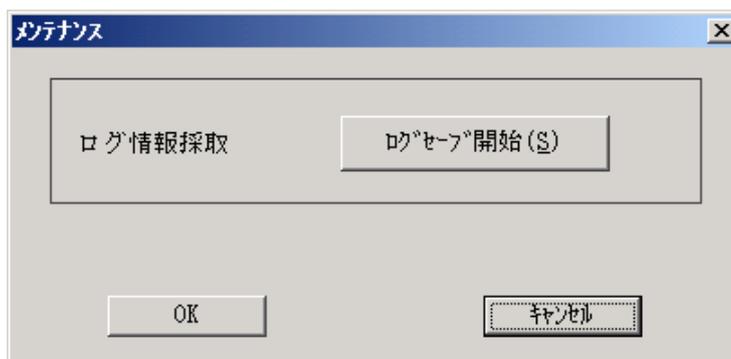


図 9.2-5

- ⑤「ログセーブ開始」ボタンを選択してください。ログ採取が開始されます。ログ採取が終了すると、以下のダイアログが表示されます。

ログ採取正常終了メッセージ

ログ採取正常終了のメッセージです。⑥の作業を実行してください。



図 9.2-6

ログ採取異常終了メッセージ



図 9.2-7

上記のエラーメッセージが表示された場合、既にログファイルが存在することが考えられます。ログ採取に失敗した直後、端末のESMPRO/AC インストールフォルダ¥DATA¥LOG にログファイルが存在する場合は、すべてのファイルを退避するか削除して、操作をやり直してください。

⑥制御端末のエクスプローラを実行して、ログ情報を採取してください。

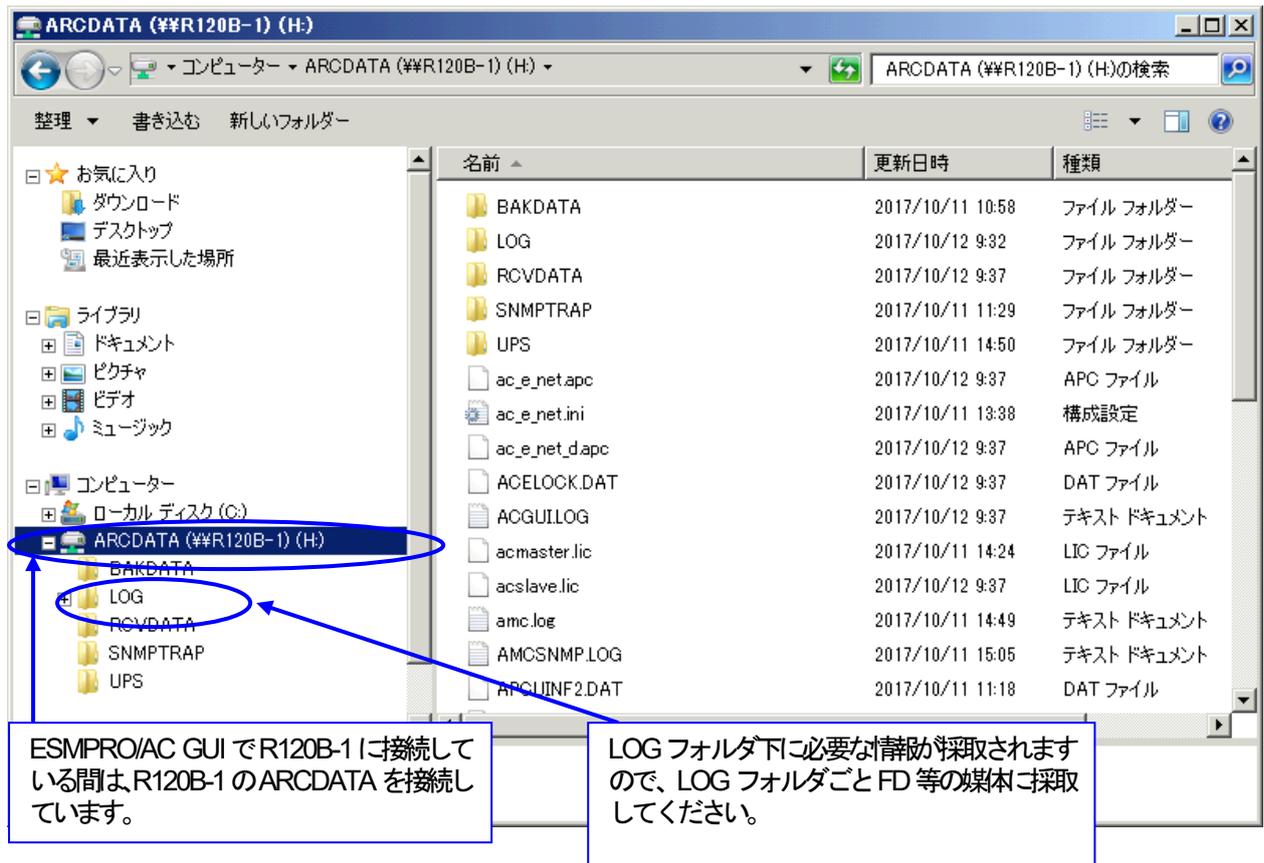


図 9.2-8

※LOGフォルダ下に採取されるファイルは、採取するタイミング/状態によって異なります。スケジュールの有効期間が長い場合、登録するスケジュール項目が多い場合などは、ログファイルのサイズが大きくなります。

■手動によるログ採取方法

- ①エクスプローラ等を使用してください。
- ②制御端末のESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプションのインストールフォルダ\DATAのすべてのファイルを採取してください。
※ネットワークが不調な場合などは、制御端末のエクスプローラを使用して直接採取することもできます。

9.3 イベントログ

◆Windows Server 2012 R2/Windows Server 2012/Windows 8.1/Windows 8 の場合

- ①管理ツールからイベントビューアを起動します。
- ②【Windows ログ】のツリーで Application ログを表示させ、【操作】を指定し、【すべてのイベントの名前をつけて保存】を選択します。
- ③【名前をつけて保存】ダイアログが表示されたら、ファイル名エディットボックスにログセーブファイル名を入力して「保存」ボタンを選択してください。ログがセーブされます。
- ④セーブしたファイルを USB メモリ等の外部記憶媒体に採取してください。
- ⑤同様にして、システム（ツリーでシステムログを指定）のイベントログも採取してください。

◆Windows Server 2022/Windows Server 2019/Windows Server 2016/Windows 10 の場合

- ①【Windows 管理ツール】からイベントビューアを起動します。
- ②【Windows ログ】のツリーで Application ログを表示させ、【操作】を指定し、【すべてのイベントの名前をつけて保存】を選択します。
- ③【名前をつけて保存】ダイアログが表示されたら、ファイル名エディットボックスにログセーブファイル名を入力して「保存」ボタンを選択してください。ログがセーブされます。
- ④セーブしたファイルを USB メモリ等の外部記憶媒体に採取してください。
- ⑤同様にして、システム（ツリーでシステムログを指定）のイベントログも採取してください。

9.4 クラスタシステムのログ採取

クラスタシステム構成で障害が発生した場合は、クラスタを構成するすべてのサーバで障害情報を採取してください。その場合、現用系、待機系の区別を明記しておいてください。

※CLUSTERPRO 製品と ESMPRO/AC 製品を連携して運用している場合、CLUSTERPRO のログ採取機能を使用して、ESMPRO/AC のログを採取することができます。

9.5 ESMPRO/UPSManager のログ採取

ESMPRO/AutomaticRunningController での障害の際は、以下のログ情報の採取もお願いします。

【PowerChute Business Edition による自動転送を行なっている場合】

UPS 関連のログ情報

※UPS 関連ログ情報の採取方法につきましては、ESMPRO/UPSManager の資料をご参照ください。

9.6 PowerChute Business Edition のログ採取

ESMPRO/AC での障害の際は、以下のログ情報の採取もお願いします。

【PowerChute Business Edition による自動運転を行なっている場合】

PowerChute Business Edition のログ情報

※PowerChute Business Edition のログ情報の採取方法につきましては、PowerChute Business Edition の資料をご参照ください。

9.7 バージョン情報

障害発生時はログ以外に、アプリケーションのバージョン情報が必要です。

ESMPRO/AutomaticRunningController のバージョン情報は、以下の手順で取得できます。

- (1) ESMPRO/AutomaticRunningController GUI を起動します。
- (2) メニューバーの「ヘルプ」 → 「バージョン情報」を選択すると、バージョン情報が表示されます。

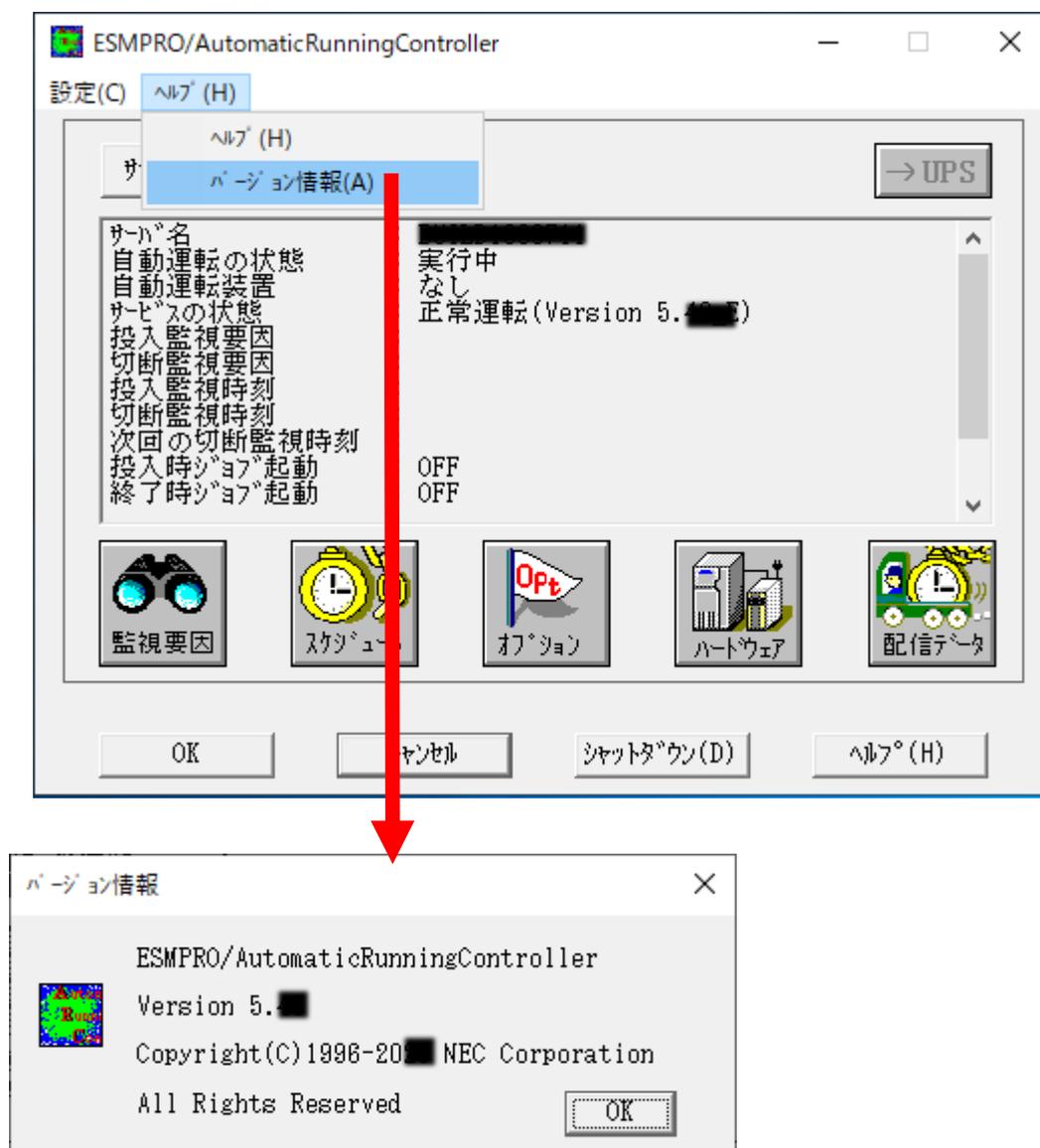


図 9.7-1

9.8 SNMP カードからの情報採取

SmartUPS を LAN 制御している場合、UPS 毎に下記情報を採取してください。

なお、ご使用の Internet Explorer バージョンおよび Internet Explorer の設定によっては、ファイルに保存する手順が一部異なる場合があります。手順の詳細はご使用の Internet Explorer のバージョンおよびヘルプ等をご確認ください。

(A)のログイン画面が表示された場合は「9.8.1 SNMP カードの情報 (A)」を参照してください。

(B)のログイン画面が表示された場合は「9.8.2 SNMP カードの情報 (B)」を参照してください。

(C)のログイン画面が表示された場合は「9.8.3 SNMP カードの情報 (C)」を参照してください。

(A)

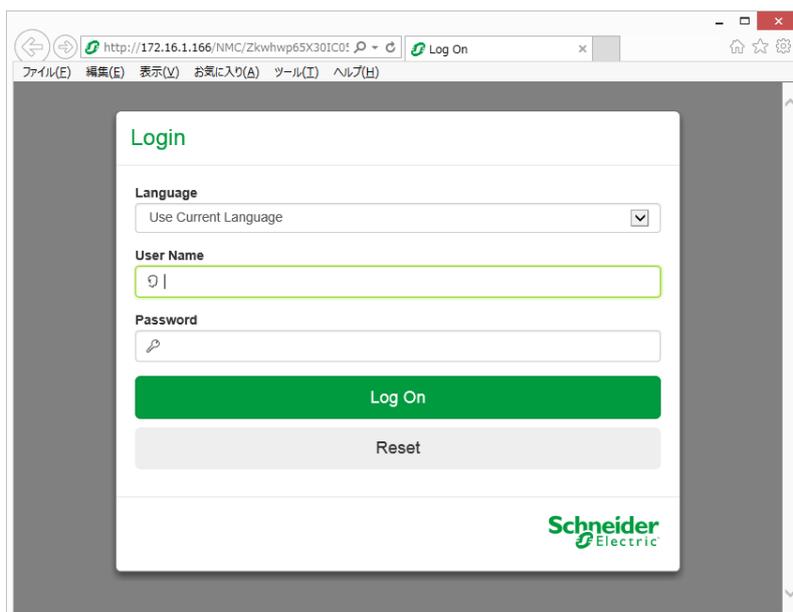


図 9.8-1

(B)

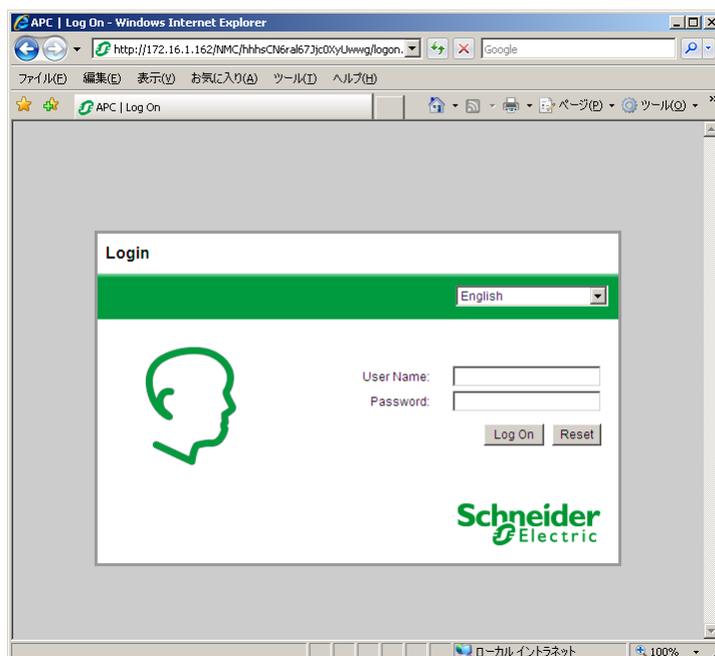


図 9.8-2

(C)

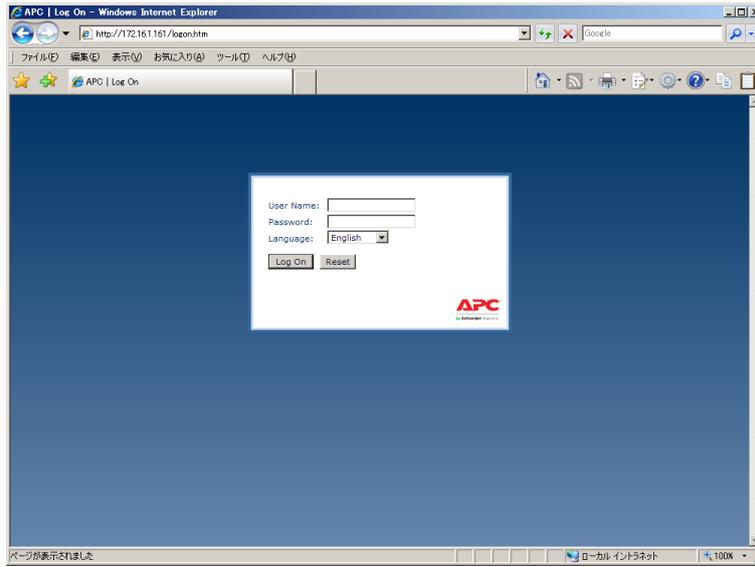


図 9.8-3

9.8.1 SNMPカードの情報 (A)

WebでSNMPカードに接続し、以下の情報を採取します。

- ①ステータス情報
- ②イベントログ情報
- ③データログ
- ④access control情報

(1) SNMPカードへの接続方法

- ①ブラウザを起動し、SNMPカードに接続します

下記のようにSNMPカードのIPアドレスを指定するとSNMPカードのログオン画面が表示されます。(ログを採取するSNMPカードのIPアドレスが172.16.1.166の場合)

<http://172.16.1.166>

ユーザ名とパスワードを入力してログオンしてください。

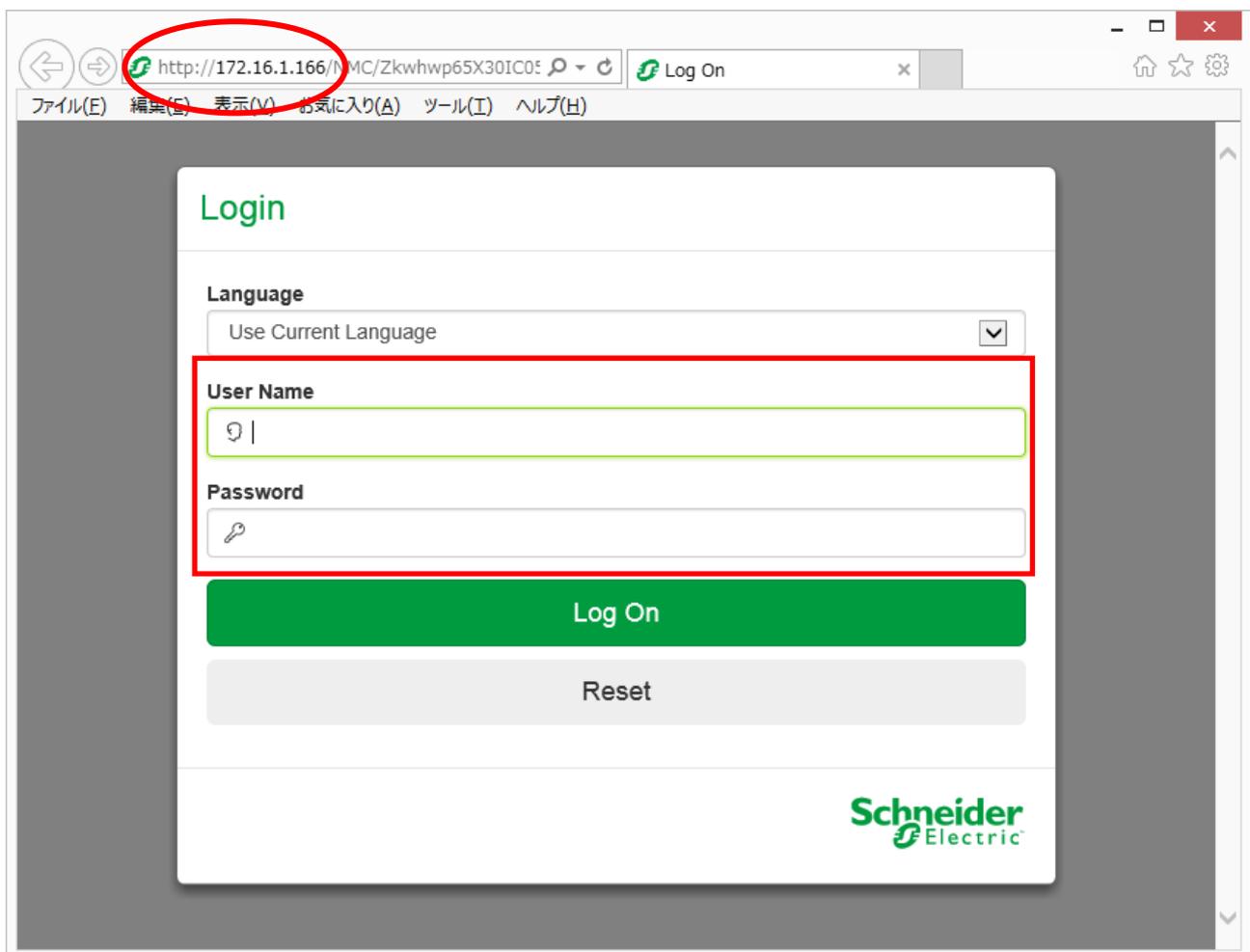


図 9.8-4

(2) 情報の採取方法

①ステータス情報

「Status」メニューから「UPS」を選択します。

下記 Status 情報が表示されますので、ブラウザのメニューから[ファイル]→名前を付けて保存を選択し、ファイルの種類で「Web アーカイブ、単一のファイル (*.mht)」形式または「Web ページ、完全 (*.htm,*html)」形式を指定して保存してください。

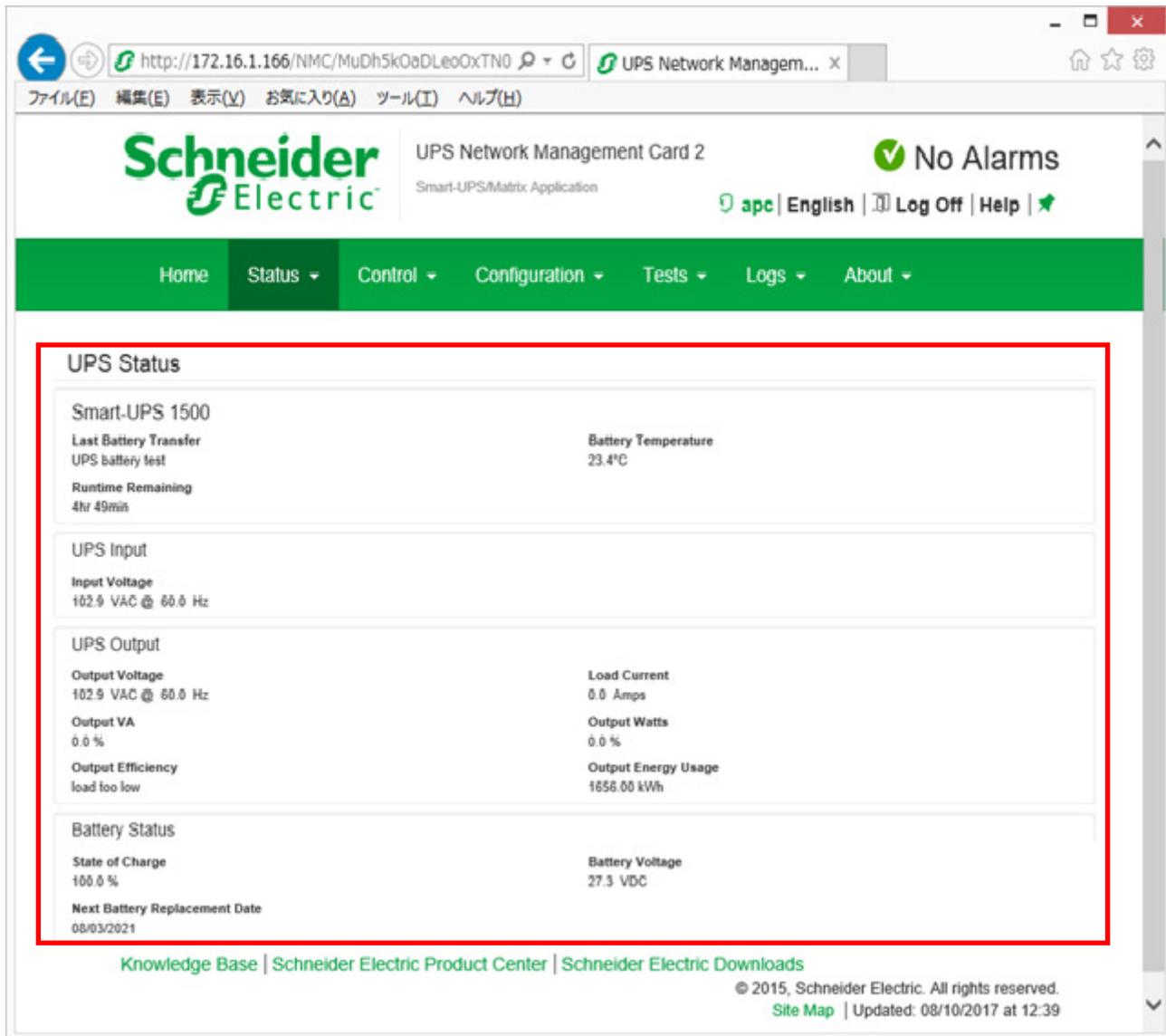


図 9.8-5

②イベントログ情報

「Logs」メニューを選択し、「Events」→「Log」を選択します。

Event Logが表示されますので、画面下のEvent Log Filtering より「Event time」プルダウンメニューから「All Logs」を選択し、「Apply」を選択します。

その後、画面右上のフロッピーディスクアイコンをクリックすると、ダウンロードの確認メッセージが表示されます。

The screenshot shows the Schneider Electric UPS Network Management Card 2 interface. The main content area displays the 'Event Log' with a table of events. A red box highlights a floppy disk icon in the top right corner of the Event Log section. Below the table is the 'Event Log Filtering' section, which includes a radio button for 'Last' (selected) and a dropdown menu for 'Event Time' set to 'All Logs'. A red callout bubble points to the 'All Logs' dropdown with the text '必ず「All Logs」を選択してください'. The 'Apply' button is also circled in red. The interface includes a navigation menu at the top and a footer with copyright information.

Date	Time	User	Event
08/10/2017	16:16:46	apc	Web user 'apc' logged in from 172.16.1.233.
08/10/2017	16:11:46	System	Web user 'apc' logged out from 172.16.1.233.
08/10/2017	16:08:46	apc	Web user 'apc' logged in from 172.16.1.233.
08/10/2017	15:53:41	System	Web user 'apc' logged out from 172.16.1.233.
08/10/2017	15:49:58	apc	Web user 'apc' logged in from 172.16.1.233.
08/10/2017	15:43:52	System	Web user 'apc' logged out from 172.16.1.233.
08/10/2017	15:40:52	apc	Web user 'apc' logged in from 172.16.1.233.
08/10/2017	15:39:30	System	Web user 'apc' logged out from 172.16.1.233.
08/10/2017	15:35:10	apc	Web user 'apc' logged in from 172.16.1.233.
08/10/2017	12:56:17	System	Web user 'apc' logged out from 172.16.1.233.
08/10/2017	12:53:07	apc	Web user 'apc' logged in from 172.16.1.233.
08/10/2017	12:51:21	System	Web user 'apc' logged out from 172.16.1.233.

図 9.8-6

イベントログファイルを開くか保存するか尋ねられますので、「保存」を選択します。

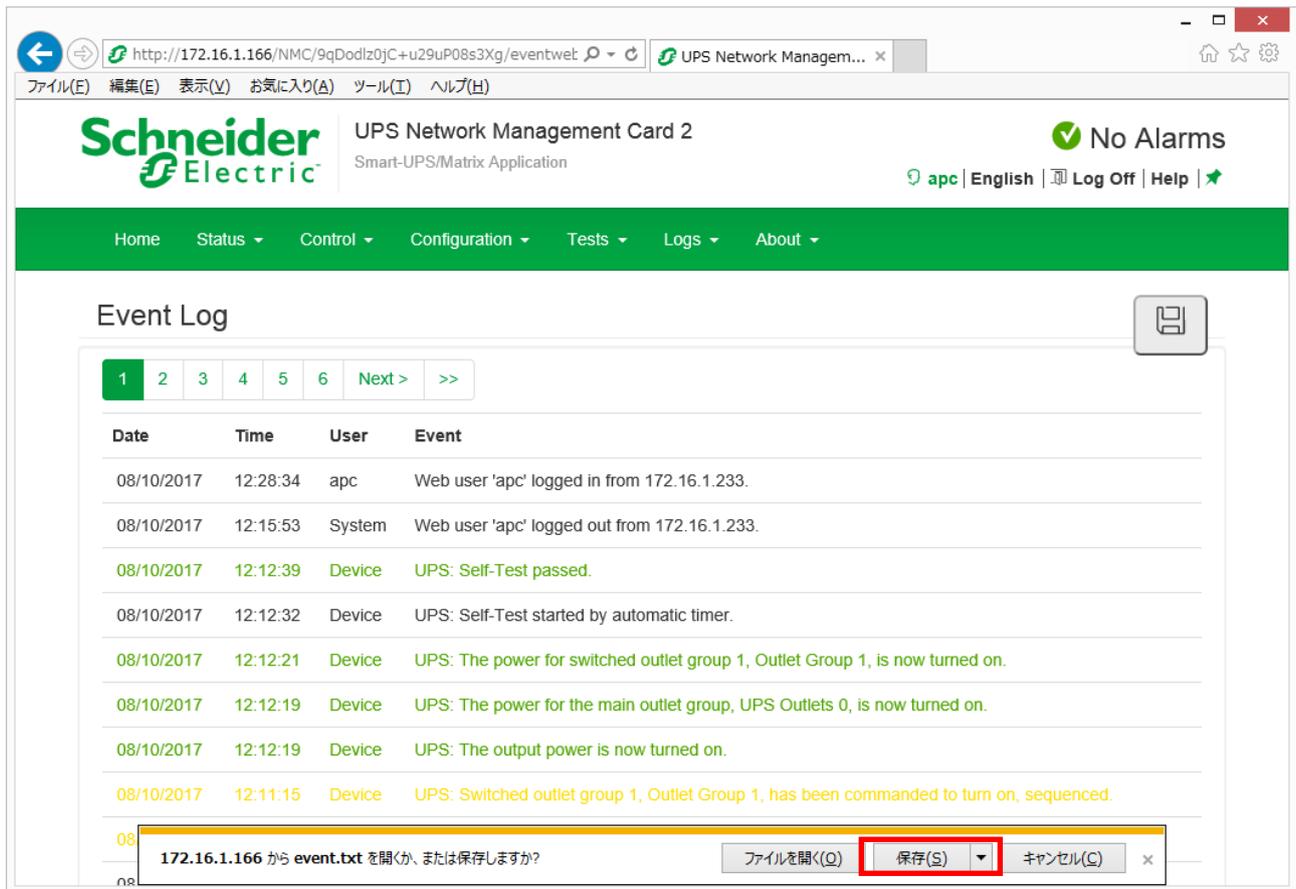


図 9.8-7

複数のUPSのイベントログを取得する場合は、ディレクトリを分けて保存してください。

例) 172.16.1.166 のイベントログを保存する場合、172.16.1.166 ディレクトリを作成し、その配下に保存

172.16.1.166\event.txt

③ データログ情報

「Logs」メニューを選択し、「Data」→「Log」を選択します。

Data Logが表示されますので、「Data time」プルダウンメニューから「All Logs」を選択し、「Apply」を選択します。その後、画面中ほどのフロッピーディスクアイコンをクリックすると、ダウンロードの確認メッセージが表示されます。

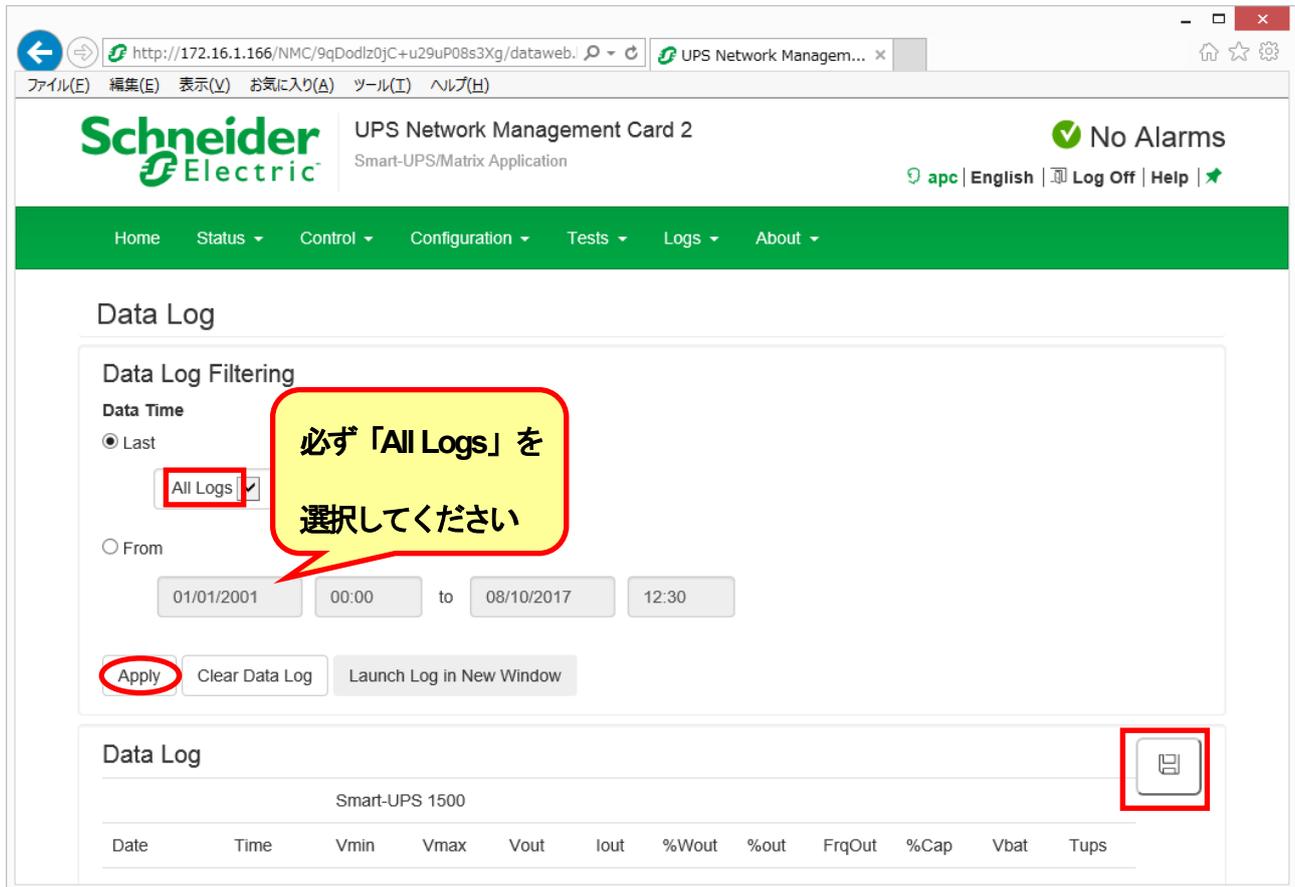


図 9.8-8

データログファイルを開くか保存するか尋ねられますので、「保存」を選択します。

The screenshot shows the Schneider Electric UPS Network Management Card 2 interface. The page title is "UPS Network Management Card 2" and it is identified as a "Smart-UPS/Matrix Application". The status is "No Alarms". The navigation menu includes Home, Status, Control, Configuration, Tests, Logs, and About. The "Data Log" section is active, showing "Data Log Filtering" options. The "Data Time" is set to "Last" with a dropdown menu for "All Logs". There are also options to filter from a specific date and time (01/01/2001 00:00 to 08/10/2017 12:30). Below the filtering options are buttons for "Apply", "Clear Data Log", and "Launch Log in New Window". The "Data Log" section shows "Smart-UPS 1500" and a "Data Log" table. A file dialog box is open at the bottom, asking to save the file "data.txt" from "172.16.1.166". The "Save (S)" button is highlighted with a red box.

複数のUPSのデータログを取得する場合は、ディレクトリを分けて保存してください。

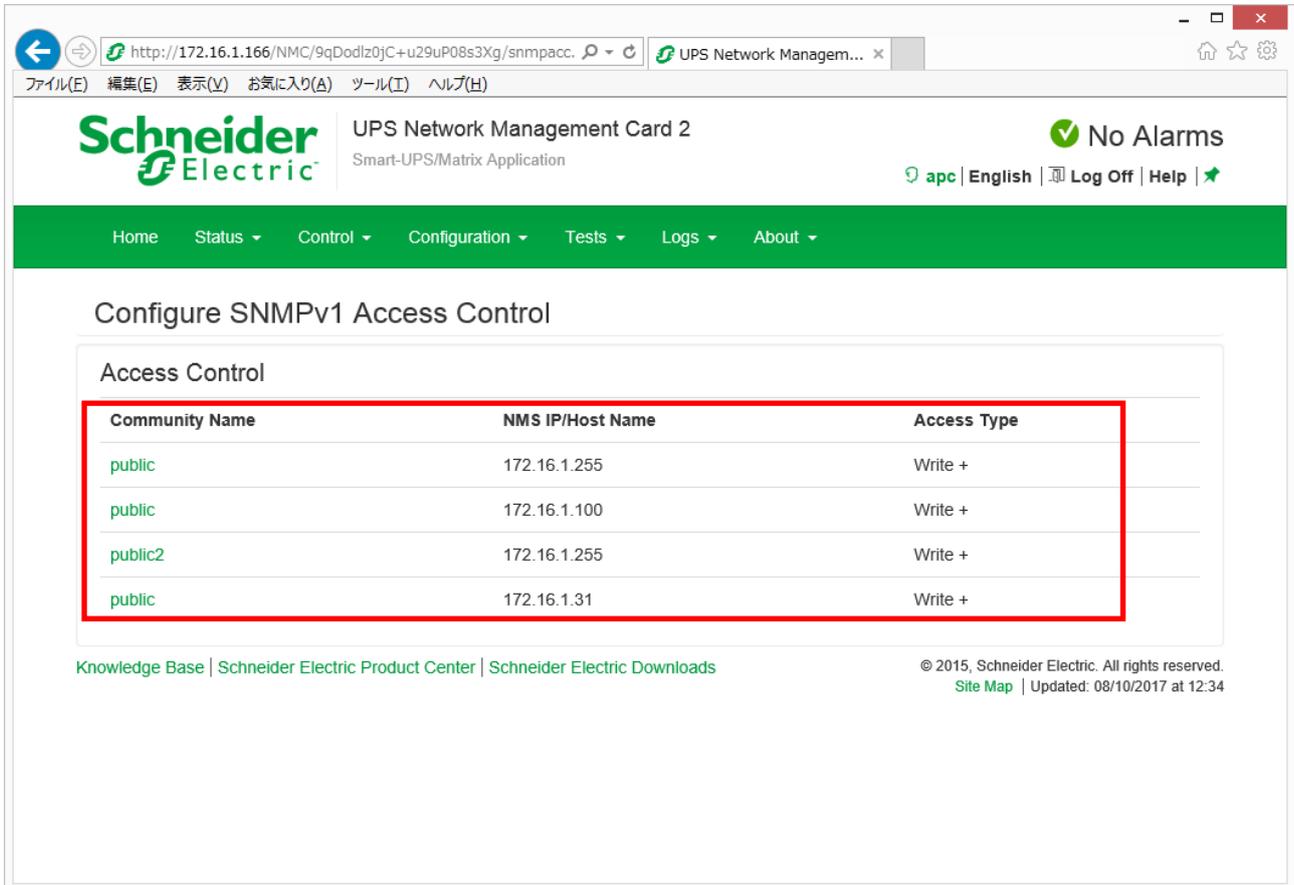
例) 172.16.1.166 のデータログを保存する場合、172.16.1.166 ディレクトリを作成し、その配下に保存

172.16.1.166\data.txt

④access control情報

「Configuration」のメニューを選択し、「Network」→「SNMPv1」→「Access Control」と選択します。

下記Access Control情報が表示されますので、メニューで「ファイル」→名前を付けて保存を選択し、②、③と同様の方法で情報をファイルに保存してください。



The screenshot shows the 'Configure SNMPv1 Access Control' page in the Schneider Electric UPS Network Management Card 2 interface. The page title is 'Configure SNMPv1 Access Control'. Below the title, there is a section titled 'Access Control' containing a table with the following data:

Community Name	NMS IP/Host Name	Access Type
public	172.16.1.255	Write +
public	172.16.1.100	Write +
public2	172.16.1.255	Write +
public	172.16.1.31	Write +

At the bottom of the page, there is a footer with the following text: 'Knowledge Base | Schneider Electric Product Center | Schneider Electric Downloads' on the left, and '© 2015, Schneider Electric. All rights reserved. Site Map | Updated: 08/10/2017 at 12:34' on the right.

9.8.2 SNMPカードの情報 (B)

WebでSNMPカードに接続し、以下の情報を採取します。

- ①ステータス情報
- ②イベントログ情報
- ③データログ
- ④access control情報

(1) SNMPカードへの接続方法

- ①ブラウザを起動し、SNMPカードに接続します

下記のようにSNMPカードのIPアドレスを指定するとSNMPカードのログオン画面が表示されます。(ログを採取するSNMPカードのIPアドレスが172.16.1.162の場合)

<http://172.16.1.162>

ユーザ名とパスワードを入力してログオンしてください。

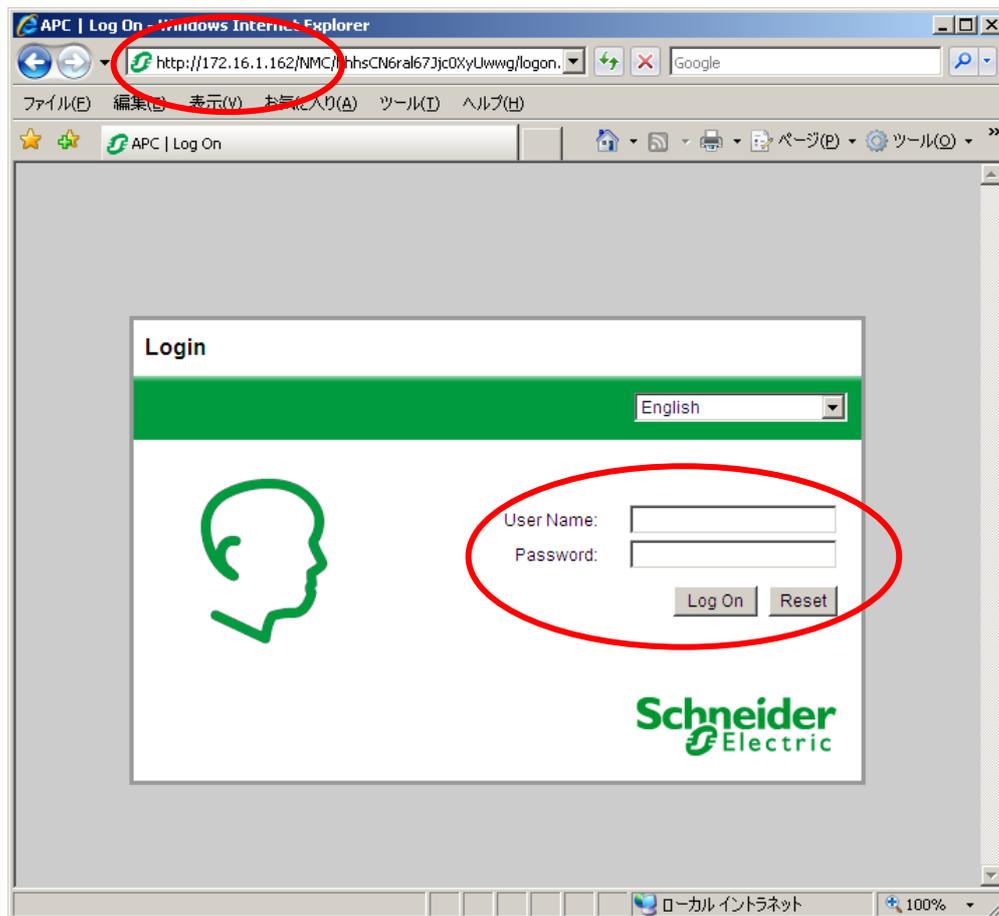


図 9.8-9

(2) 情報の採取方法

①ステータス情報

「Status」メニューから「UPS」を選択します。

下記 Status 情報が表示されますので、ブラウザのメニューから[ファイル]→[名前を付けて保存]を選択し、ファイルの種類で「Web アーカイブ、単一のファイル (*.mht)」形式または「Web ページ、完全 (*.htm,*html)」形式を指定して保存してください。

The screenshot shows the web interface for the APC UPS Network Management Card 2. The browser window title is "APC | UPS Network Management Card 2 - Windows Internet Explorer". The address bar shows the URL "http://172.16.1.162/NMC/8D9RgOW+yN6jyHGkpB1g/ulstat.htm". The page header includes the Schneider Electric logo and the text "UPS Network Management Card 2 Smart-UPS/Matrix Application". There is a "No Alarms" indicator and links for "apc | English | Log Off | Help". A navigation menu includes "Home", "Status", "Control", "Configuration", "Tests", "Logs", and "About". The main content area is titled "Status Smart-UPS X 3000" and contains the following information:

Last Battery Transfer:	Detection of distorted input
Internal Temperature:	27.8°C
Runtime Remaining:	2hr 23min 16sec
UPS Input	
Input Voltage:	100.3 VAC @ 60.0 Hz
UPS Output	
Output Voltage:	100.3 VAC @ 60.0 Hz
Load Current:	6.2 Amps
Output VA:	25.8 %
Output Watts:	25.3 %
Output Efficiency:	94.5 %
Output Energy Usage:	291.26 kWh
Battery Status	
Battery Capacity:	100.0 %
Battery Voltage:	135.8 VDC
Num of External Batteries:	1
Replace Battery Date:	08/31/2017

At the bottom of the page, there are links for "Knowledge Base | Schneider Electric Product Page | Schneider Electric Downloads" and a copyright notice: "© 2012, Schneider Electric. All rights reserved." The browser status bar at the bottom shows "ローカルイントラネット" and "100%" zoom.

図 9.8-10

② イベントログ情報

「Logs」メニューを選択し、「Events」→「Log」を選択します。

Event Logが表示されますので、Event Log Filtering 画面の「Eventtime」プルダウンメニューから「All Logs」を選択し、「Apply」を選択します。

必ず「All Logs」を選択してください

Event Log Filtering

Event Time: Last All Logs From

03/13/2013 00:00 to 03/13/2013 09:42

Date	Time	User	Event
03/13/2013	09:30:47	System	
03/13/2013	09:20:35	apc	
03/13/2013	09:20:27	System	
03/13/2013	09:18:01	Device	UPS: passed via internal operation a self-test.
03/13/2013	09:17:53	Device	UPS: Started a self-test.
03/13/2013	09:17:35	Device	UPS: The power for switched outlet group 3, Outlet Group 3, is now turned on.
03/13/2013	09:17:35	Device	UPS: The power for switched outlet group 2, Outlet Group 2, is now turned on.
03/13/2013	09:17:35	Device	UPS: The power for switched outlet group 1, Outlet Group 1, is now turned on.
03/13/2013	09:16:36	Device	UPS: The output power is now turned on.
03/13/2013	09:16:35	Device	UPS: Switched outlet group 3, Outlet Group 3, has been commanded to turn on, sequenced.
03/13/2013	09:16:35	Device	UPS: Switched outlet group 2, Outlet Group 2, has been commanded to turn on, sequenced.
03/13/2013	09:16:35	Device	UPS: Switched outlet group 1, Outlet Group 1, has been commanded to turn on, sequenced.

1 2 3 4 5 6 Next > >>

Knowledge Base | Schneider Electric Product Page | Schneider Electric Downloads © 2012, Schneider Electric. All rights reserved.

図 9.8-11

「Launch Login New Window」 ボタンを押すと、新しい画面が立ち上がりますので、ブラウザのメニューから「ファイル」→「名前を付けて保存」を選択し、ファイルの種類で「Web アーカイブ、単一のファイル (*.mht)」形式または「Web ページ、完全 (*.htm,*.html)」形式を指定して保存してください。

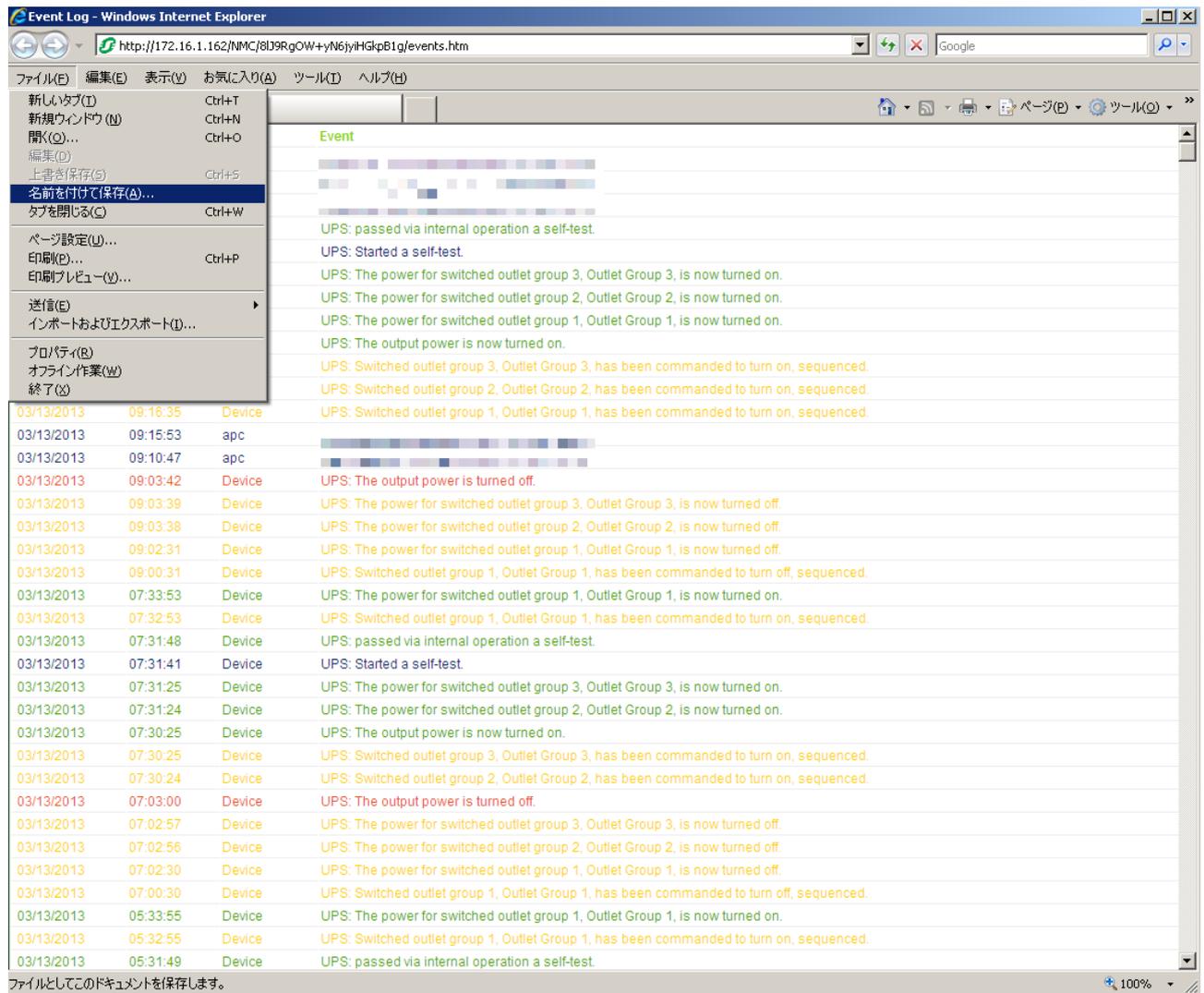


図 9.8-12

③ データログ情報

「Logs」メニューを選択し、「Data」→「Log」を選択します。

Data Logが表示されますので、「Data time」プルダウンメニューから「All Logs」を選択し、「Apply」を選択します。

必ず「All Logs」を選択してください

Apply

Date	Time	Vmin	Vmax	Vout	Iout	%Wout	%out	FrqOut	%Cap	Vbat	Tups
03/13/2013	10:13:46	99.28	100.37	100.01	6.18	25.32	25.79	60.00	100.00	135.84	27.71
03/13/2013	10:03:46	99.75	101.82	100.07	6.15	25.28	25.75	60.00	100.00	135.81	27.78
03/13/2013	09:53:46	99.64	101.00	100.90	6.12	25.27	25.77	60.00	100.00	135.81	27.85
03/13/2013	09:43:46	99.31	100.60	100.17	6.15	25.23	25.71	60.00	100.00	135.81	27.82
03/13/2013	09:33:45	97.82	100.28	99.92	6.15	25.26	25.73	60.00	100.00	135.81	27.82
03/13/2013	09:23:45	96.20	102.31	98.85	6.46	26.22	26.67	60.00	99.35	135.84	27.75
03/13/2013	09:13:45	101.53	103.32	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.90	27.48
03/13/2013	09:03:45	99.31	102.81	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.84	27.42
03/13/2013	08:53:45	99.65	101.07	100.32	6.12	25.23	25.72	60.00	100.00	135.90	27.39
03/13/2013	08:43:45	100.03	101.21	100.32	6.15	25.27	25.76	60.00	100.00	135.96	27.22
03/13/2013	08:33:45	99.10	101.07	100.85	6.09	25.14	25.64	60.00	100.00	135.96	27.21
03/13/2013	08:23:45	99.57	100.92	99.75	6.15	25.17	25.66	60.00	100.00	135.93	27.34

図 9.8-13

「LaunchLoginNewWindow」 ボタンを押すと、新しい画面が立ち上がりますので、ブラウザのメニューから[ファイル] - [名前を付けて保存]を選択し、ファイルの種類で「Web アーカイブ、単一のファイル (*.mht) 」形式または「Web ページ、完全 (*.htm,*.html) 」形式を指定して保存してください。

The screenshot shows a web browser window with the following data table:

		Vmin	Vmax	Vout	Iout	%Wout	%out	FrqOut	%Cap	Vbat	Tups
03/13/2013	08:33:45	99.28	100.37	100.01	6.18	25.32	25.79	60.00	100.00	135.84	27.71
03/13/2013	08:23:45	99.75	101.82	100.07	6.15	25.28	25.75	60.00	100.00	135.81	27.78
03/13/2013	08:13:45	99.64	101.00	100.90	6.12	25.27	25.77	60.00	100.00	135.81	27.85
03/13/2013	08:03:45	99.31	100.60	100.17	6.15	25.23	25.71	60.00	100.00	135.81	27.82
03/13/2013	07:53:45	99.82	100.28	99.92	6.15	25.26	25.73	60.00	100.00	135.81	27.82
03/13/2013	07:43:45	99.20	102.31	98.85	6.46	26.22	26.67	60.00	99.35	135.84	27.75
03/13/2013	07:33:45	99.15	103.32	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.90	27.48
03/13/2013	07:23:45	99.31	102.81	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.84	27.42
03/13/2013	07:13:45	99.65	101.07	100.32	6.12	25.23	25.72	60.00	100.00	135.90	27.39
03/13/2013	07:03:45	99.03	101.21	100.32	6.15	25.27	25.76	60.00	100.00	135.96	27.22
03/13/2013	06:53:45	99.10	101.07	100.85	6.09	25.14	25.64	60.00	100.00	135.96	27.21
03/13/2013	06:43:45	99.57	100.92	99.75	6.15	25.17	25.66	60.00	100.00	135.93	27.34
03/13/2013	06:33:45	100.00	101.01	100.82	6.12	25.19	25.69	60.00	100.00	135.93	27.32
03/13/2013	06:23:45	100.31	101.75	100.50	6.12	25.15	25.66	60.00	100.00	135.93	27.31
03/13/2013	06:13:45	100.65	101.90	101.18	6.09	25.21	25.73	60.00	100.00	135.93	27.33
03/13/2013	06:03:45	100.29	103.45	100.93	6.31	26.10	26.60	60.00	99.89	135.90	27.40
03/13/2013	05:53:45	100.18	103.54	103.39	2.40	9.98	10.44	60.00	99.07	135.93	27.37
03/13/2013	05:43:45	102.57	103.59	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.93	27.33
03/13/2013	05:33:45	102.51	104.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.93	27.28
03/13/2013	05:23:45	99.12	104.09	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.93	27.28
03/13/2013	05:13:45	99.03	99.82	99.53	6.18	25.19	25.68	60.00	100.00	135.93	27.30
03/13/2013	05:03:45	99.03	100.07	99.73	6.18	25.22	25.71	60.00	100.00	135.93	27.30
03/13/2013	04:53:45	99.34	100.18	99.67	6.18	25.21	25.71	60.00	100.00	135.93	27.31
03/13/2013	04:43:45	98.64	100.31	99.78	6.15	25.21	25.71	60.00	100.00	135.93	27.30
03/13/2013	04:33:45	99.46	100.29	100.00	6.15	25.19	25.69	60.00	100.00	135.96	27.24
03/13/2013	04:23:45	99.46	100.25	99.73	6.15	25.18	25.67	60.00	100.00	135.96	27.19
03/13/2013	04:13:45	99.20	100.53	100.09	6.15	25.23	25.73	60.00	100.00	135.93	27.39
03/13/2013	04:03:45	99.31	102.37	100.12	6.37	26.17	26.66	60.00	99.88	135.90	27.43
03/13/2013	03:53:45	100.96	103.89	102.35	2.43	9.99	10.46	60.00	99.06	135.90	27.38
03/13/2013	03:43:45	103.37	104.09	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.93	27.35
03/13/2013	03:33:45	102.96	103.98	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.93	27.33
03/13/2013	03:23:45	100.20	103.68	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	135.93	27.35
03/13/2013	03:13:45	100.14	101.23	100.40	6.15	25.25	25.75	60.00	100.00	135.90	27.39
03/13/2013	03:03:45	100.26	100.92	100.59	6.12	25.19	25.70	60.00	100.00	135.90	27.38
03/13/2013	02:53:45	99.96	100.96	100.70	6.12	25.23	25.74	60.00	100.00	135.93	27.36
03/13/2013	02:43:45	99.81	100.96	100.59	6.12	25.17	25.67	60.00	100.00	135.93	27.36
03/13/2013	02:33:45	100.03	100.90	100.87	6.09	25.21	25.72	60.00	100.00	135.93	27.36
03/13/2013	02:23:45	99.67	100.65	100.25	6.12	25.19	25.69	60.00	100.00	135.93	27.37

図 9.8-14

※②Logs → Events → Log、③Logs → Data → Log とともに、以下の方法で採取してください。
(保存方法その1)

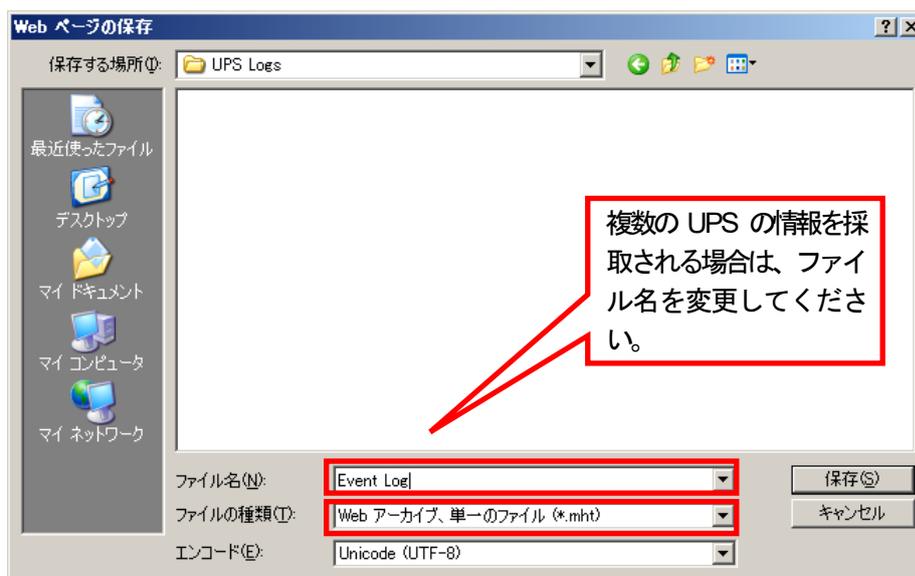


図 9.8-15

「Web アーカイブ、単一のファイル (*.mht)」形式で保存する場合は、保存されるファイルが*.mhtファイルのみになりますので、通常はこちらを推奨致します。ただし、複数のUPSに関する情報を採取される場合は、ファイル名の頭に識別情報を付加するなどして、デフォルトのファイル名を変更して保存してください。

(保存方法その2)

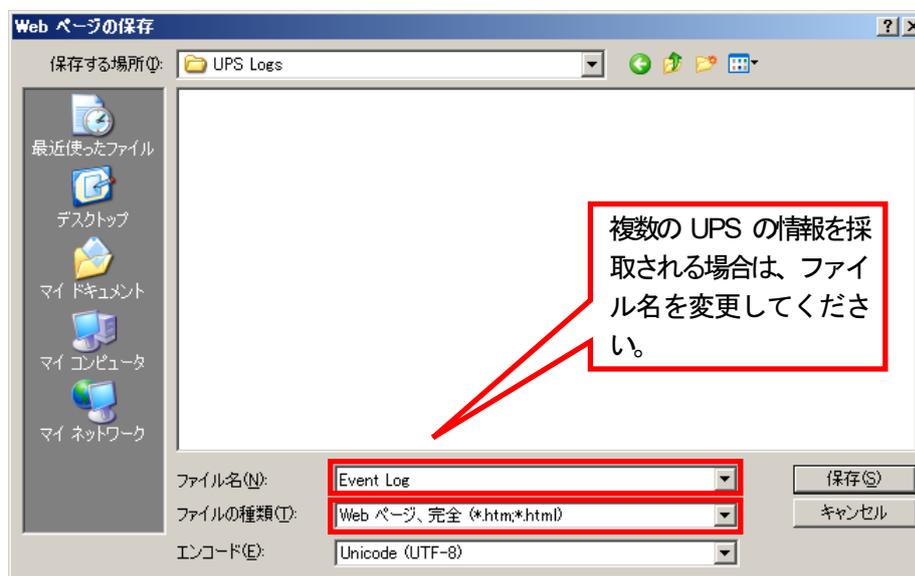


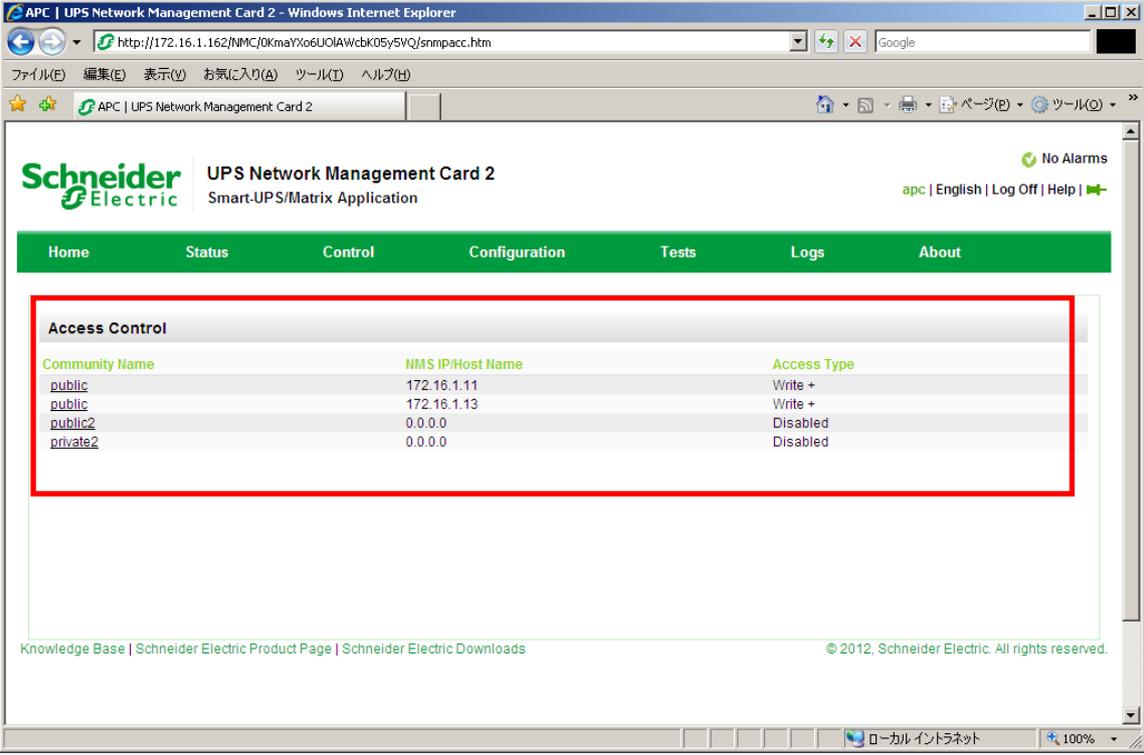
図 9.8-16

「Webページ、完全 (*.htm*.html)」形式で保存する場合は、htmファイルとEventLog.filesという名前のフォルダが作成されますので、その両方を送付してください。こちらについても、複数のUPSについて採取される場合は、ファイル名の頭に識別情報を付加するなどして、デフォルトのファイル名を変更して保存してください。

④access control情報

「Configuration」のメニューを選択し、「Network」→「SNMPV1」→「Access Control」と選択します。

下記Access Control情報が表示されますので、メニューで「ファイル」→「名前を付けて保存」を選択し、②、③と同様の方法で情報をファイルに保存してください。



The screenshot shows the web interface for the Schneider Electric UPS Network Management Card 2. The page title is "UPS Network Management Card 2" and it is identified as a "Smart-UPS/Matrix Application". The navigation menu includes Home, Status, Control, Configuration, Tests, Logs, and About. The "Access Control" section is active, displaying a table with the following data:

Community Name	NMS IP/Host Name	Access Type
public	172.16.1.11	Write -
public	172.16.1.13	Write -
public2	0.0.0.0	Disabled
private2	0.0.0.0	Disabled

図 9.8-17

9.8.3 SNMPカードの情報 (C)

WebでSNMPカードに接続し、以下の情報を採取します。

- ①ステータス情報
- ②イベントログ情報
- ③データログ
- ④access control情報

(1) SNMPカードへの接続方法

- ①ブラウザを起動し、SNMPカードに接続します

下記のようにSNMPカードのIPアドレスを指定するとSNMPカードのログオン画面が表示されます。(ログを採取するSNMPカードのIPアドレスが172.16.1.145の場合)

<http://172.16.1.145>

ユーザ名とパスワードを入力してログオンしてください。

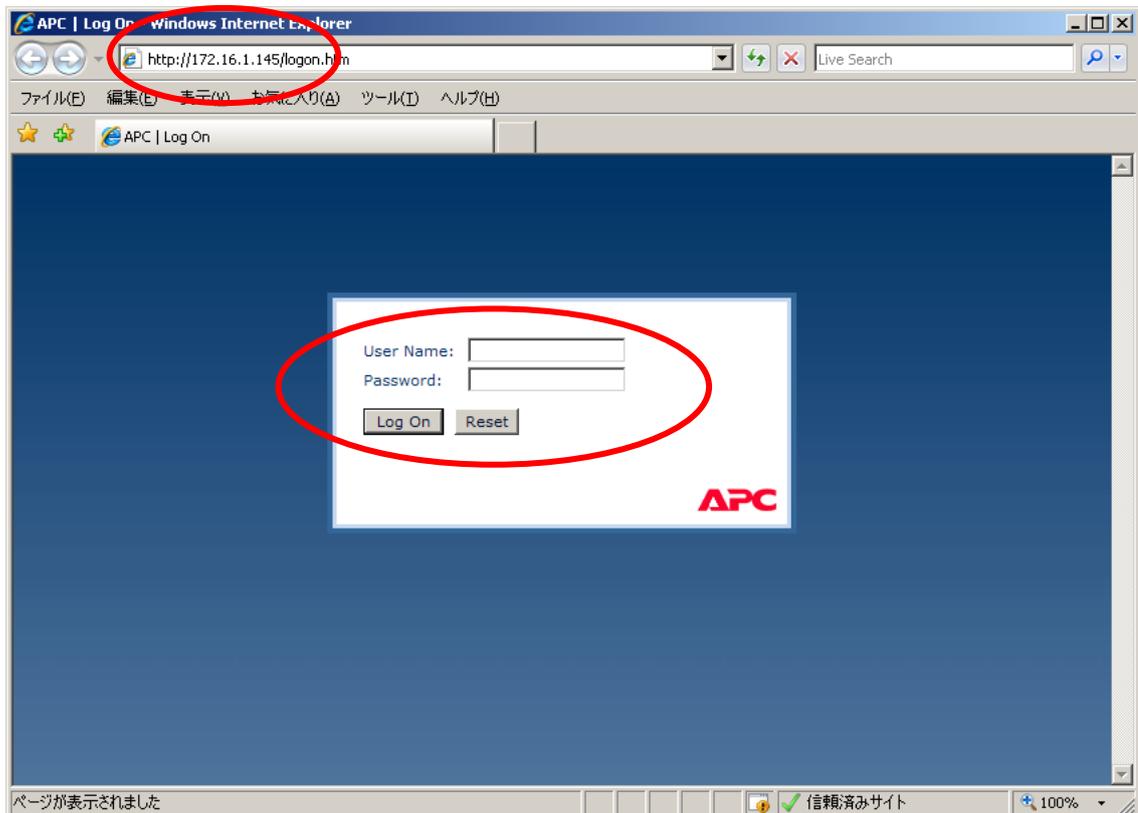


図 9.8-18

(2) 情報の採取方法

①ステータス情報

「UPS」タブを選択し、「Status」を選択します。

下記 Status 情報が表示されますので、ブラウザのメニューから[ファイル]→名前を付けて保存を選択し、ファイルの種類で「Web アーカイブ、単一のファイル (*.mht)」形式または「Web ページ、完全 (*.htm,*html)」形式を指定して保存してください。

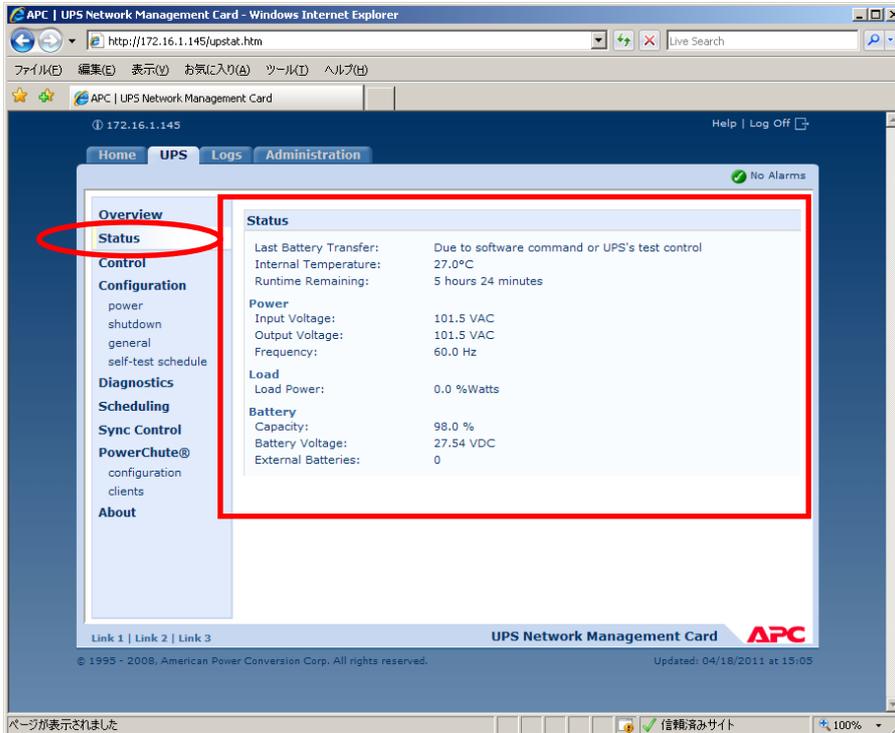


図 9.8-19

② イベントログ情報

「Logs」タブを選択し、「Events → log」を選択します。

Eventlogが表示されますので、Eventlog (Filtering) 画面の「Eventtime」プルダウンメニューから「All Logs」を選択し、「Apply」を選択します。

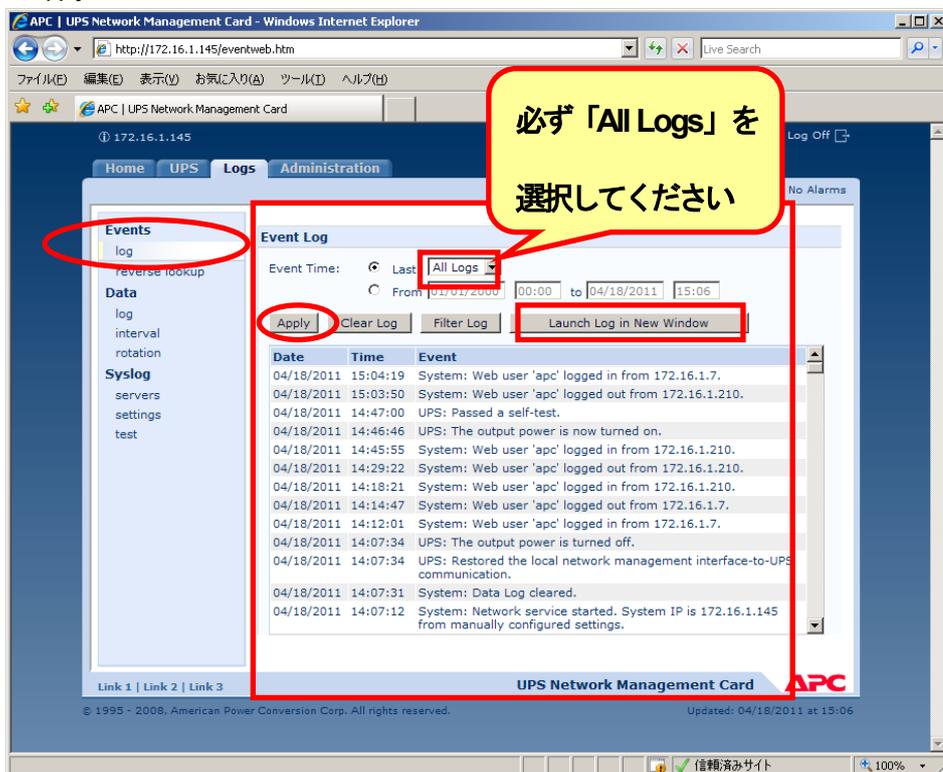


図 9.8-20

「Launch Login New Window」 ボタンを押すと、新しい画面が立ち上がりますので、ブラウザのメニューから「ファイル」メニューを開き、名前を付けて保存を選択し、ファイルの種類で「Web アーカイブ、単一のファイル (*.mht)」形式または「Web ページ、完全 (*.htm,*.html)」形式を指定して保存してください。

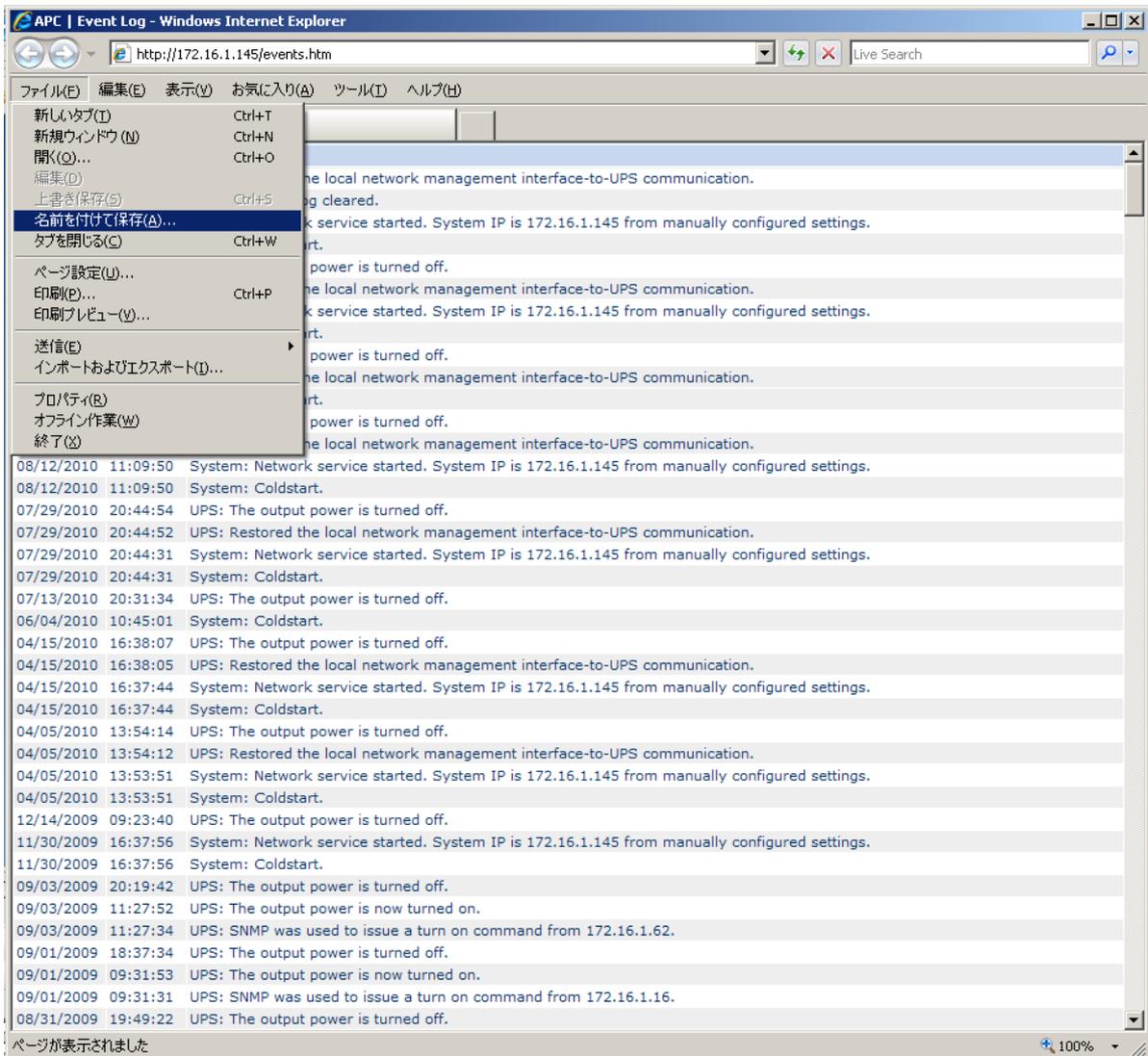


図 9.8-21

③ データログ情報

「Logs」タブを選択し、「Data → log」を選択します。

Data logが表示されますので、「Data time」プルダウンメニューから「All Logs」を選択し、「Apply」を選択します。

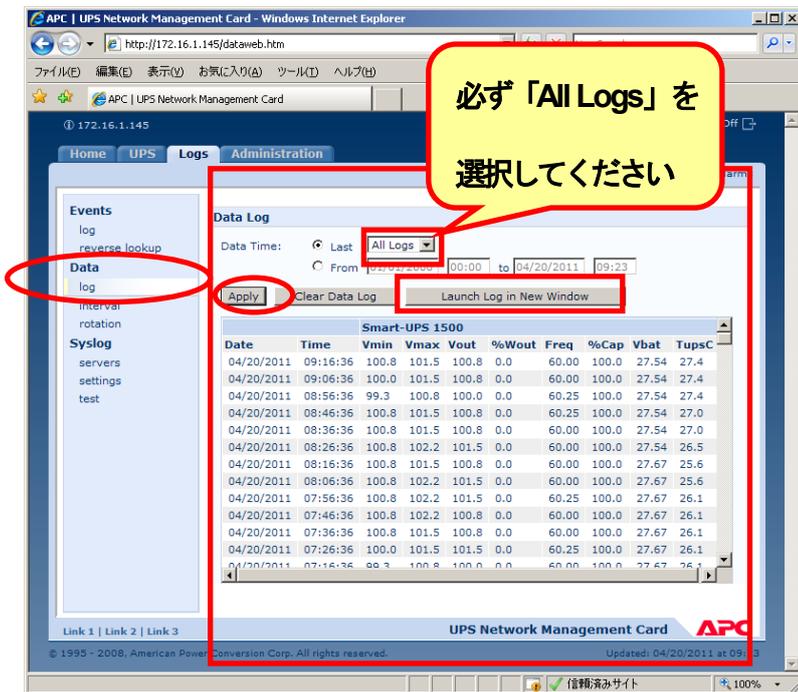


図 9.8-22

「LaunchLoginNewWindow」ボタンを押すと、新しい画面が立ち上がりますので、ブラウザのメニューから[ファイル]→[名前を付けて保存]を選択し、ファイルの種類で「Web アーカイブ、単一のファイル (*.mht)」形式または「Web ページ、完全 (*.htm,*.html)」形式を指定して保存してください。

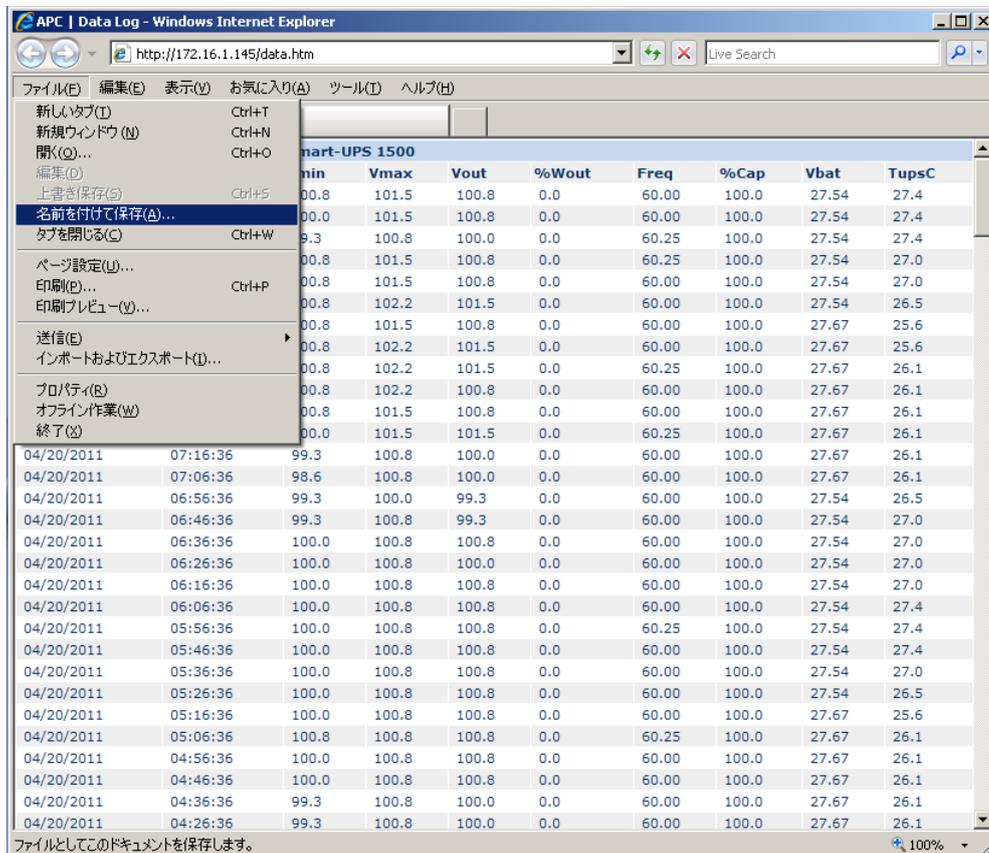


図 9.8-23

※②Logs → Events → log、③Logs → Data → log とともに、以下の方法で採取してください。
(保存方法その1)

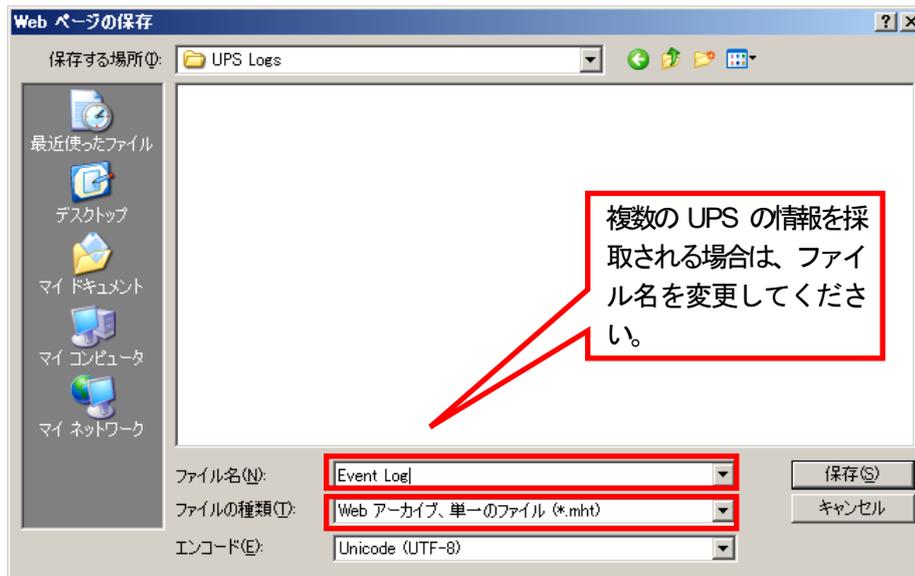


図 9.8-24

「Web アーカイブ、単一のファイル (*.mht)」形式で保存する場合は、保存されるファイルが*.mhtファイルのみになりますので、通常はこちらを推奨致します。ただし、複数のUPSに関する情報を採取される場合は、ファイル名の頭に識別情報を付加するなどして、デフォルトのファイル名を変更して保存してください。

(保存方法その2)

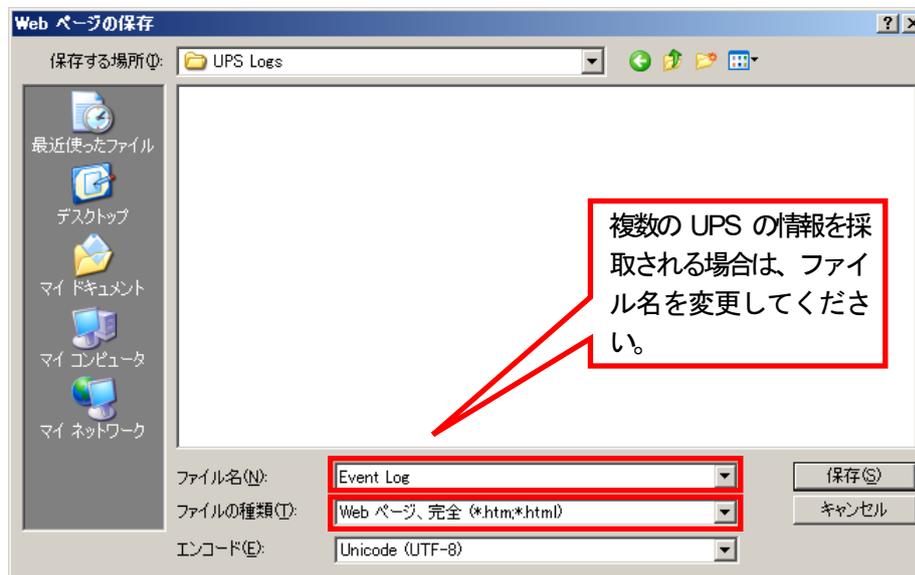


図 9.8-25

「Webページ、完全 (*.htm*.html)」形式で保存する場合は、htmファイルとEventLog.filesという名前のフォルダが作成されますので、その両方を送付してください。こちらについても、複数のUPSについて採取される場合は、ファイル名の頭に識別情報を付加するなどして、デフォルトのファイル名を変更して保存してください。

④access control情報

「Administration」タブを選択し、「Network」→「access control」を選択します。

下記Access Control情報が表示されますので、ブラウザのメニューから[ファイル]→名前を付けて保存を選択し、ファイルの種類で「Web アーカイブ、単一のファイル (*.mht)」形式または「Web ページ、完全 (*.htm,*html)」形式を指定して保存してください。

The screenshot shows the 'Administration' tab selected in the 'Network' section. The 'Access Control' table is highlighted with a red box. The table lists four entries with 'public' as the community name and various NMS IP addresses and access types. The 'access control' option in the left-hand navigation menu is circled in red.

Community Name	NMS IP/Host Name	Access Type
public	172.16.1.21	Write +
public	172.16.1.16	Write +
public	172.16.1.22	Disabled
public	172.16.1.66	Disabled

図 9.8-26

9.9 Collect ログの採取

ESMPRO/ACに必要なログを採取するには「装置情報収集ユーティリティ」が必要です。装置情報収集ユーティリティは使用しているサーバ装置のEXPRESSBUILDER または StarterPack に格納されています。または、下記サイトからもダウンロード可能です。

- ・装置情報収集ユーティリティ (Windows 版 Ver 3.3.0)
<<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010110130>>

装置情報収集ユーティリティをインストールした後、下記手順にて Collect ログを採取してください。

- ・ESMPRO/ServerAgentService または ESMPRO/ServerAgent がインストールされている場合は、Collect ログは、ESMPRO/ServerAgentService または ESMPRO/ServerAgent の「collect.exe」を実行します。collect.exe は ESMPRO/ServerAgentService、ESMPRO/ServerAgent インストールフォルダ（デフォルトは¥ESM）の¥tool フォルダ配下にあります。
collect.exe により採取される情報は、ESMPRO/ServerAgentService、ESMPRO/ServerAgent インストールフォルダ下の「¥tool¥log」フォルダに圧縮ファイル(zip 形式)で格納されます。
- ・ESMPRO/ServerAgentService または ESMPRO/ServerAgent がインストールされていない場合は、装置情報収集ユーティリティのインストールフォルダ配下の「¥stdcd¥collect.exe」を実行してください。採取される情報は「¥stdcd¥log」フォルダに圧縮ファイル(zip 形式)で格納されます。

上記内容の詳細について、装置情報収集ユーティリティに添付している readme.txt をご参照ください。

第10章 UPS 交換後の設定

ESMPRO/AC Enterprise を導入していない場合、ESMPRO/AutomaticRunningController の設定変更等は必要ありません。ESMPRO/AutomaticRunningController と連携を行っている PowerChute Business Edition のインストールガイドの「UPS 交換後の設定」を参照してください。

第 1 1 章 用語集

No	用語	説明
1	ESMPRO Platform Management Kit	ESMPRO の各種ソフトウェアを格納したソフトウェアパッケージ。
2	ESMPRO/AutomaticRunningController	無停電電源装置(UPS)を使用したサーバの自動電源制御機能を提供するソフトウェア。
3	ESMPRO/AC Enterprise	SNMP カード付き無停電電源装置(UPS)と接続した複数のサーバや共有ディスクの電源管理機能を提供するソフトウェア。本ソフトウェアは「ESMPRO/AutomaticRunningController」のオプションパッケージ。
4	ESMPRO/AC Advance	無停電電源装置(UPS)を接続しない複数のサーバの自動電源制御機能を提供するソフトウェア。本ソフトウェアは「ESMPRO/AutomaticRunningController」のオプションパッケージ。
5	ESMPRO/AC Advance マルチサーバオプション	「ESMPRO/AC Advance」サーバ管理機能のオプションパッケージ。
6	ESMPRO/AC Enterprise(クライアント)	無停電電源装置(UPS)とサーバを監視する機能を持つパッケージ。
7	ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション	「ESMPRO/AC Enterprise」サーバ管理機能のオプションパッケージ。
8	ESMPRO/AC MSCS オプション	WSFC(Windows Server Failover Cluster)またはMSCS(Microsoft Cluster Service)によるクラスタ環境の電源管理機能を提供するソフトウェア。本ソフトウェアは「ESMPRO/AutomaticRunningController」+「ESMPRO/AC Enterprise」環境のオプションパッケージ。
9	ESMPRO/ServerManager	ネットワーク上のサーバを管理・監視するサーバ管理ソフトウェア。
10	ESMPRO Extension for Windows Admin Center	Windows Admin Center に対して Express5800 サーバのハードウェア情報を表示するためのプラグイン。
11	ESMPRO/ServerAgent	ESMPRO/ServerManager と連携し、サーバの監視および各種情報を取得するためのソフトウェア。
12	ESMPRO/ServerAgentService	ESMPRO/ServerAgent の後継ソフトウェア。
13	ExpressUpdate Agent	管理対象サーバにてファームウェア、ソフトウェアなどのモジュールを ESMPRO/ServerManager によってリモートから更新することを可能とするソフトウェア。
14	WebSAM iStorageManager	ストレージリソースを効率的に一元管理し、構成表示、状態監視、障害通知を行うソフトウェア。
15	Windows Admin Center	Microsoft が提供する Web ブラウザベースのサーバ管理ソフトウェア。
16	BMC	Baseboard Management Controller システムの状態や OS に依存することなく、ハードウェアの状態・異常を監視できる Embedded controller。
17	EXPRESSSCOPE エンジン	BMC を用いて実現している NEC 製管理用コントローラ。
18	BMC (EXPRESSSCOPE エンジン)	EXPRESSSCOPE エンジン 3 搭載の装置
19	BMC (その他)	以下以外の装置。 ・BMC (EXPRESSSCOPE エンジン) ・iLO ・vPro

20	iLO	Integrated Lights-Out 標準インターフェース仕様のIPMI2.0に準拠してハードウェアを監視するコントローラ。
21	vPro	インテルの企業向けプラットフォーム・ブランド (Intel® vPro™テクノロジー)。
22	iAMT	Intel® Active Management Technology vPro を構成する主要機能の1つで、リモート管理をコントロールする技術。
23	SOL	Serial Over LAN Serial に出力されるデータをBMC がUDP Packet 化してLAN 経由で送信する機能。
24	WS-Man	Web Service Management IT システム全体の管理情報にアクセスするための共通手段を提供する技術仕様。
25	クラシックモード	ESMPRO/ServerManager Ver.7.12 から起動する ESMPRO/ServerManager Ver.6 相当のユーザーインターフェイス。 サーバの詳細情報表示やESMPRO/ServerManager の環境設定を行う。
26	コンポーネント	ESMPRO/ServerManager 上で管理する装置。
27	システム管理	ESMPRO/ServerManager でSNMP (ESMPRO/ServerAgent)/WS-Man を使用してコンポーネントを管理すること。
28	ダッシュボード	さまざまなコンポーネントの状態や詳細情報を統合して表示する管理画面。
29	ライセンスキー	ESMPRO のソフトウェアのライセンスを登録するためのキー。
30	インポート	ESMPRO インストールツールのライセンス・バージョン管理において ライセンスキーをソフトウェアに送信し、ライセンスを登録すること。
31	エクスポート	ESMPRO インストールツールのライセンス・バージョン管理において ソフトウェアに登録されたライセンスキーを取得すること。
32	WebSAM Alert Manager	ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentService、 ESMPRO/ServerAgent などの関連製品の通報機能を拡張するソフトウェア。
33	iStorage (M シリーズ) ESMPRO/ServerManager 連携モジュール	ESMPRO/ServerManager からiStorage の監視をするために必要な連携 ソフトウェア。
34	[まとめて設定]	ESMPRO/ServerManager が管理しているコンポーネントの一括設定お よび設定のダウンロードを行う拡張機能。 以下の設定が可能です。 ・ AC Management Console で電源管理設定を行った Express サーバと 無停電電源装置 (UPS) の設定 ・ 以下のソフトウェアがインストールされている装置の通報設定。 - ESMPRO/ServerAgent(Windows) - ESMPRO/ServerAgentService(Windows) - ESMPRO/ServerAgent for GuestOS(Windows) - 他社機版 ESMPRO/ServerAgent(Windows) 以下のソフトウェアがインストールされている装置のリソース監視設 定。

		<ul style="list-style-type: none"> - ESMPRO/ServerAgentService(Windows) - ESMPRO/ServerAgentService(Linux) <p>本ガイドでは、まとめて設定機能を[まとめて設定]と記載。</p>
35	拡張機能	<p>ESMPRO/ServerManager では、拡張機能として以下の機能を提供。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イベントトリガーアクション ・ [まとめて設定] <p>拡張機能を使用するには、ESMPRO/ServerManager 拡張機能 マネージャライセンスおよび、管理対象機器台数に応じて ESMPRO/ServerManager 拡張機能ノードライセンスが必要。詳細は「ESMPRO/ServerManager Ver.7.12 インストールガイド (Windows)」を参照してください。</p>
36	Microsoft Teams	米国 Microsoft Corporation が提供するコミュニケーションツール。
37	イベントトリガーアクション	<p>ESMPRO/ServerManager が受信したアラートを契機に、指定するアクションを実行する拡張機能。</p> <p>指定可能なアクションは以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ メール通報 ・ Microsoft Teams 通報

表 11-1